

科目名	言語表現論		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

*参加型のアクティブラーニングで授業を進めます。

社会で求められているコミュニケーション能力とは何かを理解し

必要なスキルを実践的に学び、「書く」「考える」「伝える」「理解する」力の基礎を身に付ける。

グループワークで、アウトプット、フィードバックの訓練をおこないます。

自分の考えを言語化し、見える状態にすることから始めます。

マインドマップを基本ツールとしてマスターしてもらいます。

内容

- 1 この授業の意味と評価の方法。
- 2 コミュニケーション能力とは何か。
- 3 マインドマップというツール
- 4 メディア力を高める
- 5 考える、書く、実行する方法 1
- 6 考える、書く、実行する方法 2
- 7 相手理解と伝える行為 1
- 8 相手理解と伝える行為 2
- 9 伝わる・揺さぶる 1
- 10 伝わる・揺さぶる 2
- 11 アウトプットとフィードバック
- 12 社会が求める言語運用能力とのギャップ
- 13 続けるコツと助け合い
- 14 継続的マップ化
- 15 振り返り

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問を含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント(提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S(4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	文章表現コミュニケーション		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人の心をとらえる文章はどう書くか。「読み、書き、聞き、話す」トータルな常識と文章のスタイルを押さえて、説得力を持つ文章を書けるように指導する。

意思伝達の基本として、手紙の書き方、敬語の使い方等の文章作法から入り、さまざまな文章スタイルを認識したうえで、内容があり、相手を引きつける文章が書けるように努める。

学修目標

- 1 文章への苦手意識を克服し、日常の各場面で文章を活かす発想を身に付けてもらう。
- 2 文章を書くことの楽しさを味わい、文章を作りながら事象に対する見方を深める。

内容

1	手紙の書き方から文章作りを始める
2	敬語の使い方
3	企画書のポイント(「何を書くか」「どう書くか」と深く関わる文章の型)
4	洞察力という池に「人間を磨く物差し」を入れる
5	文章を書くために基礎知識を蓄え、たえず補給しよう
6	語感を伴ったボキャブラリーを増やそう
7	分かりやすく、説得力のある文章のテイスト
8	「どう書くか」とは、5W1Hの1つをクローズアップすること
9	見出しをつけてから文章を書き始める癖をつけよう
10	見出しができたなら、次はリードに凝りなさい
11	文章作りのツボとなり、見識を高める社説を読もう
12	名文に惚れる、同化する。スターライターの志を持とう
13	誤字・脱字・思い込み等を避ける文章の自己防衛と推敲
14	人物論と自己観察で磨く文章力(文章は書き手自身を映す鏡)
15	まとめ

評価

課題提出を含む授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とします。合格点に満たない場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	文章表現コミュニケーション		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

コミュニケーションは「話すー聞く」「書くー読む」が基本である。このうちこの授業では「書く」力を養い、自分を文章で正しく表現して、相手や周りの人(たち)に伝えるノウハウを習得することを目的とする。

文章力は読書の量と質に比例するので、とにかく良質の本をたくさん読むことが大切である。まずは「書くこと」に慣れ、「苦」にならないようになることを目指す。

正しい日本語の文章の書き方、正しい原稿用紙の使い方、文章表現上の作法、卒業論文の書き方、手紙/はがきの書き方などを習得する。

内容

「きちんとした文章」とはどのような文章のことを言うのだろうか。それは、その文章を何のために、誰のために書くのか、という書く目的によって異なるが、基本は自分の書きたいこと/表現したいことが過不足なく書かれ/表現され、読んだ人が正しく理解してくれる文章ではないだろうか。

授業ではいろいろな題で400字、800字、1200字程度の文章/小論文を制限時間(授業時間)内に書くことに重点を置く。とにかく出来るだけたくさん書く訓練を続ける。書くことが文章表現力をつける確実に最良の方法だと確信するからである。

書いた文章は提出後に添削し、翌週全員に返却する。毎回、執筆者の名前は伏せた上で何人かの文章をクラス全体で読み、表現力、語彙力、構成力などについて検証する。その際、執筆者のプライバシーを守るための配慮をすることはもちろんである。

評価

評価は、毎回書いた文章を総合評価して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

文章力は読書の量と質に比例する。読んでほしい/ぜひ読むべき本は、随時紹介する。

科目名	文章表現コミュニケーション		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース2年生の必修科目

このクラスでは、論理的な文章を書くことをトレーニングする。論理的な文章とは、読み手に対し、自説を誤解されことなく、説得的に展開する文章のことである。将来、企画書、レポート、論文などを書く際に有益な内容を目指している。

内容

論理的な文章を作成するために必要な材料、構成、修辞などについて、ワークシートなどを使いながら実践的に習得していく。

1-4週：誤解のメカニズムとそれを防ぐための修辞（ボキャブラリー、接続詞など）の重要性。

5-11週：ワークシートを使い、論理的な構成について実践指導。

12-14週：試験形式による、文章作成。

15週：まとめ

論理的で、説得的な文章作成のポイント

結論を考える（直感・信念etc. or 具体例から）

結論をサポートする理由（例から）を二つ考える

反対側の意見をサポートする理由を1つ考える（できれば、この反論をさらに覆す論拠 = に使える = があればベター）

*理由 具体例を一般化・抽象化したもの

評価

授業中に書く文章やレポート = 60点、授業への取り組み = 40点 計100点で60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に適宜指示をします。

科目名	文章表現コミュニケーション		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

*参加型のアクティブラーニングで授業を進めます。

自分の考えを言語化し、見える化(見える状態にすること)から始めます。

マインドマップという基本ツールを使って「書く」「考える」「伝える」の基礎をマスターしてもらいます。

まずは、自分の思い・考えを文字化し、伝え合う参加型のワークセッションを行いながら進めます。

伝えることの楽しさをグループワークによる交流を通して実感してもらいます。

次に、テキストを使って「機能する文章」の7つの要件を徹底的にマスターしてもらいます。

皆さんの積極的な参加を希望します。

*この授業の選択者は、原則、後期の授業では佐藤公正先生の担当のクラスになります。

内容

「機能する文章」の7つの要件のマスター

ビジネスでも使える文章作成術

授業の中で扱うテーマとしては

to doリストの作成

文章化による問題発見・解決方法育成

こだわり発見

異種理解

ホスピタリティ

お詫び文

などをステップを踏みながら進んでいきます。

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信

。 日常出席まとめ感想メール...1~7ポイント(提出【基礎点】...1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題...3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ

程度]課す) 最終課題or試験...5~10ポイント 合計ポイントと評価...D<60 C<70 B<80 A

<90 S(4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

山田ズーニー『伝わる・揺さぶる! 文章を書く』 PHP新書

科目名	文章表現コミュニケーション		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文章表現コミュニケーション の学修をもとに、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書けそうだ、という自信がつくようにしたい。

内容

文章表現コミュニケーション の授業を踏まえ、文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、 語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

評価

課題提出を含む授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とします。合格点に満たない場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	文章表現コミュニケーション		
担当教員名	小田 貞夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：「あなたは人の話を聞いたり文章を読んだりして、その内容を理解し要領よく文章にまとめることができますか」「あなたは自分の考えを簡潔明瞭な文章に書くことができますか」。読むこと・書くこと 書き言葉を使ったコミュニケーション は、皆さんの社会生活で欠かすことのできない行為です。しかし、近ごろの若者はコミュニケーション力が不足していると指摘されています。日本経団連の「新卒採用に関するアンケート調査」によれば、企業が選考時に重視する要素はコミュニケーション力が8年連続で1位。就職活動に当たってもコミュニケーションの力をつけることが必要なことを示すデータです。

この科目は、マスメディアコースの必修科目としてコミュニケーションの理論と実践を学んでコミュニケーション力をつけることを目指すもので、とくに書き言葉によるコミュニケーションに特化して授業を進めます。

科目の概要： コミュニケーションの基礎理論を学んだあと、その応用として「読む力をつける」「エッセイを書く」「手紙・メールの文章」「報告文の書き方」などの実習を繰り返します。

学修目標： 1. 達意の文章を書けるようになる 2. 人の話やテレビの番組の内容を的確に理解把握し文章に要約する

内容

六

1	長い文章を読んで要約文を書く
2	同上
3	人の話を聞いて内容を要約・文章化する
4	同上
5	メール・手紙を書く
6	同上
7	報告文をつくる
8	同上
9	会議録を作成する
10	同上
11	小論文を書く
12	同上
13	自己アピール文を書く
14	同上
15	まとめ

評価

毎回提出の文章作成実習：100%

60点以上を合格とします。

合格点に満たなかった場合は「再試験」(レポート)を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト類は使いません。必要に応じてその都度資料を配布します。

推薦書もその都度紹介します。

科目名	文章表現コミュニケーション		
担当教員名	佐藤 公正		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目・クラスは、前期の文章表現コミュニケーション、文章表現コミュニケーション（基礎）の1Dクラス（松永修一先生担当）をそのまま後期で引き継ぐものです。

後期の内容はこの前期の履修を前提にして組み立てられていますから、後期だけに限った履修は原則認められません。

前期クラスと同様に、「考える」「書く」「伝える」こと、つまり文章表現を通じてのコミュニケーション能力を高めるための訓練を実践的にを行います。

前期に修得したマインドマップによる発想を基に、社会人基礎力につながる論理的な文章から実用的な文章まで、それぞれの技法を実践的な演習を重ねて身につけます。不足がちな語彙力や不得意な敬意表現もドリルを通じて再確認しましょう。

内容

毎時間、A4版の縦書き用400字詰め原稿用紙を持参すること。

1. 何のために書くのか
2. 分かりやすい文章技法10か条とその実践
3. 以下同上
- 4.
- 5.
- 6.
7. 論理的な文章を書くための基本構成とその習熟訓練
8. 以下同上
- 9.
- 10.
11. 作文課題のこなし方
12. 間違いやすい用語や熟語など語彙力の強化
13. 恥をかかない敬意表現の基本
14. メールや手紙など実用文の作法
15. まとめ

個々の作品は添削のうえ、その具体例を取り上げて解説していきます。

12、13の内容はほぼ毎時間にも、ショートドリルの形で展開します。

評価

授業中と自宅学習の課題として書いた文章60点、ドリルの解答40点。計100点のうち60点以上を合格とします。

課題未提出も欠席とみなし、4回以上の欠席は受講放棄として扱います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

プリント資料を配布します。ほかに、前期の松永先生クラスで使用したテキスト『説得できる文章・表現200の鉄則』（永山嘉昭ら、日経BP社）を必要に応じて使います。

科目名	文章表現コミュニケーション		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース2年生の必修科目

このクラスでは、論理的な文章を書くことをトレーニングする。論理的な文章とは、読み手に対し、自説を誤解されことなく、説得的に展開する文章のことである。将来、企画書、レポート、論文などを書く際に有益な内容を目指している。

<注意>

鈴木の担当する前期「I」を履修したものは、後期の鈴木と同科目「II」を履修することは原則として認めない。

内容

論理的な文章を作成するために必要な材料、構成、修辞などについて、ワークシートなどを使いながら実践的に習得していく。

1-4週：誤解のメカニズムとそれを防ぐための修辞（ボキャブラリー、接続詞など）の重要性。

5-11週：ワークシートを使い、論理的な構成について実践指導。

12-14週：試験形式による、文章作成。

15週：まとめ

論理的で、説得的な文章作成のポイント

結論を考える（直感・信念etc. or 具体例から）

結論をサポートする理由（例から）を二つ考える

反対側の意見をサポートする理由を1つ考える（できれば、この反論をさらに覆す論拠 = に使える = があればベター）

*理由 具体例を一般化・抽象化したもの

評価

授業中に書く文章やレポート = 60点、授業への取り組み = 40点 計100点で60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に適宜指示をします。

科目名	音声表現コミュニケーション		
担当教員名	小田 貞夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：「あなたは人の話を聞いてその内容を理解できますか」「あなたは自分の考えを相手にわかりやすく話して伝えることができますか」。聞くこと・話すこと 話し言葉を使ったコミュニケーション は、皆さんの社会生活で欠かすことのできない行為です。しかし、近ごろの若者はコミュニケーション力が不足しているとの指摘が聞かれます。日本経団連の「新卒採用に関するアンケート調査」によれば、企業が選考時に重視する要素はコミュニケーション力が8年連続で1位。就職活動に当たってもコミュニケーションの力をつけることが必要なことを示すデータです。

この科目は、マスメディアコースの必修科目としてコミュニケーションの理論と実践を学んでコミュニケーション力をつけることを目指すもので、とくに話し言葉によるコミュニケーションに特化して授業を進めます。

科目の概要： コミュニケーションの基礎理論を学んだあと、その応用として「聞く力をつける」「会話の達人」「パブリックスピーキング」「インタビュー」「プレゼンテーション」「面接」などの実習を繰り返します。

学修目標： 1. 初対面の人と会話ができる 2. 人前で話をするとときに上がらずに済む 3. 人の話の内容を的確に把握したうえで報告ができる 4. 自分の考えをわかりやすく伝えることができる

内容

1	コミュニケーションとは : 序論
2	コミュニケーションとは : 話し言葉vs書き言葉
3	聞き上手を目指す
4	聞き上手を目指す
5	会話の達人
6	会話の達人
7	スピーチの理論と実習：初級
8	スピーチの理論と実習：初級
9	スピーチの理論と実習：初級
10	聞き取り・理解・報告
11	聞き取り・理解・報告
12	スピーチ実習：中級
13	スピーチ実習：中級
14	スピーチ実習：中級
15	まとめ

評価

毎回提出のリアクションペーパー：30% 実習：70%

60点以上を合格とします。

合格点に満たなかった場合は「再試験」(レポート)を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト類は使いません。必要に応じてその都度資料を配布します。

推薦書もその都度紹介します。

科目名	音声表現コミュニケーション		
担当教員名	小田 貞夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：「あなたは人の話を聞いてその内容を理解できますか」「あなたは自分の考えを相手にわかりやすく話して伝えることができますか」。聞くこと・話すこと 話し言葉を使ったコミュニケーション は、皆さんの社会生活で欠かすことのできない行為です。しかし、近ごろの若者はコミュニケーション力が不足しているとの指摘が聞かれます。日本経団連の「新卒採用に関するアンケート調査」によれば、企業が選考時に重視する要素はコミュニケーション力が8年連続で1位。就職活動に当たってもコミュニケーションの力をつけることが必要なことを示すデータです。この科目は、マスメディアコースの必修科目としてコミュニケーションの理論と実践を学んでコミュニケーション力をつけることを目指すもので、とくに話し言葉によるコミュニケーションに特化して授業を進めます。科目の概要： コミュニケーションの基礎理論を学んだあと、その応用として「聞く力をつける」「会話の達人」「パブリックスピーキング」「インタビュー」「プレゼンテーション」「面接」などの実習を繰り返します。学修目標： 1. 初対面の人と会話ができる 2. 人前で話をするときに上がらずに済む 3. 人の話の内容を的確に把握したうえで報告ができる 4. 自分の考えをわかりやすく伝えることができる

内容

1	コミュニケーションとは : 序論?
2	コミュニケーションとは : 話し言葉vs書き言葉?
3	聞き上手を目指す ?
4	聞き上手を目指す ?
5	会話の達人 ?
6	会話の達人 ?
7	スピーチの理論と実習: 初級 ?
8	スピーチの理論と実習: 初級
9	スピーチの理論と実習: 初級 ?
10	聞き取り・理解・報告 ?
11	聞き取り・理解・報告 ?
12	スピーチ実習: 中級 ?
13	スピーチ実習: 中級 ?
14	スピーチ実習: 中級 ?
15	まとめ?

評価

毎回提出のリアクションペーパー：30% 実習：70% 60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は「再試験」(レポート)を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト類は使いません。必要に応じてその都度資料を配布します。推薦書もその都度紹介します。？

科目名	音声表現コミュニケーション		
担当教員名	川野 一字		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「聞く」ことと「話す」ことは、「読む」こと「書く」ことと並んでコミュニケーションの基本です。ところが、近頃の若者は人の話を聞いても理解できないとか、自分の考えを分かりやすく人に伝えることが下手だとか、話しことばによるコミュニケーションの力が落ちているといわれます。日本経団連が毎年行っている「新卒社員の採用に関するアンケート調査」のなかで「選考時に重視する要素」を聞いていますが、「コミュニケーション能力」を挙げた企業は5社に4社の割合にのぼり第1位です。特に求められているのが、話しことばで意思を通い合わせる力です。

「聞く力」「話す力」を育てることは就職活動に有利であるとか、将来社会に出たときの必須の能力だとかいうことに止まらず、好ましい人間関係を築いていく上で不可欠のことなのです。この授業では、話しことばによるコミュニケーションの基本と応用を、理論の学習と実技の演習をとおして学びます

内容

コミュニケーション力は、日常の実践をとおして養われます。この授業では毎回、人の話を聞く、文章を読んだりスピーチをしたりする。それを互いに批評しあって、聞くことと話すことのポイントを掴むことに努める。その繰り返しで理解力と表現力、構成力を付けていくことを目指します。この授業を担当する3人の教員はいずれもNHKのアナウンサーや記者として長いキャリアを持つ、話しことばによるコミュニケーションのプロです。それぞれの多彩な体験や豊富な知識を盛り込みながら授業を進め、日本語表現の素晴らしさを皆さんに理解してもらい、実践してもらいます。

授業の内容や進め方は教員によって異なりますが、概ね次のようなテーマを取り上げます。

人の話を聞いて理解する 会話を磨く 自己紹介と話しことばのコミュニケーション
 発声と発音 声に出して読む スピーチ 話の組み立て 報告・リポート・プレゼンテーション
 インタビューと取材 敬意表現 会議の企画と進行 ディベート ○
 グループディスカッション

評価

最初の授業で各教員から評価について説明しますが、「授業に対する意欲・関心・態度」「授業への参加度」を重視します。そのほか、授業内での実技演習、期末のまとめ、レポートなどを総合して評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】については、最初の授業で各教員から指示や説明があります。

科目名	音声表現コミュニケーション		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「聞く」ことと「話す」ことは、「読む」こと「書く」ことと並んでコミュニケーションの基本です。ところが、人の話を聞いても理解できない、自分の考えを分かりやすく人に伝えることが苦手だと感じている学生が多く、話しことばによるコミュニケーションの力が落ちているといわれます。

この授業では、現代社会におけるコミュニケーションについて考察し、自分のことばで考え、自分のことばで伝える力を養います。

内容

話しことばによるコミュニケーションの基本として、まず読む力を鍛えます。新聞・随筆・文学作品などを読み、その内容を正確にとらえ、人に伝えるポイントを学びます。

日本語の音声表現の基礎を学びながら、自分の意見や考えを的確に相手の心に届けるための演習を行います。スピーチや発表を行い、それをお互いに批評しあって、表現力や構成力を付けていきます。

評価

授業内での実技演習(40%)、期末のレポート(40%)、授業への貢献度(20%)を総合して評価し、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】話しことばの花束(好本恵・リヨン社)
- 【推薦書】基礎から学ぶアナウンス(半谷進彦、佐々木端・NHK出版)
- 【推薦書】新版NHKアナウンス・セミナー(NHK出版)

科目名	音声表現コミュニケーション		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「聞く」ことと「話す」ことは、「読む」こと「書く」ことと並んでコミュニケーションの基本です。ところが、人の話を聞いても理解できない、自分の考えを分かりやすく人に伝えることが苦手だと感じている学生が多く、話しことばによるコミュニケーションの力が落ちているといわれます。この授業では、現代社会におけるコミュニケーションについて考察し、自分のことばで考え、自分のことばで伝える力を養います。

内容

話しことばによるコミュニケーションの基本として、まず読む力を鍛えます。新聞・随筆・文学作品などを読み、その内容を正確にとらえ、人に伝えるポイントを学びます。日本語の音声表現の基礎を学びながら、自分の意見や考えを的確に相手の心に届けるための演習を行います。スピーチや発表を行い、それをお互いに批評しあって、表現力や構成力を付けていきます。

評価

授業内での実技演習(40%)、期末のレポート(40%)、授業への貢献度(20%)を総合して評価し、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】話しことばの花束(好本恵、リヨン社)
- 【推薦書】基礎から学ぶアナウンス(半谷進彦・佐々木端、NHK出版)
- 【推薦書】新版NHKアナウンス・セミナー(NHK出版)

科目名	音声表現コミュニケーション		
担当教員名	小田 貞夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：「あなたは人の話を聞いてその内容を理解できますか」「あなたは自分の考えを相手にわかりやすく話して伝えることができますか」。聞くこと・話すこと 話し言葉を使ったコミュニケーション は、皆さんの社会生活で欠かすことのできない行為です。しかし、近ごろの若者はコミュニケーション力が不足しているとの指摘が聞かれます。日本経団連の「新卒採用に関するアンケート調査」によれば、企業が選考時に重視する要素はコミュニケーション力が8年連続で1位。就職活動に当たってもコミュニケーションの力をつけることが必要なことを示すデータです。この科目は、マスメディアコースの必修科目としてコミュニケーションの理論と実践を学んでコミュニケーション力をつけることを目指すもので、とくに話し言葉によるコミュニケーションに特化して授業を進めます。科目の概要： コミュニケーションの基礎理論を学んだあと、その応用として「聞く力をつける」「会話の達人」「パブリックスピーキング」「インタビュー」「プレゼンテーション」「面接」などの実習を繰り返します。学修目標： 1. 初対面の人と会話ができる 2. 人前で話をするときに上がらずに済む 3. 人の話の内容を的確に把握したうえで報告ができる 4. 自分の考えをわかりやすく伝えることができる

内容

1	ワークショップ：企画会議
2	ワークショップ：企画会議
3	グループディスカッション
4	グループディスカッション
5	グループディスカッション
6	インタビュー
7	インタビュー
8	インタビュー
9	スピーチ実習：上級
10	スピーチ実習：上級
11	スピーチ実習：上級
12	プレゼンテーション
13	面接実習
14	面接実習
15	まとめ

評価

毎回提出のリアクションペーパー：30% 実習：70% 60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は「再試験」(レポート)を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト類は使いません。必要に応じてその都度資料を配布します。推薦書もその都度紹介します。？

科目名	音声表現コミュニケーション		
担当教員名	小田 貞夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：「あなたは人の話を聞いてその内容を理解できますか」「あなたは自分の考えを相手にわかりやすく話して伝えることができますか」。聞くこと・話すこと 話し言葉を使ったコミュニケーション は、皆さんの社会生活で欠かすことのできない行為です。しかし、近ごろの若者はコミュニケーション力が不足しているとの指摘が聞かれます。日本経団連の「新卒採用に関するアンケート調査」によれば、企業が選考時に重視する要素はコミュニケーション力が8年連続で1位。就職活動に当たってもコミュニケーションの力をつけることが必要なことを示すデータです。この科目は、マスメディアコースの必修科目としてコミュニケーションの理論と実践を学んでコミュニケーション力をつけることを目指すもので、とくに話し言葉によるコミュニケーションに特化して授業を進めます。科目の概要： コミュニケーションの基礎理論を学んだあと、その応用として「聞く力をつける」「会話の達人」「パブリックスピーキング」「インタビュー」「プレゼンテーション」「面接」などの実習を繰り返します。学修目標： 1. 初対面の人と会話ができる 2. 人前で話をするときに上がらずに済む 3. 人の話の内容を的確に把握したうえで報告ができる 4. 自分の考えをわかりやすく伝えることができる

内容

1	ワークショップ：企画会議
2	ワークショップ：企画会議
3	グループディスカッション
4	グループディスカッション
5	グループディスカッション
6	インタビュー
7	インタビュー
8	インタビュー
9	スピーチ実習：上級
10	スピーチ実習：上級
11	スピーチ実習：上級
12	プレゼンテーション
13	面接実習
14	面接実習
15	まとめ

評価

毎回提出のリアクションペーパー：30% 実習：70% 60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は「再試験」(レポート)を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト類は使いません。必要に応じてその都度資料を配布します。推薦書もその都度紹介します。？

科目名	音声表現コミュニケーション		
担当教員名	川野 一字		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「聞く」ことと「話す」ことは、「読む」こと「書く」ことと並んでコミュニケーションの基本です。ところが、近頃の若者は人の話を聞いても理解できないとか、自分の考えを分かりやすく人に伝えることが下手だとか、話しことばによるコミュニケーションの力が落ちているといわれます。日本経団連が毎年行っている「新卒社員の採用に関するアンケート調査」のなかで「選考時に重視する要素」を聞いていますが、「コミュニケーション能力」を挙げた企業は5社に4社の割合にのぼり第1位です。特に求められているのが、話しことばで意思を通い合わせる力です。

「聞く力」「話す力」を育てることは就職活動に有利であるとか、将来社会に出たときの必須の能力だとかいうことに止まらず、好ましい人間関係を築いていく上で不可欠のことなのです。この授業では、話しことばによるコミュニケーションの基本と応用を、理論の学習と実技の演習をとおして学びます

内容

コミュニケーション力は、日常の実践をとおして養われます。この授業では毎回、人の話を聞く、文章を読んだりスピーチをしたりする。それを互いに批評しあって、聞くことと話すことのポイントを掴むことに努める。その繰り返して理解力と表現力、構成力を付けていくことを目指します。この授業を担当する3人の教員はいずれもNHKのアナウンサーや記者として長いキャリアを持つ、話しことばによるコミュニケーションのプロです。それぞれの多彩な体験や豊富な知識を盛り込みながら授業を進め、日本語表現の素晴らしさを皆さんに理解してもらい、実践してもらいます。

授業の内容や進め方は教員によって異なりますが、概ね次のようなテーマを取り上げます。

人の話を聞いて理解する 会話を磨く 自己紹介と話しことばのコミュニケーション
 発声と発音 声に出して読む スピーチ 話の組み立て 報告・リポート・プレゼンテーション
 インタビューと取材 敬意表現 会議の企画と進行 ディベート ○
 グループディスカッション

評価

最初の授業で各教員から評価について説明しますが、授業への出席状況を重視します。そのほか、授業内での実技演習、期末のテストあるいはレポートを総合して評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】については、最初の授業で各教員から指示や説明があります。

科目名	音声表現コミュニケーション		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現代は、どの社会にあっても高いコミュニケーション能力が求められます。

自分のことばで自分の考えをまとめ、相手の心に的確に届けられる話し手になるために、また相手の立場に立って話をしっかり聴ける人間になるためにどうしたらよいのかを考えます。

さらに、さまざまな人間関係とコミュニケーションについても考察し、敬語のポイントも学びます。

内容

コミュニケーション力は、日常の実践をとおして養われます。この授業では毎回、人の話を聞き、文章を読んだりスピーチをしたりします。

それを互いに批評しあって、聞くことと話すことのポイントを押さえます。さらに、インタビューやパワーポイントを使っての発表なども行います。

評価

授業内での実技演習(40%)、期末のレポート(40%)、授業への貢献度(20%)を総合して評価し、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】話しことばの花束(好本恵、リヨン社)

【推薦書】基礎から学ぶアナウンス(半谷進彦・佐々木端、NHK出版)

【推薦書】新版NHKアナウンス・セミナー(NHK出版)

科目名	音声表現コミュニケーション		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現代は、どの社会にあっても高いコミュニケーション能力が求められます。

自分のことばで自分の考えをまとめ、相手の心に的確に届けられる話し手になるために、また相手の立場に立って話をしっかり聴ける人間になるためにどうしたらよいのかを考えます。

さらに、さまざまな人間関係とコミュニケーションについても考察し、敬語のポイントも学びます。

内容

コミュニケーション力は、日常の実践をとおして養われます。この授業では毎回、人の話を聞き、文章を読んだりスピーチをしたりします。

それを互いに批評しあって、聞くことと話すことのポイントを押さえます。さらに、インタビューやパワーポイントを使っての発表なども行います。

評価

授業内での実技演習(40%)、期末のレポート(40%)、授業への貢献度(20%)を総合して評価し、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】話しことばの花束(好本恵、リヨン社)

【推薦書】基礎から学ぶアナウンス(半谷進彦・佐々木端、NHK出版)

【推薦書】新版NHKアナウンス・セミナー(NHK出版)

科目名	ビジネス文書演習		
担当教員名	福田 弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

文章表現を通じてのコミュニケーション能力向上の一環として、本科目ではビジネスの分野で使用される文書、文章表現に焦点をあてその能力の向上を図る。

科目概要は内容欄で詳述するがビジネス文書作成に必要な基礎知識を講義形式で学び、さらに課題の作成を通じビジネス文書とは何かまたその作成をどう行うかを学ぶ。

講義では、なるべくわかりやすい表現を用いるが、内容が内容だけに受講者にとって耳慣れない言葉や表現が出てくると思われる。わからないことをそのままにせず積極的に質問をし不明点をただし理解することが望まれる。

課題の演習では12の文書を作成するが、すぐれた文書を作成するには学生が自ら創造(想像)力を働かせる必要がある。作成中に積極的に質問し疑問点を解消し文書を作成することが望まれる。

提出され文書は添削して返却されるので添削内容を理解し次回以降に生かして欲しい。

内容

下記スケジュールを基本とするが状況により多少前後する。受講者が作成した文書は添削し原則として次週に返却する。

1	コースの紹介
2	講義ービジネス文書の概要
3	講義ービジネス文書作成の基本
4	演習ービジネス文書作成 3件
5	演習ービジネス文書作成 2件
6	演習ービジネス文書作成 1件
7	復習ー前3週の受講者作成の文書を題材とし討議及び復習Q U I Z
8	講義ー会社の組織と意思決定
9	講義ー社外文書作成の基本的ポイント
10	演習ー社外文書作成 3件
11	演習ー社外文書作成 2件
12	演習ー社外文書作成 1件
13	復習ー前3週の受講者作成の文書を題材とし討議
14	講義ー契約関係文書
15	講義ービジネス文書作成術及び復習Q U I Z

評価

課題60% 復習Q U I Z 20% 授業時のパフォーマンス20%

60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

菊池康人・敬語・講談社学術文庫

科目名	ビジネス文書演習		
担当教員名	福田 弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

文章表現を通じてのコミュニケーション能力向上の一環として、本科目ではビジネスの分野で使用される文書、文章表現に焦点をあてその能力の向上を図る。

科目概要は内容欄で詳述するがビジネス文書作成に必要な基礎知識を講義形式で学び、さらに課題の作成を通じビジネス文書とは何かまたその作成をどう行うかを学ぶ。

講義では、なるべくわかりやすい表現を用いるが、内容が内容だけに受講者にとって耳慣れない言葉や表現が出てくると思われる。わからないことをそのままにせず積極的に質問をし不明点をただし理解することが望まれる。

課題の演習では12の文書を作成するが、すぐれた文書を作成するには学生が自ら創造(想像)力を働かせる必要がある。作成中に積極的に質問し疑問点を解消し文書を作成することが望まれる。

提出され文書は添削して返却されるので添削内容を理解し次回以降に生かして欲しい。

内容

下記スケジュールを基本とするが状況により多少前後する。受講者が作成した文書は添削し原則として次週に返却する。

1	コースの紹介
2	講義ービジネス文書の概要
3	講義ービジネス文書作成の基本
4	演習ービジネス文書作成 3件
5	演習ービジネス文書作成 2件
6	演習ービジネス文書作成 1件
7	復習ー前3週の受講者作成の文書を題材とし討議及び復習Q U I Z
8	講義ー会社の組織と意思決定
9	講義ー社外文書作成の基本的ポイント
10	演習ー社外文書作成 3件
11	演習ー社外文書作成 2件
12	演習ー社外文書作成 1件
13	復習ー前3週の受講者作成の文書を題材とし討議
14	講義ー契約関係文書
15	講義ービジネス文書作成術及び復習Q U I Z

評価

課題60% 復習Q U I Z 20% 授業時のパフォーマンス20%

60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

菊池康人・敬語・講談社学術文庫

科目名	文章表現ワークショップ		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

自分の考えや思いを文章に表現して人に伝える。そのためには実際に文章を書き、推敲し、また他人の文章を読んで表現を磨くという作業が必要です。この科目の性格は、各自が実践的に文章を学び、自己を表現する楽しみを得ることと考えます。授業では世界中で最も有名な日本の古典である『源氏物語』を扱います。『源氏物語』は長い時代にわたって多様な人々に受け入れられ、現代まで伝えられてきた価値ある文学作品です。受験勉強で苦しんだ古文の文法は大幅にカットして、まずは『源氏物語』原文を音読してみましょう。そして、受講生各自の感性によって現代語で翻訳を試みましょう。古典を読み、内容を把握して翻訳するという作業を何度も繰り返し実践することによって、自分で探り当てた情報を正確に自己発信する能力が得られます。最後に、作者が何を書きたかったのか、その内実に迫り、古代と現代の女性の生き方について考えることが最終的な目標です。

内容

最初に『源氏物語』全体について知り、原文の描写を踏まえたくて、いくつかの名場面を味わいます。次に現代語での翻訳を試みます。翻訳といっても文法に忠実な現代語訳ではなく、思い切った意識を目指します。最後にそれぞれが翻訳した文章をいくつか選んで小冊子を作りたいと思います。

1	ガイダンス
2	『源氏物語』の作者について・時代背景について
3	『源氏物語』という作品について
4	物語の始まり～光源氏誕生～
5	若き源氏の恋～空蝉・夕顔・若紫～
6	名場面を翻訳してみよう
7	生霊になった女性～六条御息所～
8	名場面を翻訳してみよう
9	第二部の始まり～女三宮降嫁～
10	紫の上の死～萩の上の露～
11	名場面を翻訳してみよう
12	第三部の始まり～宇治の姫君～
13	最後の女性～浮舟～
14	名場面を翻訳してみよう
15	物語の結末～続きを創作してみよう・小冊子の作成

評価

【テキスト】中野幸一『源氏物語みちしるべ』小学館

『源氏物語』の参考書はたくさんありますので、授業の中で適宜紹介していきます。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中の課題への取り組みなどの平常点が40点、各時間と最終的に提出するレポート内容が60点で、60点以上を合格とします。

科目名	文章表現ワークショップ		
担当教員名	小沢 章友		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

文章表現者になりたい。プロの小説家をめざしたい。そうした人のための小説家養成講座。

毎回、テーマに応じて、講義時間内に作品を書きあげる。作品の創作と批評を通して、各自の個性にふさわしい文章表現と小説ジャンルはいかなるものかをみつける。

各自の才能をどのようにして見出し、それをどのようにして伸ばしていくか。各自の個性にふさわしい文章表現はいかなるものか、それらを段階的・総合的に学ぶ。

内容

登場人物キャラクターの立て方。

ストーリーの作り方とうねらせ方。

心理描写と情景描写の手法。

恋愛小説の書き方

恋愛小説の書き方

ミステリー小説の書き方

ミステリー小説の書き方

ホラー小説の書き方

ファンタジー小説の書き方

時代小説の書き方

児童文学の書き方

ユーモア小説の書き方

純文学小説の書き方

新人賞の取り方

デビュー後の編集者とのつきあい方

評価

授業に対する意欲・関心・態度および提出される作品とで、成績を評価。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小沢章友『三国志英雄列伝』講談社青い鳥文庫

【参考図書】小沢章友『龍之介怪奇譚』双葉社

小沢章友『曼荼羅華』講談社

小沢章友『三島転生』ポプラ社

小沢章友『怪域』朝日新聞社

小沢章友『遊民爺さん』小学館文庫

小沢章友『不死』小学館

小沢章友『龍之介地獄変』新潮社

小沢章友『運命の環』文藝春秋

小沢章友『夢魔の森』集英社文庫

小沢章友『飛べ、龍馬』講談社青い鳥文庫

小沢章友『三国志』全七巻

小沢章友『千年天使』角川春樹事務所

科目名	文章表現ワークショップ		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

自分のメディア力を高める!

この授業は、アクティブラーニング(学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」)による参加型授業です。

考える道具としての文章表現、説得するための文章表現、楽しむための文章表現、それぞれの能力を演習を通して向上させることを目的とします。Webやブログ、雑誌の中の効果的な表現を分析的に見ていきます。また、ここから学んだTipsを用い実践的な演習を積み、表現能力の向上を目指します。授業はグループワークセッションを基本に進めます。ワークの中ではMind-mapを用いたOut putの訓練も併せておこないます。

講義の性質上、授業内の演習だけでなく、たくさんの課題を課すこととなりますが、学生諸君の積極的な参加を希望します。

内容

- 第1回 何のための文章表現?
- 第2回 Mind-mapと文章作成
- 第3回 表現とフィードバック
- 第4回 身近なメディアを使った文章表現
- 第5回 ゲスト
- 第6回 分かりやすさ分かりにくさの分析
- 第7回 Web・ブログでの文章表現分析
- 第8回 課題プレゼン1
- 第9回 コンテンツを探す
- 第10回 情報の編集とOut put
- 第11回 グループセッション1
- 第12回 グループセッション2
- 第13回~第15回 まとめOut put 1~3

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問を含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール...1~7ポイント(提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題...3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験...5~10ポイント 合計ポイントと評価...D<60 C<70 B<80 A<90 S(4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

従業中に指示します。

科目名	文章表現ワークショップ		
担当教員名	小沢 章友		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

文章表現者になりたい。プロの小説家をめざしたい。そうした人のための小説家養成講座。

テーマに応じて、作品を書き上げる。その作品の批評を通して、各自の個性にふさわしい表現スタイルと小説ジャンルをみつける。

才能をいかにして発見し、磨いていくか。各自にあった個性的な表現法はいかなるものか。それらを学ぶ。

内容

登場人物の立て方

ストーリーの作り方

心理描写と情景描写の手法

恋愛小説の作法

恋愛小説の作法

推理小説(ミステリー小説)の書き方

推理小説の書き方

歴史小説の書き方

ファンタジー小説の書き方

ユーモア小説の書き方

児童文学の書き方

怪奇小説の書き方

純文学の書き方

デビューの仕方、新人賞の取り方

出版社、編集者との付き合い方

評価

各自提出する作品と、授業に対する意欲と関心、態度とで、成績を評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小沢章友『三国志英雄列伝』講談社青い鳥文庫

【参考図書】小沢章友著作

『龍之介怪奇譚』双葉社、『龍之介地獄変』新潮社、『運命の環』文芸春秋、『夢魔の森』集英社文庫、『曼荼羅華』講談社、『怪域』朝日新聞社、『荒野狼』徳間書店、『不死』小学館、『極楽鳥』角川春樹事務所、『遊民爺さん』小学館文庫、『ムーン・ドラゴン』理論社、『三国志』全七巻講談社青い鳥文庫

小沢章友の怪異幻想劇場(<http://timebooktown.jp>)

科目名	音声表現ワークショップ		
担当教員名	大西 勝也		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

コミュニケーションの基本である文書と会話(書きことばと話しことば)のうち、公的な場面で使う話しことばを中心に、論理的でわかりやすい伝え方をみにつけます。

科目の概要

変化を続ける日本語は、世代による違い、所属する社会、多言語社会への対応も含め、伝統的なことばの規範性をもとに、さまざまな場面での話し方を検討します。

学修目標

豊かな表現を身につけるための考え方、論理的な話し方を基本に、効果的な表現法を学びます。具体的には、課題の作成、スピーチの実習、意見発表等を習得します。

内容

「音声表現コミュニケーション」で学んだ内容を深め、実践的な課題に取り組む実習を中心に、次のようなテーマで授業を進めます。レポート作成・実習には、積極的に取り組んでください。

授業内容

1回	ガイダンス	話しことばの特性
2回	日本語の特徴	話しことばの基礎である日本語の特徴
3回	話しことばの文章	正確に、分かりやすく伝える文章作り
4回	話し方の実習	発声・発音・姿勢・体力作り(自己紹介)
5回	話し方の実習	短いことばの威力
6回	話し方の実習	敬語(敬意)表現について
7回	話し方の実習	一般社会の敬語表現(発表)
8回	話し方の実習	映像を使ったプレゼンテーション
9回	話し方の実習	「事実と意見」の違い
10回	話し方の実習	「事実と意見」の表現法
11回	ことばの多様化	専門用語の外来語化
12回	高度な音声表現	情報を読んで伝える
13回	高度な音声表現	文学作品を読んで伝える
14回	現代の日本語	これからの時代の日本語、伝えるべきものはなにか
15回	前期・授業のまとめ	

評価

話し方実習（30%）、課題作成（20%）、期末試験（50%）、60%以上を合格とします。
合格点に満たない場合は再試験、またはレポート提出とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】

外山滋比古『思考の整理学』（ちくま文庫）、木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書）

山口弘明『プレゼンテーションの進め方』（日経文庫）

このほか、授業中にも随時紹介します。

科目名	音声表現ワークショップ		
担当教員名	大西 勝也		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

コミュニケーションの基本である文書と会話(書きことばと話しことば)のうち、公的な場面で使う話しことばを中心に、論理的でわかりやすい伝え方を身につけます。

科目の概要

前期「音声表現ワークショップ」の内容をさらに深めながら、受講者各自が相互に音声表現力を高め合い、実践的な課題の作成、スピーチの実習向上等を体得します。

学修目標

ふだん使っている日本語の点検を行う。また、日頃耳にする日本語のうち規範的な表現はなにかを考えます。そこで社会人としての話し方、表現方法を習得します。

内容

この授業は、「音声表現ワークショップ」の内容をさらに深めて、受講者が自主性を発揮して行う日本語の検証や取材活動の報告、意見の発表を中心に進行します。また、授業への積極的な参加によって、お互いに学び合い成長して、実社会の活動に生かせる方法を体得するのがねらいです。

授業内容

1回	ガイダンス	公的な場面で話す(パブリック・スピーキング)
2回	日本語の特徴	日本語の“ゆれ”と規範性
3回	話し方の実習	場面に応じて話す準備をする
4回	話し方の実習	話す材料を組み立てる
5回	話し方の実習	話す材料(情報)を収集(取材)する
6回	話し方の実習	問う力、伝える力(目的、目標を明確にする)
7回	話し方の実習	話す速さ、間合い(ポーズ)を生かす
8回	話し方の実習	「敬語の使い方が正確か」を点検
9回	話し方の実習	「事実と意見の違い」を点検
10回	話し方の実習	映像・図式を使ったプレゼンテーション
11回	高度な実践	日本語の語彙(ゴイ)を見直し、専門用語を分析
12回	高度な実践	明るく、新鮮な素材を収集し、説明する
13回	音声で伝える	感動した文章を読んで伝える
14回	現代の日本語	説得力・交渉力のある話し方
15回	後期・授業のまとめ	

評価

話し方実習（30%）、課題作成（20%）、期末試験（50%）、60%以上を合格とします。
合格点に達しない場合は再試験またはレポート提出とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】

木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書）

菅谷明子『メディア・リテラシー～世界の現場から～』（岩波新書）

ロジャー・フィシャー&ダニエル・シャピロ著『新ハーバード流交際術』（印南一路訳 講談社）

科目名	文章表現コミュニケーション（基礎）		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人の心をとらえる文章はどう書くか。「読み、書き、聞き、話す」トータルな常識と文章のスタイルを押さえて、説得力を持つ文章を書けるように指導する。

意思伝達の基本として、手紙の書き方、敬語の使い方等の文章作法から入り、さまざまな文章スタイルを認識したうえで、内容があり、相手を引きつける文章が書けるように努める。

学修目標

- 1 文章への苦手意識を克服し、日常の各場面で文章を活かす発想を身に付けてもらう。
- 2 文章を書くことの楽しさを味わい、文章を作りながら事象に対する見方を深める。

内容

1	手紙の書き方から文章作りを始める
2	敬語の使い方
3	企画書のポイント(「何を書くか」「どう書くか」と深く関わる文章の型)
4	洞察力という池に「人間を磨く物差し」を入れる
5	文章を書くために基礎知識を蓄え、たえず補給しよう
6	語感を伴ったボキャブラリーを増やそう
7	分かりやすく、説得力のある文章のテイスト
8	「どう書くか」とは、5W1Hの1つをクローズアップすること
9	見出しをつけてから文章を書き始める癖をつけよう
10	見出しができたなら、次はリードに凝りなさい
11	文章作りのツボとなり、見識を高める社説を読もう
12	名文に惚れる、同化する。スターライターの志を持とう
13	誤字・脱字・思い込み等を避ける文章の自己防衛と推敲
14	人物論と自己観察で磨く文章力(文章は書き手自身を映す鏡)
15	まとめ

評価

課題提出を含む授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とします。合格点に満たない場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	文章表現コミュニケーション（基礎）		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

コミュニケーションは「話すー聞く」「書くー読む」が基本である。このうちこの授業では「書く」力を養い、自分を文章で正しく表現して、相手や周りの人（たち）に伝えるノウハウを習得することを目的とする。

文章力は読書の量と質に比例するので、とにかく良質の本をたくさん読むことが大切である。まずは「書くこと」に慣れ、「苦」にならないようになることを目指す。

正しい日本語の文章の書き方、正しい原稿用紙の使い方、文章表現上の作法、卒業論文の書き方、手紙/はがきの書き方などを習得する。

内容

「きちんとした文章」とはどのような文章のことを言うのだろうか。それは、その文章を何のために、誰のために書くのか、という書く目的によって異なるが、基本は自分の書きたいこと/表現したいことが過不足なく書かれ/表現され、読んだ人が正しく理解してくれる文章ではないだろうか。

授業ではいろいろな題で400字、800字、1200字程度の文章/小論文を制限時間（授業時間）内に書くことに重点を置く。とにかく出来るだけたくさん書く訓練を続ける。書くことが文章表現力をつける確実に最良の方法だと確信するからである。

書いた文章は提出後に添削し、翌週全員に返却する。毎回、執筆者の名前は伏せた上で何人かの文章をクラス全体で読み、表現力、語彙力、構成力などについて検証する。その際、執筆者のプライバシーを守るための配慮をすることはもちろんである。

評価

評価は、毎回書いた文章を総合評価して行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

文章力は読書の量と質に比例する。読んでほしい/ぜひ読むべき本は、随時紹介する。

科目名	文章表現コミュニケーション（基礎）		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース2年生の必修科目

このクラスでは、論理的な文章を書くことをトレーニングする。論理的な文章とは、読み手に対し、自説を誤解されことなく、説得的に展開する文章のことである。将来、企画書、レポート、論文などを書く際に有益な内容を目指している。

内容

論理的な文章を作成するために必要な材料、構成、修辞などについて、ワークシートなどを使いながら実践的に習得していく。

1-4週：誤解のメカニズムとそれを防ぐための修辞（ボキャブラリー、接続詞など）の重要性。

5-11週：ワークシートを使い、論理的な構成について実践指導。

12-14週：試験形式による、文章作成。

15週：まとめ

評価

授業中に書く文章やレポート = 60 点、授業への取り組み = 40 点 計100 点で60 点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に適宜指示をします。

科目名	文章表現コミュニケーション（基礎）		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

*参加型のアクティブラーニングで授業を進めます。

自分の考えを言語化し、見える化(見える状態にすること)から始めます。

マインドマップという基本ツールを使って「書く」「考える」「伝える」の基礎をマスターしてもらいます。

まずは、自分の思い・考えを文字化し、伝え合う参加型のワークセッションを行いながら進めます。

伝えることの楽しさをグループワークによる交流を通して実感してもらいます。

次に、テキストを使って「機能する文章」の7つの要件を徹底的にマスターしてもらいます。

皆さんの積極的な参加を希望します。

*この授業の選択者は、原則、後期の授業では佐藤公正先生の担当のクラスになります。

内容

「機能する文章」の7つの要件のマスター

ビジネスでも使える文章作成術

授業の中で扱うテーマとしては

to doリストの作成

文章化による問題発見・解決方法育成

こだわり発見

異種理解

ホスピタリティ

お詫び文

などをステップを踏みながら進んでいきます。

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信

。 日常出席まとめ感想メール...1~7ポイント(提出【基礎点】...1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題...3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ

程度]課す) 最終課題or試験...5~10ポイント 合計ポイントと評価...D<60 C<70 B<80 A

(4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	文章表現コミュニケーション（発展）		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

文章表現コミュニケーション の学修をもとに、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書けそうだ、という自信がつくようにしたい。

内容

文章表現コミュニケーション（基礎）の授業を踏まえ、文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

評価

課題提出を含む授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とします。合格点に満たない場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現コミュニケーション（発展）		
担当教員名	小田 貞夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：「あなたは人の話を聞いてその内容を理解できますか」「あなたは自分の考えを相手にわかりやすく話して伝えることができますか」。聞くこと・話すこと 話し言葉を使ったコミュニケーション は、皆さんの社会生活で欠かすことのできない行為です。しかし、近ごろの若者はコミュニケーション力が不足しているとの指摘が聞かれます。日本経団連の「新卒採用に関するアンケート調査」によれば、企業が選考時に重視する要素はコミュニケーション力が8年連続で1位。就職活動に当たってもコミュニケーションの力をつけることが必要なことを示すデータです。この科目は、マスメディアコースの必修科目としてコミュニケーションの理論と実践を学んでコミュニケーション力をつけることを目指すもので、とくに話し言葉によるコミュニケーションに特化して授業を進めます。科目の概要： コミュニケーションの基礎理論を学んだあと、その応用として「聞く力をつける」「会話の達人」「パブリックスピーキング」「インタビュー」「プレゼンテーション」「面接」などの実習を繰り返します。学修目標： 1. 初対面の人と会話ができる 2. 人前で話をするときに上がらずに済む 3. 人の話の内容を的確に把握したうえで報告ができる 4. 自分の考えをわかりやすく伝えることができる

内容

1	ワークショップ：企画会議
2	ワークショップ：企画会議
3	グループディスカッション
4	グループディスカッション
5	グループディスカッション
6	インタビュー
7	インタビュー
8	インタビュー
9	スピーチ実習：上級
10	スピーチ実習：上級
11	スピーチ実習：上級
12	プレゼンテーション
13	面接実習
14	面接実習
15	まとめ

評価

毎回提出のリアクションペーパー：30% 実習：70% 60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は「再試験」（レポート）を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト類は使いません。必要に応じてその都度資料を配布します。推薦書もその都度紹介します。？

科目名	文章表現コミュニケーション（発展）		
担当教員名	佐藤 公正		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目・クラスは、前期の文章表現コミュニケーション、文章表現コミュニケーション（基礎）の1Dクラス（松永修一先生担当）をそのまま後期で引き継ぐものです。

後期の内容はこの前期の履修を前提にして組み立てられていますから、後期だけに限った履修は原則認められません。

前期クラスと同様に、「考える」「書く」「伝える」こと、つまり文章表現を通じてのコミュニケーション能力を高めるための訓練を実践的にを行います。

前期に修得したマインドマップによる発想を基に、社会人基礎力につながる論理的な文章から実用的な文章まで、それぞれの技法を実践的な演習を重ねて身につけます。不足がちな語彙力や不得意な敬意表現もドリルを通じて再確認しましょう。

内容

毎時間、A4版の縦書き用400字詰め原稿用紙を持参すること。

1. 何のために書くのか
2. 分かりやすい文章技法10か条とその実践
3. 以下同上
- 4.
- 5.
- 6.
7. 論理的な文章を書くための基本構成とその習熟訓練
8. 以下同上
- 9.
- 10.
11. 作文課題のこなし方
12. 間違いやすい用語や熟語など語彙力の強化
13. 恥をかかない敬意表現の基本
14. メールや手紙など実用文の作法
15. まとめ

個々の作品は添削のうえ、その具体例を取り上げて解説していきます。

12、13の内容はほぼ毎時間にも、ショートドリルの形で展開します。

評価

授業中と自宅学習の課題として書いた文章60点、ドリルの解答40点。計100点のうち60点以上を合格とします。

課題未提出も欠席とみなし、4回以上の欠席は受講放棄として扱います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

プリント資料を配布します。ほかに、前期の松永先生クラスで使用したテキスト『説得できる文章・表現200の鉄則』（永山嘉昭ら、日経BP社）を必要に応じて使います。

科目名	文章表現コミュニケーション（発展）		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース2年生の必修科目

このクラスでは、論理的文章を書くことをトレーニングする。論理的文章とは、読み手に対し、自説を誤解されことなく、説得的に展開する文章のことである。将来、企画書、レポート、論文などを書く際に有益な内容を目指している。

<注意>

鈴木の担当する前期「I」を履修したものは、後期の鈴木と同科目「II」を履修することは原則として認めない。

内容

論理的文章を作成するために必要な材料、構成、修辞などについて、ワークシートなどを使いながら実践的に習得していく。

1-4週：誤解のメカニズムとそれを防ぐための修辞（ボキャブラリー、接続詞など）の重要性。

5-11週：ワークシートを使い、論理的文章の構成について実践指導。

12-14週：試験形式による、文章作成。

15週：まとめ

評価

授業中に書く文章やレポート=60点、授業への取り組み=40点 計100点で60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に適宜指示をします。

科目名	音声表現コミュニケーション（基礎）		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「聞く」ことと「話す」ことは、「読む」こと「書く」ことと並んでコミュニケーションの基本です。ところが、人の話を聞いても理解できない、自分の考えを分かりやすく人に伝えることが苦手だと感じている学生が多く、話しことばによるコミュニケーションの力が落ちているといわれます。この授業では、現代社会におけるコミュニケーションについて考察し、自分のことばで考え、自分のことばで伝える力を養います。

内容

話しことばによるコミュニケーションの基本として、まず読む力を鍛えます。新聞・随筆・文学作品などを読み、その内容を正確にとらえ、人に伝えるポイントを学びます。日本語の音声表現の基礎を学びながら、自分の意見や考えを的確に相手の心に届けるための演習を行います。スピーチや発表を行い、それをお互いに批評しあって、表現力や構成力を付けていきます。

評価

授業内での実技演習(40%)、期末のレポート(40%)、授業への貢献度(20%)を総合して評価し、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】話しことばの花束（好本恵、リヨン社）
- 【推薦書】基礎から学ぶアナウンス（半谷進彦・佐々木端、NHK出版）
- 【推薦書】新版NHKアナウンス・セミナー（NHK出版）

科目名	音声表現コミュニケーション（基礎）		
担当教員名	小田 貞夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：「あなたは人の話を聞いてその内容を理解できますか」「あなたは自分の考えを相手にわかりやすく話して伝えることができますか」。聞くこと・話すこと 話し言葉を使ったコミュニケーション は、皆さんの社会生活で欠かすことのできない行為です。しかし、近ごろの若者はコミュニケーション力が不足しているとの指摘が聞かれます。日本経団連の「新卒採用に関するアンケート調査」によれば、企業が選考時に重視する要素はコミュニケーション力が8年連続で1位。就職活動に当たってもコミュニケーションの力をつけることが必要なことを示すデータです。この科目は、マスメディアコースの必修科目としてコミュニケーションの理論と実践を学んでコミュニケーション力をつけることを目指すもので、とくに話し言葉によるコミュニケーションに特化して授業を進めます。科目の概要： コミュニケーションの基礎理論を学んだあと、その応用として「聞く力をつける」「会話の達人」「パブリックスピーキング」「インタビュー」「プレゼンテーション」「面接」などの実習を繰り返します。学修目標： 1. 初対面の人と会話ができる 2. 人前で話をするときに上がらずに済む 3. 人の話の内容を的確に把握したうえで報告ができる 4. 自分の考えをわかりやすく伝えることができる

内容

1	コミュニケーションとは : 序論?
2	コミュニケーションとは : 話し言葉vs書き言葉?
3	聞き上手を目指す ?
4	聞き上手を目指す ?
5	会話の達人 ?
6	会話の達人 ?
7	スピーチの理論と実習: 初級 ?
8	スピーチの理論と実習: 初級
9	スピーチの理論と実習: 初級 ?
10	聞き取り・理解・報告 ?
11	聞き取り・理解・報告 ?
12	スピーチ実習: 中級 ?
13	スピーチ実習: 中級 ?
14	スピーチ実習: 中級 ?
15	まとめ?

評価

毎回提出のリアクションペーパー：30% 実習：70% 60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は「再試験」(レポート)を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト類は使いません。必要に応じてその都度資料を配布します。推薦書もその都度紹介します。？

科目名	音声表現コミュニケーション（基礎）		
担当教員名	小田 貞夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：「あなたは人の話を聞いてその内容を理解できますか」「あなたは自分の考えを相手にわかりやすく話して伝えることができますか」。聞くこと・話すこと 話し言葉を使ったコミュニケーション は、皆さんの社会生活で欠かすことのできない行為です。しかし、近ごろの若者はコミュニケーション力が不足しているとの指摘が聞かれます。日本経団連の「新卒採用に関するアンケート調査」によれば、企業が選考時に重視する要素はコミュニケーション力が8年連続で1位。就職活動に当たってもコミュニケーションの力をつけることが必要なことを示すデータです。この科目は、マスメディアコースの必修科目としてコミュニケーションの理論と実践を学んでコミュニケーション力をつけることを目指すもので、とくに話し言葉によるコミュニケーションに特化して授業を進めます。科目の概要： コミュニケーションの基礎理論を学んだあと、その応用として「聞く力をつける」「会話の達人」「パブリックスピーキング」「インタビュー」「プレゼンテーション」「面接」などの実習を繰り返します。学修目標： 1. 初対面の人と会話ができる 2. 人前で話をするときに上がらずに済む 3. 人の話の内容を的確に把握したうえで報告ができる 4. 自分の考えをわかりやすく伝えることができる

内容

1	コミュニケーションとは : 序論?
2	コミュニケーションとは : 話し言葉vs書き言葉?
3	聞き上手を目指す ?
4	聞き上手を目指す ?
5	会話の達人 ?
6	会話の達人 ?
7	スピーチの理論と実習: 初級 ?
8	スピーチの理論と実習: 初級
9	スピーチの理論と実習: 初級 ?
10	聞き取り・理解・報告 ?
11	聞き取り・理解・報告 ?
12	スピーチ実習: 中級 ?
13	スピーチ実習: 中級 ?
14	スピーチ実習: 中級 ?
15	まとめ?

評価

毎回提出のリアクションペーパー：30% 実習：70% 60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は「再試験」（レポート）を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト類は使いません。必要に応じてその都度資料を配布します。推薦書もその都度紹介します。？

科目名	音声表現コミュニケーション（基礎）		
担当教員名	川野 一字		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「聞く」ことと「話す」ことは、「読む」こと「書く」ことと並んでコミュニケーションの基本です。ところが、近頃の若者は人の話を聞いても理解できないとか、自分の考えを分かりやすく人に伝えることが下手だとか、話しことばによるコミュニケーションの力が落ちているといわれます。日本経団連が毎年行っている「新卒社員の採用に関するアンケート調査」のなかで「選考時に重視する要素」を聞いていますが、「コミュニケーション能力」を挙げた企業は5社に4社の割合にのぼり第1位です。特に求められているのが、話しことばで意思を通い合わせる力です。

「聞く力」「話す力」を育てることは就職活動に有利であるとか、将来社会に出たときの必須の能力だとかいうことに止まらず、好ましい人間関係を築いていく上で不可欠のことなのです。この授業では、話しことばによるコミュニケーションの基本と応用を、理論の学習と実技の演習をとおして学びます

内容

コミュニケーション力は、日常の実践をとおして養われます。この授業では毎回、人の話を聞く、文章を読んだりスピーチをしたりする。それを互いに批評しあって、聞くことと話すことのポイントを掴むことに努める。その繰り返しで理解力と表現力、構成力を付けていくことを目指します。この授業を担当する3人の教員はいずれもNHKのアナウンサーや記者として長いキャリアを持つ、話しことばによるコミュニケーションのプロです。それぞれの多彩な体験や豊富な知識を盛り込みながら授業を進め、日本語表現の素晴らしさを皆さんに理解してもらい、実践してもらいます。

授業の内容や進め方は教員によって異なりますが、概ね次のようなテーマを取り上げます。

人の話を聞いて理解する 会話を磨く 自己紹介と話しことばのコミュニケーション
 発声と発音 声に出して読む スピーチ 話の組み立て 報告・リポート・プレゼンテーション
 インタビューと取材 敬意表現 会議の企画と進行 ディベート ○
 グループディスカッション

評価

最初の授業で各教員から評価について説明しますが、授業への出席状況を重視します。そのほか、授業内での実技演習、期末のテストあるいはレポートを総合して評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】については、最初の授業で各教員から指示や説明があります。

科目名	音声表現コミュニケーション（基礎）		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「聞く」ことと「話す」ことは、「読む」こと「書く」ことと並んでコミュニケーションの基本です。ところが、人の話を聞いても理解できない、自分の考えを分かりやすく人に伝えることが苦手だと感じている学生が多く、話しことばによるコミュニケーションの力が落ちているといわれます。この授業では、現代社会におけるコミュニケーションについて考察し、自分のことばで考え、自分のことばで伝える力を養います。

内容

話しことばによるコミュニケーションの基本として、まず読む力を鍛えます。新聞・随筆・文学作品などを読み、その内容を正確にとらえ、人に伝えるポイントを学びます。日本語の音声表現の基礎を学びながら、自分の意見や考えを的確に相手の心に届けるための演習を行います。スピーチや発表を行い、それをお互いに批評しあって、表現力や構成力を付けていきます。

評価

授業内での実技演習(40%)、期末のレポート(40%)、授業への貢献度(20%)を総合して評価し、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】話しことばの花束（好本恵、リヨン社）
- 【推薦書】基礎から学ぶアナウンス（半谷進彦・佐々木端、NHK出版）
- 【推薦書】新版NHKアナウンス・セミナー（NHK出版）

科目名	音声表現コミュニケーション（発展）		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

現代は、どの社会にあっても高いコミュニケーション能力が求められます。

自分のことばで自分の考えをまとめ、相手の心に的確に届けられる話し手になるために、また相手の立場に立って話をしっかり聴ける人間になるためにどうしたらよいのかを考えます。

さらに、さまざまな人間関係とコミュニケーションについても考察し、敬語のポイントも学びます。

内容

コミュニケーション力は、日常の実践をとおして養われます。この授業では毎回、人の話を聞き、文章を読んだりスピーチをしたりします。

それを互いに批評しあって、聞くことと話すことのポイントを押さえます。さらに、インタビューやパワーポイントを使っての発表なども行います。

評価

授業内での実技演習(40%)、期末のレポート(40%)、授業への貢献度(20%)を総合して評価し、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】話しことばの花束（好本恵、リヨン社）

【推薦書】基礎から学ぶアナウンス（半谷進彦・佐々木端、NHK出版）

【推薦書】新版NHKアナウンス・セミナー（NHK出版）

科目名	音声表現コミュニケーション（発展）		
担当教員名	小田 貞夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：「あなたは人の話を聞いてその内容を理解できますか」「あなたは自分の考えを相手にわかりやすく話して伝えることができますか」。聞くこと・話すこと 話し言葉を使ったコミュニケーション は、皆さんの社会生活で欠かすことのできない行為です。しかし、近ごろの若者はコミュニケーション力が不足しているとの指摘が聞かれます。日本経団連の「新卒採用に関するアンケート調査」によれば、企業が選考時に重視する要素はコミュニケーション力が8年連続で1位。就職活動に当たってもコミュニケーションの力をつけることが必要なことを示すデータです。この科目は、マスメディアコースの必修科目としてコミュニケーションの理論と実践を学んでコミュニケーション力をつけることを目指すもので、とくに話し言葉によるコミュニケーションに特化して授業を進めます。科目の概要： コミュニケーションの基礎理論を学んだあと、その応用として「聞く力をつける」「会話の達人」「パブリックスピーキング」「インタビュー」「プレゼンテーション」「面接」などの実習を繰り返します。学修目標： 1．初対面の人と会話ができる 2．人前で話をするときに上がらずに済む 3．人の話の内容を的確に把握したうえで報告ができる 4．自分の考えをわかりやすく伝えることができる

内容

1	ワークショップ：企画会議
2	ワークショップ：企画会議
3	グループディスカッション
4	グループディスカッション
5	グループディスカッション
6	インタビュー
7	インタビュー
8	インタビュー
9	スピーチ実習：上級
10	スピーチ実習：上級
11	スピーチ実習：上級
12	プレゼンテーション
13	面接実習
14	面接実習
15	まとめ

評価

毎回提出のリアクションペーパー：30% 実習：70% 60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は「再試験」（レポート）を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト類は使いません。必要に応じてその都度資料を配布します。推薦書もその都度紹介します。？

科目名	音声表現コミュニケーション（発展）		
担当教員名	小田 貞夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：「あなたは人の話を聞いてその内容を理解できますか」「あなたは自分の考えを相手にわかりやすく話して伝えることができますか」。聞くこと・話すこと 話し言葉を使ったコミュニケーション は、皆さんの社会生活で欠かすことのできない行為です。しかし、近ごろの若者はコミュニケーション力が不足しているとの指摘が聞かれます。日本経団連の「新卒採用に関するアンケート調査」によれば、企業が選考時に重視する要素はコミュニケーション力が8年連続で1位。就職活動に当たってもコミュニケーションの力をつけることが必要なことを示すデータです。この科目は、マスメディアコースの必修科目としてコミュニケーションの理論と実践を学んでコミュニケーション力をつけることを目指すもので、とくに話し言葉によるコミュニケーションに特化して授業を進めます。科目の概要： コミュニケーションの基礎理論を学んだあと、その応用として「聞く力をつける」「会話の達人」「パブリックスピーキング」「インタビュー」「プレゼンテーション」「面接」などの実習を繰り返します。学修目標： 1. 初対面の人と会話ができる 2. 人前で話をするときに上がらずに済む 3. 人の話の内容を的確に把握したうえで報告ができる 4. 自分の考えをわかりやすく伝えることができる

内容

1	ワークショップ：企画会議
2	ワークショップ：企画会議
3	グループディスカッション
4	グループディスカッション
5	グループディスカッション
6	インタビュー
7	インタビュー
8	インタビュー
9	スピーチ実習：上級
10	スピーチ実習：上級
11	スピーチ実習：上級
12	プレゼンテーション
13	面接実習
14	面接実習
15	まとめ

評価

毎回提出のリアクションペーパー：30% 実習：70% 60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は「再試験」（レポート）を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト類は使いません。必要に応じてその都度資料を配布します。推薦書もその都度紹介します。？

科目名	音声表現コミュニケーション（発展）		
担当教員名	川野 一字		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「聞く」ことと「話す」ことは、「読む」こと「書く」ことと並んでコミュニケーションの基本です。ところが、近頃の若者は人の話を聞いても理解できないとか、自分の考えを分かりやすく人に伝えることが下手だとか、話しことばによるコミュニケーションの力が落ちているといわれます。日本経団連が毎年行っている「新卒社員の採用に関するアンケート調査」のなかで「選考時に重視する要素」を聞いていますが、「コミュニケーション能力」を挙げた企業は5社に4社の割合にのぼり第1位です。特に求められているのが、話しことばで意思を通い合わせる力です。

「聞く力」「話す力」を育てることは就職活動に有利であるとか、将来社会に出たときの必須の能力だとかいうことに止まらず、好ましい人間関係を築いていく上で不可欠のことなのです。この授業では、話しことばによるコミュニケーションの基本と応用を、理論の学習と実技の演習をとおして学びます

内容

コミュニケーション力は、日常の実践をとおして養われます。この授業では毎回、人の話を聞く、文章を読んだりスピーチをしたりする。それを互いに批評しあって、聞くことと話すことのポイントを掴むことに努める。その繰り返して理解力と表現力、構成力を付けていくことを目指します。この授業を担当する3人の教員はいずれもNHKのアナウンサーや記者として長いキャリアを持つ、話しことばによるコミュニケーションのプロです。それぞれの多彩な体験や豊富な知識を盛り込みながら授業を進め、日本語表現の素晴らしさを皆さんに理解してもらい、実践してもらいます。

授業の内容や進め方は教員によって異なりますが、概ね次のようなテーマを取り上げます。

人の話を聞いて理解する 会話を磨く 自己紹介と話しことばのコミュニケーション
 発声と発音 声に出して読む スピーチ 話の組み立て 報告・リポート・プレゼンテーション
 インタビューと取材 敬意表現 会議の企画と進行 ディベート ○
 グループディスカッション

評価

最初の授業で各教員から評価について説明しますが、授業への出席状況を重視します。そのほか、授業内での実技演習、期末のテストあるいはレポートを総合して評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】については、最初の授業で各教員から指示や説明があります。

科目名	音声表現コミュニケーション（発展）		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

現代は、どの社会にあっても高いコミュニケーション能力が求められます。

自分のことばで自分の考えをまとめ、相手の心に的確に届けられる話し手になるために、また相手の立場に立って話をしっかり聴ける人間になるためにどうしたらよいのかを考えます。

さらに、さまざまな人間関係とコミュニケーションについても考察し、敬語のポイントも学びます。

内容

コミュニケーション力は、日常の実践をとおして養われます。この授業では毎回、人の話を聞き、文章を読んだりスピーチをしたりします。

それを互いに批評しあって、聞くことと話すことのポイントを押さえます。さらに、インタビューやパワーポイントを使っての発表なども行います。

評価

授業内での実技演習(40%)、期末のレポート(40%)、授業への貢献度(20%)を総合して評価し、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】話しことばの花束（好本恵、リヨン社）

【推薦書】基礎から学ぶアナウンス（半谷進彦・佐々木端、NHK出版）

【推薦書】新版NHKアナウンス・セミナー（NHK出版）

科目名	トレンド・ウォッチ		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

これから時事問題を学んでいく前提として、まず広い視野でバランス感覚を大切にしながら多様な事象を理解する。

科目の概要

今日の大事件や国際問題や政治、経済、文化等各分野で起きる出来事の骨格的かつ歴史的な流れを見据え、それぞれが絡まり合って展開していく要素も理解する。

学修目標

- 1 日々のニュースに親しむ学修環境を高める。温故知新の発想を持ち、歴史をつくる人間の偉大さと愚かさにも気づいてもらう。
- 2 経済・政治・社会・国際分野のニュース理解はもとより、時代を映す世相・流行等の社会現象も感性豊かに洞察できるよう努める。

内容

1	ガイダンス：以下の骨格的項目は、時時刻刻のニュースにより変更がある。
2	政治（選挙と政治）
3	政治（憲法と政治）
4	政治（国の政策と政治）
5	政治（地方と政治）
6	社会（法律と社会）
7	社会（教育と社会）
8	社会（少子高齢化と社会）
9	社会（男女共同参画と社会）
10	社会（世相と社会）
11	社会（情報と社会）
12	経済（財政と経済）
13	経済（企業と経済）
14	経済（国際社会と経済）
15	まとめ

評価

授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に紹介する。

科目名	トレンド・ウォッチ		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

前期で学んだ内容を踏まえ、受講者のニュース感覚が一層増すよう努める。

科目の概要

前期の政治・社会・経済・国際分野の事象理解を受け、その後発生するニュースを見据えてさらに踏みこむ。ハード面のトレンドだけでなく、流行・文化等のトレンドテーマも時代を読むポイントととして掘り下げる。

学修目標

- 1 歴史を作ってきた人間というものを理解することで、時事問題の本質を見抜く洞察力を養いたい。
- 2 ニューストレンドを見抜く目を養うことが、これから社会で生きる力、就職への自信につながる。

内容

1	社会(流行と社会)
2	社会(環境と社会)
3	社会(時事的テーマに即して)
4	文化(時事的テーマに即して)
5	文化(時事的テーマに即して)
6	文化(時事的テーマに即して)
7	経済(時事的テーマに即して)
8	経済(時事的テーマに即して)
9	経済(時事的テーマに即して)
10	政治(時事的テーマに即して)
11	政治(時事的テーマに即して)
12	政治(時事的テーマに即して)
13	国際社会(時事的テーマに即して)
14	国際社会(時事的テーマに即して)
15	まとめ

評価

授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に紹介する。

科目名	時事解説		
担当教員名	岡本 卓、阿部 史、川口 英俊、込江 雅彦 他		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、国内外の政治や経済、事件事故から環境問題まで幅広い社会問題、朝鮮半島情勢や米朝、日朝関係、さらには核開発/核軍縮問題等の国際関係など、それぞれのテーマを専門とする教員が、その時々タイムリーなニュースを取り上げて解説(講義)するものである。3年次必修の「時事問題ワークショップ」につながる科目でもある。

受講生は、日々のニュースについてその歴史的、国際的な視点にたった多角的な分析力を養い、現代を生きる我々に不可欠な「複眼思考」を身につけることになる。

従って、毎日の新聞記事を読み、テレビニュースを視聴することが最も重要である。日常生活を送りながら、国内外で起きる様々なニュース、出来事に関心を持ち、社会や国、世界に広く目を広げる“習慣”をつけてもらいたい。

内容

毎回、時事的なテーマを決めて、1回完結の授業である。

2010年度前期(4月~7月)に取り上げた15回のテーマは以下のとおりである。

- 1) 2010年の展望(授業ガイダンスを兼ねて)
- 2) 巨大地震はいつ日本を襲うか
- 3) 事業仕分けと行政改革
- 4) 殺人罪の時効廃止と刑務所民営化
- 5) 裁判員制度1周年
- 6) 沖縄・普天間基地問題
- 7) ワールド杯とビジネス効果
- 8) 自殺社会
- 9) どうなる!北朝鮮問題
- 10) 日米安保50周年
- 11) 消費者金融と貸金業法
- 12) 参議院選挙ってなあに?
- 13) 参議院選挙結果
- 14) 子育てと法律
- 15) i-Pad

授業の進め方だが、毎回の授業で、翌週のテーマと課題、担当教員を予告する。(第1回の授業はガイダンスを兼ねて行うので、予めテーマと課題を示すことはない)

受講生は、示されたテーマと課題について参考図書や新聞記事、テレビニュース、インターネットの情報検索などで調べる。その結果を「予習レポート」にまとめ、授業開始直前に教室で教員に提出する。レポート用紙は前の週に配布するので、必ず受け取り、この用紙を使用すること。

授業終了の約10分前に、その日の授業内容の理解度をみるための「ミニテスト」を行う。用紙は授業前に配布する。

評価

毎回提出する「予習レポート」と「ミニテスト」の2枚がそろうことが評価の条件である。どちらか1つだけの提出は評価の対象にはならない。

「予習レポート」50点 + 「ミニテスト」50点 = 100点　60点以上が合格点

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テーマに即した資料を配布するほか、必要に応じて参考図書などを紹介する。

科目名	時事解説		
担当教員名	岡本 卓、阿部 史、川口 英俊、込江 雅彦 他		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、国内外の政治や経済、事件事故から環境問題まで幅広い社会問題、朝鮮半島情勢や米朝、日朝関係、さらには核開発/核軍縮問題等の国際関係など、それぞれのテーマを専門とする教員が、その時々タイムリーなニュースを取り上げて解説(講義)するものである。3年次必修の「時事問題ワークショップ」につながる科目でもある。

受講生は、日々のニュースについてその歴史的、国際的な視点にたった多角的な分析力を養い、現代を生きる我々に不可欠な「複眼思考」を身につけることになる。

従って、毎日の新聞記事を読み、テレビニュースを視聴することが最も重要である。日常生活を送りながら、国内外で起きる様々なニュース、出来事に興味を持ち、社会や国、世界に広く目を広げる“習慣”をつけてもらいたい。

内容

毎回、時事的なテーマを決めて、1回完結の授業である。

2010年度後期(9月~11年1月)に取り上げた15回のテーマは以下のとおりである。

- 1) 参議院選挙をめぐって
- 2) 円高と日本経済
- 3) 刑場公開~死刑制度とメディア~
- 4) なぜ冤罪は絶えないのか
- 5) 国民の司法への信頼
- 6) 日中関係~過去・現在・未来~
- 7) 米中間選挙~米経済とオバマ不人気~
- 8) 生物多様性条約
- 9) 菅内閣とその課題
- 10) 領土問題~北方領土・尖閣諸島・竹島~
- 11) 地球温暖化問題
- 12) 大学生の就職活動
- 13) 北朝鮮の核政策と6者協議
- 14) 不妊治療と出産の制度的課題
- 15) まとめ(2010年総括と2011年展望)

授業の進め方だが、毎回の授業で、翌週のテーマと課題、担当教員を予告する。(第1回の授業はガイダンスを兼ねて行うので、予めテーマと課題を示すことはない)

受講生は、示されたテーマと課題について参考図書や新聞記事、テレビニュース、インターネットの情報検索などで調べる。その結果を「予習レポート」にまとめ、授業開始直前に教室で教員に提出する。レポート用紙は前の週に配布するので、必ず受け取り、この用紙を使用すること。

授業終了の約10分前に、その日の授業内容の理解度をみるための「ミニテスト」を行う。用紙は授業前に配布する。

評価

毎回提出する「予習レポート」と「ミニテスト」の2枚がそろうことが評価の条件である。どちらか1つだけの提出は評価の対象にはならない。

「予習レポート」50点 + 「ミニテスト」50点 = 100点　60点以上が合格点

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テーマに即した資料を配テーマ布するほか、必要に応じて参考図書などを紹介する。

科目名	時事問題ワークショップ		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目はマスメディアコース3年次の必修科目である。1年次の「トレンド・ウォッチ」、2年次の「時事解説」で養った時事問題に関する知識と視点をもとに、日本と世界が直面するさまざまな問題を自ら深く調べ、議論する。こうした行為/作業を繰り返していく中で、それまでに得た時事問題に関する知識をもとにして「自分の意見/考え方」を形成し、さらにそれをプレゼンテーションする能力を養うのが目的である。

内容

その時々日本や世界が直面する諸課題を取り上げる。受講生は担当教員の指示/指導のもとで、諸課題の内容や歴史的背景などを調べ、さらには解決への道筋等を考えて発表、議論する。

2010年度前期に取り上げた主なテーマは以下の通りである。

- * 民主党内閣のもとでの国会の動きに連動させて日本国憲法の諸規定について
- * 地球温暖化問題(難航するポスト京都議定書問題)
- * 殺人罪時効廃止問題/刑務所民営化問題
- * ランドラッシュ(「土地」を求めてアフリカに進出する中国の動きを中心に)
- * 世界経済の潮流(G7時代からG8を経てG20の時代へ) など

評価

適宜行う試験の結果に受講生の下調べ、発表に取り組む姿勢/態度を加えて評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参考図書/情報は適宜紹介する。

科目名	時事問題ワークショップ		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

一年次の「トレンド・ウォッチ」、2年次の「時事解説」で養った時事問題に関する背景知識と視点をもとに、現代社会のさまざまな問題を正確に把握したうえで、事象に対する自分の見解を述べられるように努める。

科目の概要

事象に対する正しい認識を的確な資料で各自が整理し、教員のポイント説明を踏まえたうえで、事実認識と自分の見解意見を切り分けて、まとめる。

学修目標

- 1 正確な事実をもとにして自分の意見を構築し、それをプレゼンテーションする能力を養う。
- 2 政治・経済・国際・社会・文化・スポーツ等の時事的テーマは、それぞれが繋がっていて影響し合うことが多く、一分野に偏らない平衡感覚と洞察力を養う。

内容

時事問題を「生きた社会の勉強」のために用い、自らの「社会を見る力」を高める機会とすることは極めて大切である。日々生起するニュース・事件は、政治・経済・国際・社会分野のみならず、文化・スポーツ分野も繋がっていて、それぞれが絡み合い、また新たなニュースを生み出すマグマとなることが多いからである。時事問題を点と点ではなく、人間の歴史も見据えて線的、面的な広がりの中で洞察していく力を養いたい。

評価

授業への取り組み70点、試験30点の計100点で60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	時事問題ワークショップ		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、マスメディアコース3年生の必修科目で、1年次の「トレンド・ウォッチ」、2年次の「時事解説」で養った、時事問題に関する背景知識と視点を元に、現代社会のさまざまな問題を自ら深く調べ、議論する。こうした行為を繰り返していく中で、これまで得た、時事問題に関する「知識」を元に、それに対する自分の「意見」を形成し、さらにそれをプレゼンテーションする能力を養うのが目的である。

内容

教員の指示する時事問題に関し、プレゼンテーション、ディベートおよび小論文作成を行う。

授業の進め方：

一つのテーマにつき、原則2回の授業を行う。

1. (ホームワーク) 調査+プレゼン資料作成

教員が決定したテーマについて、二つのチームに別れ、それぞれ異なる立場(これはそのつど鈴木が指示する)を正当化するための資料を集め、それらを吟味したプレゼン資料(A4で1枚)を全員がワードかパワーポイントで作成し、1部プリントアウトして持ってくるとともに、USBメモリーに入れて持参する(プロジェクターを使ったプレゼン用)。

2. (第一回目授業) プレゼン

プレゼンテーションは、各チーム数名を鈴木が指名するので、調べてきたことを「みんなに分かり易く」プレゼンする(資料を棒読みするのではない)。プレゼンターは質問にも応答する。プレゼン資料は、全員が最後に提出する(採点対象)。

3. (第二回目授業) ディベート

各チームの立場からのプレゼンを聞き、各チームで自分たちの主張をより強化する論理と、相手の主張を突き崩す論理を考える。ディベーターを各チーム2-3人、鈴木が指名するので、反論、質問などの討論を行う。

4. (第二回目授業) 論述

ディベート終了後、自分のチームではなく、自分「個人の」意見を、「説得的に」論述し、提出する(採点対象)。このため、各自400字詰め原稿用紙を持参すること。

評価

提出物(50%)およびプレゼンテーション・ディベート(50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず

科目名	時事問題ワークショップ		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、マスメディアコース3年生の必修科目で、1年次の「トレンド・ウォッチ」、2年次の「時事解説」で養った、時事問題に関する背景知識と視点を元に、現代社会のさまざまな問題を自ら深く調べ、議論する。こうした行為を繰り返していく中で、これまで得た、時事問題に関する「知識」を元に、それに対する自分の「意見」を形成し、さらにそれをプレゼンテーションする能力を養うのが目的である。

内容

教員の指示する時事問題に関し、プレゼンテーション、ディベートおよび小論文作成を行う。

授業の進め方：

一つのテーマにつき、原則2回の授業を行う。

1. (ホームワーク) 調査+プレゼン資料作成

教員が決定したテーマについて、二つのチームに別れ、それぞれ異なる立場(これはそのつど鈴木が指示する)を正当化するための資料を集め、それらを吟味したプレゼン資料(A4で1枚)を全員がワードかパワーポイントで作成し、1部プリントアウトして持ってくるとともに、USBメモリーに入れて持参する(プロジェクターを使ったプレゼン用)。

2. (第一回目授業) プレゼン

プレゼンテーションは、各チーム数名を鈴木が指名するので、調べてきたことを「みんなに分かり易く」プレゼンする(資料を棒読みするのではない)。プレゼンターは質問にも応答する。プレゼン資料は、全員が最後に提出する(採点対象)。

3. (第二回目授業) ディベート

各チームの立場からのプレゼンを聞き、各チームで自分たちの主張をより強化する論理と、相手の主張を突き崩す論理を考える。ディベーターを各チーム2-3人、鈴木が指名するので、反論、質問などの討論を行う。

4. (第二回目授業) 論述

ディベート終了後、自分のチームではなく、自分「個人の」意見を、「説得的に」論述し、提出する(採点対象)。このため、各自400字詰め原稿用紙を持参すること。

評価

提出物(50%)およびプレゼンテーション・ディベート(50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず

科目名	時事問題ワークショップ		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目はマスメディアコース3年次の必修科目である。1年次の「トレンド・ウォッチ」、2年次の「時事解説」で養った時事問題に関する知識と視点をもとに、日本と世界が直面するさまざまな問題を自ら深く調べ、議論する。こうした行為/作業を繰り返していく中で、それまでに得た時事問題に関する知識をもとにして「自分の意見/考え方」を形成し、さらにそれをプレゼンテーションする能力を養うのが目的である。

内容

その時々日本や世界が直面する諸課題を取り上げる。受講生は担当教員の指示/指導のもとで、諸課題の内容や歴史的背景などを調べ、さらには解決への道筋等を考えて発表、議論する。

2010年度後期に取り上げた主なテーマは以下の通りである。

- * 地球温暖化問題 (COP16に連動させて)
- * 原子力発電問題 (チェルノブイリ事故から原発回帰の動き)
- * 生物多様性条約 (名古屋会議に連動させて)
- * 日本の領土問題 (尖閣沖事件、ロシア首相の国後島訪問に連動させて)
- * 靖国神社問題 など

評価

適宜行う試験の結果に受講生の下調べ、発表に取り組む姿勢/態度を加えて評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参考図書/情報は適宜紹介する。

科目名	時事問題ワークショップ		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

前期までに蓄積した時事問題に関する背景知識と視点をもとに、現代社会のさまざまな問題を広い視野で正確に把握したうえで、事象に対する自分の見解を述べられるように努める。

科目の概要

事象に対する正しい認識を的確な資料で各自が整理し、教員のポイント説明を踏まえたうえで、事実認識と自分の見解意見を切り分けて、まとめる。

学修目標

- 1 正確な事実をもとにして自分の意見を構築し、それをプレゼンテーションする能力を養う。
- 2 政治・経済・国際・社会・文化・スポール等の時事的テーマを広範に取り上げ、一分野に偏らない平衡感覚と洞察力を養う。

内容

時事問題を「生きた社会の勉強」のために用い、自らの人間力を高める機会とすることは極めて大切である。日々、生起するニュースは、政治・経済・国際・社会分野のみならず、文化分野も繋がっていて、それぞれが絡み合い、また新たなニュースを生み出すマグマとなることが多いからである。現代社会の出来事、すなわち時事問題を点と点でなく、人間がくってきた歴史も見据えて、線的、面的な広がりの中で、洞察し、見通す力も養いたい。

評価

授業への取り組み70点、試験30点の計100点で60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	時事問題ワークショップ		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、マスメディアコース3年生の必修科目で、1年次の「トレンド・ウォッチ」、2年次の「時事解説」で養った、時事問題に関する背景知識と視点を元に、現代社会のさまざまな問題を自ら深く調べ、議論する。こうした行為を繰り返していく中で、これまで得た、時事問題に関する「知識」を元に、それに対する自分の「意見」を形成し、さらにそれをプレゼンテーションする能力を養うのが目的である。

内容

教員の指示する時事問題に関し、プレゼンテーション、ディベートおよび小論文作成を行う。

授業の進め方：

一つのテーマにつき、原則2回の授業を行う。

1. (ホームワーク) 調査+プレゼン資料作成

教員が決定したテーマについて、二つのチームに別れ、それぞれ異なる立場(これはそのつど鈴木が指示する)を正当化するための資料を集め、それらを吟味したプレゼン資料(A4で1枚)を全員がワードかパワーポイントで作成し、1部プリントアウトして持ってくるとともに、USBメモリーに入れて持参する(プロジェクターを使ったプレゼン用)。

2. (第一回目授業) プレゼン

プレゼンテーションは、各チーム数名を鈴木が指名するので、調べてきたことを「みんなに分かり易く」プレゼンする(資料を棒読みするのではない)。プレゼンターは質問にも応答する。プレゼン資料は、全員が最後に提出する(採点対象)。

3. (第二回目授業) ディベート

各チームの立場からのプレゼンを聞き、各チームで自分たちの主張をより強化する論理と、相手の主張を突き崩す論理を考える。ディベーターを各チーム2-3人、鈴木が指名するので、反論、質問などの討論を行う。

4. (第二回目授業) 論述

ディベート終了後、自分のチームではなく、自分「個人の」意見を、「説得的に」論述し、提出する(採点対象)。このため、各自400字詰め原稿用紙を持参すること。

評価

提出物(50%)およびプレゼンテーション・ディベート(50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず

科目名	時事問題ワークショップ		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、マスメディアコース3年生の必修科目で、1年次の「トレンド・ウォッチ」、2年次の「時事解説」で養った、時事問題に関する背景知識と視点を元に、現代社会のさまざまな問題を自ら深く調べ、議論する。こうした行為を繰り返していく中で、これまで得た、時事問題に関する「知識」を元に、それに対する自分の「意見」を形成し、さらにそれをプレゼンテーションする能力を養うのが目的である。

内容

教員の指示する時事問題に関し、プレゼンテーション、ディベートおよび小論文作成を行う。

授業の進め方：

一つのテーマにつき、原則2回の授業を行う。

1. (ホームワーク) 調査+プレゼン資料作成

教員が決定したテーマについて、二つのチームに別れ、それぞれ異なる立場(これはそのつど鈴木が指示する)を正当化するための資料を集め、それらを吟味したプレゼン資料(A4で1枚)を全員がワードかパワーポイントで作成し、1部プリントアウトして持ってくるとともに、USBメモリーに入れて持参する(プロジェクターを使ったプレゼン用)。

2. (第一回目授業) プレゼン

プレゼンテーションは、各チーム数名を鈴木が指名するので、調べてきたことを「みんなに分かり易く」プレゼンする(資料を棒読みするのではない)。プレゼンターは質問にも応答する。プレゼン資料は、全員が最後に提出する(採点対象)。

3. (第二回目授業) ディベート

各チームの立場からのプレゼンを聞き、各チームで自分たちの主張をより強化する論理と、相手の主張を突き崩す論理を考える。ディベーターを各チーム2-3人、鈴木が指名するので、反論、質問などの討論を行う。

4. (第二回目授業) 論述

ディベート終了後、自分のチームではなく、自分「個人の」意見を、「説得的に」論述し、提出する(採点対象)。このため、各自400字詰め原稿用紙を持参すること。

評価

提出物(50%)およびプレゼンテーション・ディベート(50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず

科目名	トレンド・ウォッチ（前編）		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

これから時事問題を学んでいく前提として、まず広い視野でバランス感覚を大切にしながら多様な事象を理解する。

科目の概要

今日の大事件や国際問題や政治、経済、文化等各分野で起きる出来事の骨格的かつ歴史的な流れを見据え、それぞれが絡まり合って展開していく要素も理解する。

学修目標

- 1 日々のニュースに親しむ学修環境を高める。温故知新の発想を持ち、歴史をつくる人間の偉大さと愚かさにも気づいてもらう。
- 2 経済・政治・社会・国際分野のニュース理解はもとより、時代を映す世相・流行等の社会現象も感性豊かに洞察できるよう努める。

内容

1	ガイダンス：以下の骨格的項目は、時時刻刻のニュースにより変更がある。
2	政治（選挙と政治）
3	政治（憲法と政治）
4	政治（国の政策と政治）
5	政治（地方と政治）
6	社会（法律と社会）
7	社会（教育と社会）
8	社会（少子高齢化と社会）
9	社会（男女共同参画と社会）
10	社会（世相と社会）
11	社会（情報と社会）
12	経済（財政と経済）
13	経済（企業と経済）
14	経済（国際社会と経済）
15	まとめ

評価

授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に紹介する。

科目名	トレンド・ウォッチ（後編）		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

前期で学んだ内容を踏まえ、受講者のニュース感覚が一層増すよう努める。

科目の概要

前期の政治・社会・経済・国際分野の事象理解を受け、その後発生するニュースを見据えてさらに踏みこむ。ハード面のトレンドだけでなく、流行・文化等のトレンドテーマも時代を読むポイントととして掘り下げる。

学修目標

- 1 歴史を作ってきた人間というものを理解することで、時事問題の本質を見抜く洞察力を養いたい。
- 2 ニューストレンドを見抜く目を養うことが、これから社会で生きる力、就職への自信につながる。

内容

1	社会（流行と社会）
2	社会（環境と社会）
3	社会（時事的テーマに即して）
4	文化（時事的テーマに即して）
5	文化（時事的テーマに即して）
6	文化（時事的テーマに即して）
7	経済（時事的テーマに即して）
8	経済（時事的テーマに即して）
9	経済（時事的テーマに即して）
10	政治（時事的テーマに即して）
11	政治（時事的テーマに即して）
12	政治（時事的テーマに即して）
13	国際社会（時事的テーマに即して）
14	国際社会（時事的テーマに即して）
15	まとめ

評価

授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	時事解説（前編）		
担当教員名	岡本 卓、阿部 史、川口 英俊、込江 雅彦 他		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は、国内外の政治や経済、事件事故から環境問題まで幅広い社会問題、朝鮮半島情勢や米朝、日朝関係、さらには核開発/核軍縮問題等の国際関係など、それぞれのテーマを専門とする教員が、その時々タイムリーなニュースを取り上げて解説（講義）するものである。3年次必修の「時事問題ワークショップ」につながる科目でもある。

受講生は、日々のニュースについてその歴史的、国際的な視点にたった多角的な分析力を養い、現代を生きる我々に不可欠な「複眼思考」を身につけることになる。

従って、毎日の新聞記事を読み、テレビニュースを視聴することが最も重要である。日常生活を送りながら、国内外で起きる様々なニュース、出来事に関心を持ち、社会や国、世界に広く目を広げる“習慣”をつけてもらいたい。

内容

毎回、時事的なテーマを決めて、1回完結の授業である。

2010年度前期（4月～7月）に取り上げた15回のテーマは以下のとおりである。

- 1) 2010年の展望（授業ガイダンスを兼ねて）
- 2) 巨大地震はいつ日本を襲うか
- 3) 事業仕分けと行政改革
- 4) 殺人罪の時効廃止と刑務所民営化
- 5) 裁判員制度1周年
- 6) 沖縄・普天間基地問題
- 7) ワールド杯とビジネス効果
- 8) 自殺社会
- 9) どうなる！北朝鮮問題
- 10) 日米安保50周年
- 11) 消費者金融と貸金業法
- 12) 参議院選挙ってなあに？
- 13) 参議院選挙結果
- 14) 子育てと法律
- 15) i-Pad

授業の進め方だが、毎回の授業で、翌週のテーマと課題、担当教員を予告する。（第1回の授業はガイダンスを兼ねて行うので、予めテーマと課題を示すことはない）

受講生は、示されたテーマと課題について参考図書や新聞記事、テレビニュース、インターネットの情報検索などで調べる。その結果を「予習レポート」にまとめ、授業開始直前に教室で教員に提出する。レポート用紙は前の週に配布するので、必ず受け取り、この用紙を使用すること。

授業終了の約10分前に、その日の授業内容の理解度をみるための「ミニテスト」を行う。用紙は授業前に配布する。

評価

毎回提出する「予習レポート」と「ミニテスト」の2枚がそろうことが評価の条件である。どちらか1つだけの提出は評価の対象にはならない。

「予習レポート」50点 + 「ミニテスト」50点 = 100点　60点以上が合格点

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テーマに即した資料を配布するほか、必要に応じて参考図書などを紹介する。

科目名	時事解説（後編）		
担当教員名	岡本 卓、阿部 史、川口 英俊、込江 雅彦 他		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は、国内外の政治や経済、事件事故から環境問題まで幅広い社会問題、朝鮮半島情勢や米朝、日朝関係、さらには核開発/核軍縮問題等の国際関係など、それぞれのテーマを専門とする教員が、その時々タイムリーなニュースを取り上げて解説（講義）するものである。3年次必修の「時事問題ワークショップ」につながる科目でもある。

受講生は、日々のニュースについてその歴史的、国際的な視点にたった多角的な分析力を養い、現代を生きる我々に不可欠な「複眼思考」を身につけることになる。

従って、毎日の新聞記事を読み、テレビニュースを視聴することが最も重要である。日常生活を送りながら、国内外で起きる様々なニュース、出来事に興味を持ち、社会や国、世界に広く目を広げる“習慣”をつけてもらいたい。

内容

毎回、時事的なテーマを決めて、1回完結の授業である。

2010年度後期（9月～11年1月）に取り上げた15回のテーマは以下のとおりである。

- 1) 参議院選挙をめぐって
- 2) 円高と日本経済
- 3) 刑場公開～死刑制度とメディア～
- 4) なぜ冤罪は絶えないのか
- 5) 国民の司法への信頼
- 6) 日中関係～過去・現在・未来～
- 7) 米中間選挙～米経済とオバマ不人気～
- 8) 生物多様性条約
- 9) 菅内閣とその課題
- 10) 領土問題～北方領土・尖閣諸島・竹島～
- 11) 地球温暖化問題
- 12) 大学生の就職活動
- 13) 北朝鮮の核政策と6者協議
- 14) 不妊治療と出産の制度的課題
- 15) まとめ（2010年総括と2011年展望）

授業の進め方だが、毎回の授業で、翌週のテーマと課題、担当教員を予告する。（第1回の授業はガイダンスを兼ねて行うので、予めテーマと課題を示すことはない）

受講生は、示されたテーマと課題について参考図書や新聞記事、テレビニュース、インターネットの情報検索などで調べる。その結果を「予習レポート」にまとめ、授業開始直前に教室で教員に提出する。レポート用紙は前の週に配布するので、必ず受け取り、この用紙を使用すること。

授業終了の約10分前に、その日の授業内容の理解度をみるための「ミニテスト」を行う。用紙は授業前に配布する。

評価

毎回提出する「予習レポート」と「ミニテスト」の2枚がそろうことが評価の条件である。どちらか1つだけの提出は評価の対象にはならない。

「予習レポート」50点 + 「ミニテスト」50点 = 100点　60点以上が合格点

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テーマに即した資料を配テーマ布するほか、必要に応じて参考図書などを紹介する。

科目名	コンピュータプレゼンテーション技法		
担当教員名	大西 由華		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

プレゼンテーションスキルは、今や社会人に不可欠なスキルの一つです。人前で挨拶をする、商品の説明をする、企画を発表するなど、伝えたいことを分かりやすく表現する能力が求められています。しかし、いきなり身につくものではありません。社会に出て必ず役に立つプレゼンテーションスキルを、今から少しずつ積み上げておきましょう。

授業では、標準プレゼンテーションツールともいえる『PowerPoint』の基本操作を覚え、内容を構成し、スライド作成をマスターします。そしてプレゼンテーションを実際に行い、周囲のフィードバックを受けながらプレゼンテーションの基礎を身につけていきます。

コンピュータ操作が中心となるため、履修人数を制限することがあります。

内容

- ・『PowerPoint』の基本操作
- ・プレゼンテーションのプランニングと構成
- ・スライドの作成
- ・人前で話すための基本姿勢
- ・プレゼンテーション演習

評価

授業態度40点、演習60点により評価を行い、60点以上を合格とします。試験は行いません。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

自主プリントを中心に使用し、必要に応じて随時紹介します。

科目名	コンピュータプレゼンテーション技法		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

・学科基礎専門科目での位置づけの通り、学科全員にデジタルデバイスを用いた効果的なプレゼンテーションスキルの習得と自分のメディア力を高めることを目指します。

科目の概要

・Power Pointを使える武器として使えるように実践的なスキルを、各自のコンテンツのプレゼンテーションをおこなうことを通して学びます。文字のレイアウト、音声、画像、動画の処理など高度なテクニックも取り入れたCoolなプレゼンテーションのTipsを習得しましょう。

・この授業は、アクティブラーニング(学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」)による参加型授業です。おすすめです。

・授業内の実習だけでは技術は向上しません、課題などハードなハードルも乗り越え、より高いもの達成したいという学生の受講を期待します。

学修目標

- ・プレゼンテーションの基本的な考え方や技能を理解する。
- ・Power Pointの実践的な活用スキルを身につける。

内容

- 1 コミュニケーションツールとしてのプレゼン技術
- 2 プレゼンテーションのゴールとは
- 3 わかりやすさわかりにくさの正体
- 4 PCデバイス利用の短所・長所
- 5 パワーポイント 基本操作
- 6 パワーポイント グラフ処理
- 7 パワーポイント アニメーション基礎
- 8 パワーポイント アニメーション応用
- 9 プレゼンテーションテーマ設定
- 10 調査活動
- 11 資料の作成
- 12 資料の完成
- 13 プレゼンテーションの実施
- 14 プレゼンテーションの実施・評価
- 15 まとめ

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問えを含む) Sel

f-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント(提出【基礎点】...1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S(4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	DTP演習		
担当教員名	大西 由華		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本の出版物がコンピュータで編集されるようになって20年が経ちました。アプリケーションソフトも成熟し、専門家だけでなくとも編集レイアウトが出来て、基本ルールを覚えれば、さらに美しく日本語を組むことが出来るようになりました。この授業では、レイアウトソフト『Adobe InDesign』を使って、DTPや組版の基礎から応用を学んでいきます。「コンピュータによるマガジン制作演習」を受講された方は、ステップアップ編として位置付けることができます。

コンピュータ操作が中心となるため、履修人数を制限することがあります。

内容

- ・オリエンテーション
- ・プリプレス基礎知識
- ・DTP 基礎知識
- ・組版基礎
- ・イラストや画像
- ・ツールの基本操作
- ・マスターページ
- ・ページレイアウト
- ・印刷

評価

授業態度40点、課題制作60点により評価を行い、60点以上を合格とします。試験は行いません。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

自主プリントを中心に使用し、必要に応じて随時紹介します。

科目名	ウェブ・デザイン		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

Webサイトのデザインを通して、情報をデザインする方法を学ぶ。

この授業は、アクティブラーニング(学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」)による参加型授業です。受講者には1年次の情報処理演習・で基礎スキルを身につけ、自ら発信したいコンテンツを持っている人であることが望ましい。デジタル環境下でのデザイン能力には、現実世界のアナログ情報とネット上のデジタル情報を収集・編集・統合し、自分のコンセプトや知見を具現化した新しいデジタルコンテンツとして再構築するスキルが求められる。各自の研究テーマに関連する知識リソースを収集し、それらを各自の視点に基づいて再編集した後、Web上での知識アーカイブとして発信するまでの、実践的デザイン能力を身に付けることを目指す。Webサイト作成の実習は授業だけでなく自習での作業が必須となる。したがって、多少、ハードな課題が多くなることが考えられる。

内容

- 第1回 基本スキルチェック、Webと情報デザイン
- 第2回 Webサイト研究 マーケティング・コミュニケーション
- 第3回 デザインとディレクション
- 第4回 各自プロジェクトの発表
- 第5回 HTML・XHTML
- 第6回 インターフェイスとユーザビリティ
- 第7回 アクセシビリティとSEO
- 第8回 レイアウトとCSS、Flash
- 第9回 Webページのコーディング
- 第10回 コーディング演習1
- 第11回 コーディング演習2
- 第12回 プレゼンテーション
- 第13回 ~第15回 Webサイトの構築演習1~3

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問を含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント(提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S(4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	コンピュータミュージック		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽(音声)コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase(キューベース)ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW(デジタル・オーディオ・ワークステーション)の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.DTM(デスクトップ・ミュージック)=コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。
- 2.このコンピュータミュージックではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習
- 2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
- 3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
- 4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品の制作

内容

- 第1回 ガイダンス、スタートアップ
- 第2回 MIDI レコーディングとエディット(1)~ステップ入力~スコアエディタ
- 第3回 MIDI レコーディングとエディット(2)~ステップ入力~キーエディタ
- 第4回 MIDI レコーディングとエディット(3)~リアルタイム入力
- 第5回 MIDI レコーディングとエディット(4)~ドラム入力
- 第6回 MIDI レコーディングとエディット(5)~ドラム入力
- 第7回 MIDI レコーディングとエディット(6)~スコア課題
- 第8回 MIDI レコーディングとエディット(7)~スコア課題
- 第9回 MIDIデータのオーディオ化~データのオーディオ化 ミックス オーディオファイルの書き出し
- 第10回 オーディオループ素材~オーディオループ素材を使って楽曲を作る
- 第11回 オーディオエディット~第9回、第10回で作った曲をメドレーにする
- 第12回 創作演習(1)~創作を含むより高度な演習課題
- 第13回 創作演習(2)~創作を含むより高度な演習課題
- 第14回 創作演習(3)~創作を含むより高度な演習課題 ミックスダウン
- 第15回 ミックスダウン CDライティング~簡易マスタリング オーディオの書き出し Windows Media Playerを使ったCDライティング

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して

参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

原則としてコンピュータミュージック を履修済みであることが望ましいが、初心者も受け入れ可能。その場合は別途コンピュータミュージック に相当する内容を学ぶことになる。 の内容についてはコンピュータミュージック のシラバスに準ずる。ただし、受講制限の必要が生じた場合には従来のガイドラインに加えて からの継続履修希望者を優先とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・書籍（ガイドブック）

Cubase Seires 徹底操作ガイド...株式会社 リットーミュージック

・DVD

Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座...株式会社 ウォンツ

ミュージック・マスターガイドDVD “CUBASE 4” ...株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータミュージック		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽(音声)コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase(キューベース)ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW(デジタル・オーディオ・ワークステーション)の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.DTM(デスクトップ・ミュージック)=コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。
- 2.このコンピュータミュージックではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習
- 2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
- 3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
- 4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品制作

内容

- 第1回 ガイダンス、スタートアップ
- 第2回 MIDI レコーディングとエディット(1)~ステップ入力~スコアエディタ
- 第3回 MIDI レコーディングとエディット(2)~ステップ入力~キーエディタ
- 第4回 MIDI レコーディングとエディット(3)~リアルタイム入力
- 第5回 MIDI レコーディングとエディット(4)~ドラム入力
- 第6回 MIDI レコーディングとエディット(5)~ドラム入力
- 第7回 MIDI レコーディングとエディット(6)~スコア課題
- 第8回 MIDI レコーディングとエディット(7)~スコア課題
- 第9回 MIDIデータのオーディオ化~データのオーディオ化 ミックス オーディオファイルの書き出し
- 第10回 オーディオループ素材~オーディオループ素材を使って楽曲を作る
- 第11回 オーディオエディット~第9回、第10回で作った曲をメドレーにする
- 第12回 創作演習(1)~創作を含むより高度な演習課題
- 第13回 創作演習(2)~創作を含むより高度な演習課題
- 第14回 創作演習(3)~創作を含むより高度な演習課題 ミックスダウン
- 第15回 ミックスダウン CDライティング~簡易マスタリング オーディオの書き出し Windows Media Playerを使ったCDライティング

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して

参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

原則としてコンピュータミュージック を履修済みであることが望ましいが、初心者も受け入れ可能。その場合は別途コンピュータミュージック に相当する内容を学ぶことになる。 の内容についてはコンピュータミュージック のシラバスに準ずる。ただし、受講制限の必要が生じた場合には従来のガイドラインに加えて からの継続履修希望者を優先とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・書籍（ガイドブック）

Cubase Seires 徹底操作ガイド...株式会社 リットーミュージック

・DVD

Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座...株式会社 ウォンツ

ミュージック・マスターガイドDVD “CUBASE 4” ...株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータミュージック		
担当教員名	小西 真理		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽(音声)コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase(キューベース)ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW(デジタル・オーディオ・ワークステーション)の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.DTM(デスクトップ・ミュージック)=コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。
- 2.このコンピュータミュージックではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。

MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作
という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習
- 2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
- 3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
- 4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品の制作

内容

- 第1回 ガイダンス、スタートアップ
- 第2回 MIDI レコーディングとエディット(1)~ステップ入力~スコアエディタ
- 第3回 MIDI レコーディングとエディット(2)~ステップ入力~スコアエディタ
- 第4回 MIDI レコーディングとエディット(3)~ステップ入力~キーエディタ
- 第5回 MIDI レコーディングとエディット(4)~リアルタイム入力
- 第6回 MIDI レコーディングとエディット(5)~ドラム入力
- 第7回 MIDI レコーディングとエディット(6)~ドラム入力
- 第8回 MIDI レコーディングとエディット(7)~スコア課題
- 第9回 MIDI レコーディングとエディット(8)~スコア課題
- 第10回 ミックスダウン MIDIデータのオーディオ化
- 第11回 オーディオループ素材~オーディオループ素材を使って楽曲を作る
- 第12回 創作演習(1)~創作を含むより高度な演習課題
- 第13回 創作演習(2)~創作を含むより高度な演習課題
- 第14回 創作演習(3)~創作を含むより高度な演習課題 ミックスダウン
- 第15回 Windows Media Playerを使ったCDライティング

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

コンピュータミュージック は基礎編に当たるため初心者（過去にコンピュータミュージック を履修していない者）のみを対象とします。

発展的内容の履修希望者は後期に開講されるコンピュータミュージック を履修してください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

原則、プリントを配布します。

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・ 書籍（ガイドブック）

「Cubase Series 徹底操作ガイド」 株式会社 リットーミュージック

・ DVD

「Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座」 株式会社 ウォンツ

「ミュージック・マスターガイドDVD "CUBASE 4"」 株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータミュージック		
担当教員名	小西 真理		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽(音声)コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase(キューベース)ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW(デジタル・オーディオ・ワークステーション)の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.DTM(デスクトップ・ミュージック)=コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。
- 2.このコンピュータミュージックではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。

MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作
という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習
- 2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
- 3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
- 4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品の制作

内容

- 第1回 ガイダンス、スタートアップ
- 第2回 MIDI レコーディングとエディット(1)~ステップ入力~スコアエディタ
- 第3回 MIDI レコーディングとエディット(2)~ステップ入力~スコアエディタ
- 第4回 MIDI レコーディングとエディット(3)~ステップ入力~キーエディタ
- 第5回 MIDI レコーディングとエディット(4)~リアルタイム入力
- 第6回 MIDI レコーディングとエディット(5)~ドラム入力
- 第7回 MIDI レコーディングとエディット(6)~ドラム入力
- 第8回 MIDI レコーディングとエディット(7)~スコア課題
- 第9回 MIDI レコーディングとエディット(8)~スコア課題
- 第10回 ミックスダウン MIDIデータのオーディオ化
- 第11回 オーディオループ素材~オーディオループ素材を使って楽曲を作る
- 第12回 創作演習(1)~創作を含むより高度な演習課題
- 第13回 創作演習(2)~創作を含むより高度な演習課題
- 第14回 創作演習(3)~創作を含むより高度な演習課題 ミックスダウン
- 第15回 Windows Media Playerを使ったCDライティング

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

コンピュータミュージック は基礎編に当たるため初心者（過去にコンピュータミュージック を履修していない者）のみを対象とします。

発展的内容の履修希望者は後期に開講されるコンピュータミュージック を履修してください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

原則、プリントを配布します。

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・ 書籍（ガイドブック）

「Cubase Series 徹底操作ガイド」 株式会社 リットーミュージック

・ DVD

「Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座」 株式会社 ウォンツ

「ミュージック・マスターガイドDVD "CUBASE 4"」 株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータミュージック		
担当教員名	小西 真理		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

音楽の制作、音声の録音、編集などは重要なコンピュータ・スキルのひとつです。

このクラスではDTMソフトの定番、Cubase(キューベース)ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW(デジタル・オーディオ・ワークステーション)の世界を体験的に学習します。

科目の概要

1.DTM(デスクトップ・ミュージック)すなわちコンピュータを使用した音楽制作。音声の録音、編集などを実習的に学ぶ。(原則的に) で学んだことを踏まえてやや発展的な内容を扱う。

2.このコンピュータミュージック では、既製の音源を編集したり画像との組み合わせなどを実習する。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力・オーディオループ素材の活用などの、より高度な音楽制作の実習
- 2.著作権フリーの映像素材に対してオーディオループ素材の組み合わせと編集によりBGMを作る(マルチメディア制作)

内容

第1回 ガイダンス

第2回 演習課題(1)-1

第3回 演習課題(1)-2~継続的に課題演習

第4回 演習課題(1)-3~継続的に課題演習

第5回 演習課題(1)-4~継続的に課題演習

第6回 演習課題(1)-5~継続的に課題演習

第7回 演習課題(1)-6~継続的に課題演習

第8回 オーディオデータの編集

第9回 CDから楽曲を取り込む

第10回 演習課題(2)-1~既製曲と自作曲を組み合わせる

第11回 演習課題(2)-2~継続的に課題演習

第12回 演習課題(2)-3~継続的に課題演習

第13回 演習課題(2)-4~継続的に課題演習

第14回 スライドショーを作り、楽曲と組み合わせる

第15回 最終回 まとめ

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンその他の演奏経験は不要です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

原則としてコンピュータミュージック を履修済みであることが望ましいが、初心者も受け入れ可能。その場合は別途コンピュータミュージック に相当する内容を学ぶことになる。 の内容についてはコンピュータミュージック のシラバスに準ずる。ただし、受講制限の必要が生じた場合には従来のガイドラインに加えて からの継続履修希望者を優先とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

原則、プリントを配布します。

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・ 書籍（ガイドブック）

「Cubase Series 徹底操作ガイド」 株式会社 リットーミュージック

・ DVD

「Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座」 株式会社 ウォンツ

「ミュージック・マスターガイドDVD ” CUBASE 4 ” 」 株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータミュージック		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格...音楽の制作、音声の録音、編集などは重要なコンピュータ・スキルのひとつです。

このクラスではDTMソフトの定番、Cubase (キューベース)ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW (デジタル・オーディオ・ワークステーション)の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.コンピュータを使用した音楽制作。音声の録音、編集などを実習的に学ぶ。原則的に で学んだことを踏まえてやや発展的な内容を扱う。
- 2.このコンピュータミュージック ではボーカロイド (2011年1月現在では予定)によるヴォーカルトラックの作成、映像と音楽を合わせたマルチメディア作品制作、ナレーションの録音、編集を含むポッドキャスト番組の制作とインターネット配信の実習などを予定している。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力、ボーカロイドを使ったより高度な音楽制作の実習
- 2.エフェクトを多用したより高度なオーディオミックスダウンの実習
- 3.映像素材に対してオーディオループ素材の組み合わせと編集によりBGM制作 (マルチメディア制作)
- 4.ナレーションの録音、編集とオーディオループ素材によるBGMを合成しポッドキャスト番組を制作。mp3に変換 (エンコード)してインターネット配信を試みる。

内容

- 第1回 ガイダンス、演習課題(1)-1
- 第2回 演習課題(1)-2~E-MU Proteus VXの使用法(随時)
- 第3回 演習課題(1)-3~継続的に課題演習
- 第4回 演習課題(1)-4~継続的に課題演習
- 第5回 演習課題(1)-5~ボーカロイドの使用法
- 第6回 演習課題(1)-6~データの完成。オーディオの書き出し ミックスダウン
- 第7回 映像に音楽をつける(1)~YouTubeから動画ファイルをキャプチャする
(またはこちらで用意した動画素材を使う) 動画のイメージに沿って音楽を作る
(音楽はオーディオループ素材を中心に一部MIDIも併用)
- 第8回 映像に音楽をつける(2)~継続的に課題演習
- 第9回 映像に音楽をつける(3)~データの完成 試聴
- 第10回 ポッドキャストを作る(1)~ナレーションのレコーディングと編集
- 第11回 ポッドキャストを作る(2)~継続的に課題演習
- 第12回 ポッドキャストを作る(3)~BGM作成
- 第13回 ポッドキャストを作る(4)~継続的に課題演習
- 第14回 ポッドキャストを作る(5)~mp3エンコード (圧縮ファイルの作成) ブログで配信
- 第15回 最終回 まとめ ポッドキャスト番組の試聴会

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンその他の演奏経験は不要です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

原則としてコンピュータミュージック を履修済みであることが望ましいが、初心者も受け入れ可能。その場合は別途コンピュータミュージック に相当する内容を学ぶことになる。 の内容についてはコンピュータミュージック のシラバスに準ずる。ただし、受講制限の必要が生じた場合には従来のガイドラインに加えて からの継続履修希望者を優先とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・書籍（ガイドブック）

Cubase Seires 徹底操作ガイド...株式会社 リットーミュージック

・DVD

Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座...株式会社 ウォンツ

ミュージック・マスターガイドDVD “CUBASE 4” ...株式会社 ミュージックマスター

科目名	サウンド処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 1年次の情報処理演習を踏まえて、そこで習得したコンピュータのスキルをさらに発展させることを狙う。それゆえに、1年次の情報処理演習I,IIの単位を修得していることが必要である。

科目の概要 サウンドについて、心理学的な考察、物理学的な考察、数学的な考察、生活学的な考察を行う。それらを踏まえた上で、サウンドだけに限定せず、写真、アニメーションまで含めたデータベースを構築する。特に、教育的な目的をもったデータベースを構築する。

学修目標 アナウンスなどの音声、効果音、雑音、音楽などの収録、切り貼り、編集、サウンドのデータベース構築等を通して、スキルを発展してもらう。

内容

1	オリエンテーション
2	心理学的な考察(1) サウンドについて聴覚心理学的な考察を行う。
3	心理学的な考察(2) サウンドについて、視聴覚の相互作用の面から考察を行う。
4	物理学的な考察 サウンドを扱うために、物理学的な知識が必要であるので、その初歩を学ぶ。
5	数学的な考察 サウンドを扱うためには、フーリエ解析等の知識が必要である。その初歩を学ぶ。
6	サウンドの処理の位置付け(1) サウンドの分類、サウンドファイルの特徴について学ぶ。
7	サウンドの処理の位置付け(2) コンピュータを用いたサウンド処理の位置付けを行う。
8	データベース インターネット上のサウンドデータベースの比較を行う。
9	サウンドのレコーディング ICレコーダ等を用いて、取り込む方法について学ぶ。
10	サウンドの編集 音声の子音部だけを除去し実際にどのように変化するかなど、学ぶ。
11	動画におけるサウンドの扱い 動画ファイルからサウンドを取り出すなど、学ぶ。
12	日常生活における重要性の考察 日常生活におけるサウンドの重要性について考察する。
13	データベース構築(1) ホームページ用等に有効なサウンドのデータベースを試作する。
14	データベース構築(2) ホームページ用等に有効なサウンドのデータベースを構築する。
15	まとめ

評価

提出してもらったレポート、作品(15点)を、150点満点(15X10点満点)で計算し、90点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要な場合にはプリントを配布する。

科目名	サウンド処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 1年次の情報処理演習を踏まえて、そこで習得したコンピュータのスキルをさらに発展させることを狙う。それゆえに、1年次の情報処理演習I,IIの単位を修得していることが必要である。

科目の概要 サウンドについて、心理学的な考察、物理学的な考察、数学的な考察、生活学的な考察を行う。それらを踏まえた上で、サウンドだけに限定せず、写真、アニメーションまで含めたデータベースを構築する。特に、教育的な目的をもったデータベースを構築する。

学修目標 アナウンスなどの音声、効果音、雑音、音楽などの収録、切り貼り、編集、サウンドのデータベース構築等を通して、スキルを発展してもらう。

内容

1	オリエンテーション
2	心理学的な考察(1) サウンドについて聴覚心理学的な考察を行う。
3	心理学的な考察(2) サウンドについて、視聴覚の相互作用の面から考察を行う。
4	物理学的な考察 サウンドを扱うために、物理学的な知識が必要であるので、その初歩を学ぶ。
5	数学的な考察 サウンドを扱うためには、フーリエ解析等の知識が必要である。その初歩を学ぶ。
6	サウンドの処理の位置付け(1) サウンドの分類、サウンドファイルの特徴について学ぶ。
7	サウンドの処理の位置付け(2) コンピュータを用いたサウンド処理の位置付けを行う。
8	データベース インターネット上のサウンドデータベースの比較を行う。
9	サウンドのレコーディング ICレコーダ等を用いて、取り込む方法について学ぶ。
10	サウンドの編集 音声の子音部だけを除去し実際にどのように変化するかなど、学ぶ。
11	動画におけるサウンドの扱い 動画ファイルからサウンドを取り出すなど、学ぶ。
12	日常生活における重要性の考察 日常生活におけるサウンドの重要性について考察する。
13	データベース構築(1) ホームページ用等に有効なサウンドのデータベースを試作する。
14	データベース構築(2) ホームページ用等に有効なサウンドのデータベースを構築する。
15	まとめ

評価

提出してもらったレポート、作品(15点)を、150点満点(15X10点満点)で計算し、90点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要な場合にはプリントを配布する。

科目名	コンピュータグラフィック		
担当教員名	大西 由華		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

Photoshop(ペイント系)やIllustrator(ドロー系)を使用して、コンピュータグラフィックの基本を学びます。絵を描く技術は特に必要ありません。

図形や画像は、相手の理解を深めるための視覚資料としても利用されます。正確に図形を描くためのツールや、既存の図形や画像を加工する方法を習得しておくことは、社会に出てからも役に立ちます。自分の作品として残ることも、グラフィックソフトを使う大きな楽しみ。演習は楽しく、作品は美しく、操作は正しく覚えましょう。

コンピュータ操作が中心となるため、履修人数を制限することがあります。

内容

ドロー系グラフィックス

1. ペイント系とドロー系の違い
2. 図形選択。選択範囲の移動、複製、追加、削除など。
3. 描画ツール
4. ベジェ曲線

ペイント系グラフィックス

5. 図形選択。選択範囲の移動、複製、追加、削除など。
6. 描画ツール
7. 色調補正
8. 画像の切り抜き
9. 画像の合成

評価

授業態度40点、課題制作60点により評価を行い、60点以上を合格とします。試験は行いません。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

自主プリントを中心に使用し、必要に応じて随時紹介します。

科目名	コンピュータグラフィック		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

情報処理演習 ・ を修了した後、画像処理をより深く学ぶための授業である。コンピュータグラフィック と関連がある (の履修を前提とはしない)。

科目の概要

ソフトウェアPhotoshopを主に使用して、画像合成やカードのデザインなどをする。さまざまな作品例を題材に、その手法やソフトの操作について自分で納得しながら学び取っていく。

学修目標

1. パスを使って範囲を指定できる。
2. 複数の画像を合成できる。
3. ぼかしなど画像への特殊な効果を利用できる。
4. 自分のデザインがコンピュータ上で表現できる。

内容

1	パスを利用して線で描画
2	パスを利用した描画(塗りつぶしなど)
3	パスを使ったデザイン
4	範囲選択の方法
5	画像合成
6	マスクの利用
7	画像を使った表現
8	レイヤー効果とフィルタ
9	描画モードの利用
10	金属を表現する
11	プラスチックを表現する
12	紙を表現する
13	水を表現する
14	最終課題制作
15	まとめ

評価

授業中の提出物75%、最終作品25%により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】使用しない。プリント配布。

【参考図書】教室で紹介する

科目名	コンピュータアニメーション		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

情報処理演習 を修了した後、アニメーション制作をより深く学ぶための授業である。コンピュータグラフィックと関連がある。また、映像編集関連の科目にも関連性がある。

科目の概要

ソフトウェアFLASHを主に使用して、ホームページ上で動く数秒～数十秒の短いアニメーションを作成する。描画そのものに時間を割くのではなく、既存の素材を利用して動画に仕上げるほうに重点を置く。

学修目標

1. レイヤーとタイムラインが理解できる。
2. トゥイーンを使って動きを表現できる。
3. 動くシンボルを作成して、動画の中で利用できる。
4. 自分のアニメーションがコンピュータ上で表現できる。

内容

1	アニメーション制作の道具
2	描画ツール
3	レイヤーの利用
4	シェイプトゥイーン
5	ライブラリとキーフレーム
6	クラシクトゥイーン
7	トゥイーンを使った表現
8	拡大・回転
9	揺れを表現する
10	マスクの利用
11	動くシンボル
12	モーショントゥイーン
13	写真を使った表現
14	最終課題制作
15	まとめ

評価

授業中の提出物75%、最終作品25%により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】使用しない。プリント配布。

【参考図書】教室で紹介する

科目名	コンピュータミュージック（基礎）		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽（音声）コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.DTM（デスクトップ・ミュージック）＝コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。
- 2.このコンピュータミュージック ではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習
- 2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
- 3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
- 4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品制作

内容

- 第1回 ガイダンス、スタートアップ
- 第2回 MIDI レコーディングとエディット(1)～ステップ入力～スコアエディタ
- 第3回 MIDI レコーディングとエディット(2)～ステップ入力～キーエディタ
- 第4回 MIDI レコーディングとエディット(3)～リアルタイム入力
- 第5回 MIDI レコーディングとエディット(4)～ドラム入力
- 第6回 MIDI レコーディングとエディット(5)～ドラム入力
- 第7回 MIDI レコーディングとエディット(6)～スコア課題
- 第8回 MIDI レコーディングとエディット(7)～スコア課題
- 第9回 MIDIデータのオーディオ化～データのオーディオ化 ミックス オーディオファイルの書き出し
- 第10回 オーディオループ素材～オーディオループ素材を使って楽曲を作る
- 第11回 オーディオエディット～第9回、第10回で作った曲をメドレーにする
- 第12回 創作演習(1)～創作を含むより高度な演習課題
- 第13回 創作演習(2)～創作を含むより高度な演習課題
- 第14回 創作演習(3)～創作を含むより高度な演習課題 ミックスダウン
- 第15回 ミックスダウン CDライティング～簡易マスタリング オーディオの書き出し Windows Media Playerを使ったCDライティング

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して

参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

原則としてコンピュータミュージック を履修済みであることが望ましいが、初心者も受け入れ可能。その場合は別途コンピュータミュージック に相当する内容を学ぶことになる。 の内容についてはコンピュータミュージック のシラバスに準ずる。ただし、受講制限の必要が生じた場合には従来のガイドラインに加えて からの継続履修希望者を優先とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・書籍（ガイドブック）

Cubase Seires 徹底操作ガイド...株式会社 リットーミュージック

・DVD

Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座...株式会社 ウォンツ

ミュージック・マスターガイドDVD “CUBASE 4” ...株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータミュージック（基礎）		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽（音声）コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.DTM（デスクトップ・ミュージック）＝コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。
- 2.このコンピュータミュージック ではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習
- 2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
- 3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
- 4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品制作

内容

- 第1回 ガイダンス、スタートアップ
- 第2回 MIDI レコーディングとエディット(1)～ステップ入力～スコアエディタ
- 第3回 MIDI レコーディングとエディット(2)～ステップ入力～キーエディタ
- 第4回 MIDI レコーディングとエディット(3)～リアルタイム入力
- 第5回 MIDI レコーディングとエディット(4)～ドラム入力
- 第6回 MIDI レコーディングとエディット(5)～ドラム入力
- 第7回 MIDI レコーディングとエディット(6)～スコア課題
- 第8回 MIDI レコーディングとエディット(7)～スコア課題
- 第9回 MIDIデータのオーディオ化～データのオーディオ化 ミックス オーディオファイルの書き出し
- 第10回 オーディオループ素材～オーディオループ素材を使って楽曲を作る
- 第11回 オーディオエディット～第9回、第10回で作った曲をメドレーにする
- 第12回 創作演習(1)～創作を含むより高度な演習課題
- 第13回 創作演習(2)～創作を含むより高度な演習課題
- 第14回 創作演習(3)～創作を含むより高度な演習課題 ミックスダウン
- 第15回 ミックスダウン CDライティング～簡易マスタリング オーディオの書き出し Windows Media Playerを使ったCDライティング

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して

参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

原則としてコンピュータミュージック を履修済みであることが望ましいが、初心者も受け入れ可能。その場合は別途コンピュータミュージック に相当する内容を学ぶことになる。 の内容についてはコンピュータミュージック のシラバスに準ずる。ただし、受講制限の必要が生じた場合には従来のガイドラインに加えて からの継続履修希望者を優先とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・書籍（ガイドブック）

Cubase Seires 徹底操作ガイド...株式会社 リットーミュージック

・DVD

Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座...株式会社 ウォンツ

ミュージック・マスターガイドDVD “CUBASE 4” ...株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータミュージック（基礎）		
担当教員名	小西 真理		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽（音声）コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.DTM（デスクトップ・ミュージック）＝コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。
- 2.このコンピュータミュージック ではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。

MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作
という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習
- 2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
- 3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
- 4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品の制作

内容

- 第1回 ガイダンス、スタートアップ
- 第2回 MIDI レコーディングとエディット(1)～ステップ入力～スコアエディタ
- 第3回 MIDI レコーディングとエディット(2)～ステップ入力～スコアエディタ
- 第4回 MIDI レコーディングとエディット(3)～ステップ入力～キーエディタ
- 第5回 MIDI レコーディングとエディット(4)～リアルタイム入力
- 第6回 MIDI レコーディングとエディット(5)～ドラム入力
- 第7回 MIDI レコーディングとエディット(6)～ドラム入力
- 第8回 MIDI レコーディングとエディット(7)～スコア課題
- 第9回 MIDI レコーディングとエディット(8)～スコア課題
- 第10回 ミックスダウン MIDIデータのオーディオ化
- 第11回 オーディオループ素材～オーディオループ素材を使って楽曲を作る
- 第12回 創作演習(1)～創作を含むより高度な演習課題
- 第13回 創作演習(2)～創作を含むより高度な演習課題
- 第14回 創作演習(3)～創作を含むより高度な演習課題 ミックスダウン
- 第15回 Windows Media Playerを使ったCDライティング

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

コンピュータミュージック は基礎編に当たるため初心者（過去にコンピュータミュージック を履修していない者）のみを対象とします。

発展的内容の履修希望者は後期に開講されるコンピュータミュージック を履修してください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

原則、プリントを配布します。

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・ 書籍（ガイドブック）

「Cubase Series 徹底操作ガイド」 株式会社 リットーミュージック

・ DVD

「Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座」 株式会社 ウォンツ

「ミュージック・マスターガイドDVD "CUBASE 4"」 株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータミュージック（基礎）		
担当教員名	小西 真理		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽（音声）コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.DTM（デスクトップ・ミュージック）＝コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。
- 2.このコンピュータミュージック ではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。

MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作
という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習
- 2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
- 3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
- 4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品の制作

内容

- 第1回 ガイダンス、スタートアップ
- 第2回 MIDI レコーディングとエディット(1)～ステップ入力～スコアエディタ
- 第3回 MIDI レコーディングとエディット(2)～ステップ入力～スコアエディタ
- 第4回 MIDI レコーディングとエディット(3)～ステップ入力～キーエディタ
- 第5回 MIDI レコーディングとエディット(4)～リアルタイム入力
- 第6回 MIDI レコーディングとエディット(5)～ドラム入力
- 第7回 MIDI レコーディングとエディット(6)～ドラム入力
- 第8回 MIDI レコーディングとエディット(7)～スコア課題
- 第9回 MIDI レコーディングとエディット(8)～スコア課題
- 第10回 ミックスダウン MIDIデータのオーディオ化
- 第11回 オーディオループ素材～オーディオループ素材を使って楽曲を作る
- 第12回 創作演習(1)～創作を含むより高度な演習課題
- 第13回 創作演習(2)～創作を含むより高度な演習課題
- 第14回 創作演習(3)～創作を含むより高度な演習課題 ミックスダウン
- 第15回 Windows Media Playerを使ったCDライティング

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

コンピュータミュージック は基礎編に当たるため初心者（過去にコンピュータミュージック を履修していない者）のみを対象とします。

発展的内容の履修希望者は後期に開講されるコンピュータミュージック を履修してください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

原則、プリントを配布します。

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・ 書籍（ガイドブック）

「Cubase Series 徹底操作ガイド」 株式会社 リットーミュージック

・ DVD

「Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座」 株式会社 ウォンツ

「ミュージック・マスターガイドDVD "CUBASE 4"」 株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータミュージック（発展）		
担当教員名	小西 真理		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

音楽の制作、音声の録音、編集などは重要なコンピュータ・スキルのひとつです。

このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要

1.DTM（デスクトップ・ミュージック）すなわちコンピュータを使用した音楽制作。音声の録音、編集などを実習的に学ぶ。（原則的に）で学んだことを踏まえてやや発展的な内容を扱う。

2.このコンピュータミュージックでは、既製の音源を編集したり画像との組み合わせなどを実習する。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力・オーディオループ素材の活用などの、より高度な音楽制作の実習
- 2.著作権フリーの映像素材に対してオーディオループ素材の組み合わせと編集によりBGMを作る（マルチメディア制作）

内容

第1回 ガイダンス

第2回 演習課題(1)-1

第3回 演習課題(1)-2～継続的に課題演習

第4回 演習課題(1)-3～継続的に課題演習

第5回 演習課題(1)-4～継続的に課題演習

第6回 演習課題(1)-5～継続的に課題演習

第7回 演習課題(1)-6～継続的に課題演習

第8回 オーディオデータの編集

第9回 CDから楽曲を取り込む

第10回 演習課題(2)-1～既製曲と自作曲を組み合わせる

第11回 演習課題(2)-2～継続的に課題演習

第12回 演習課題(2)-3～継続的に課題演習

第13回 演習課題(2)-4～継続的に課題演習

第14回 スライドショーを作り、楽曲と組み合わせる

第15回 最終回 まとめ

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンその他の演奏経験は不要です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

原則としてコンピュータミュージック を履修済みであることが望ましいが、初心者も受け入れ可能。その場合は別途コンピュータミュージック に相当する内容を学ぶことになる。 の内容についてはコンピュータミュージック のシラバスに準ずる。ただし、受講制限の必要が生じた場合には従来のガイドラインに加えて からの継続履修希望者を優先とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

原則、プリントを配布します。

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・ 書籍（ガイドブック）

「Cubase Series 徹底操作ガイド」 株式会社 リットーミュージック

・ DVD

「Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座」 株式会社 ウォンツ

「ミュージック・マスターガイドDVD "CUBASE 4"」 株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータミュージック（発展）		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格...音楽の制作、音声の録音、編集などは重要なコンピュータ・スキルのひとつです。

このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.コンピュータを使用した音楽制作。音声の録音、編集などを実習的に学ぶ。原則的に で学んだことを踏まえてやや発展的な内容を扱う。
- 2.このコンピュータミュージック ではボーカロイド（2011年1月現在では予定）によるヴォーカルトラックの作成、映像と音楽を合わせたマルチメディア作品制作、ナレーションの録音、編集を含むポッドキャスト番組の制作とインターネット配信の実習などを予定している。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力、ボーカロイドを使ったより高度な音楽制作の実習
- 2.エフェクトを多用したより高度なオーディオミックスダウンの実習
- 3.映像素材に対してオーディオループ素材の組み合わせと編集によりBGM制作（マルチメディア制作）
- 4.ナレーションの録音、編集とオーディオループ素材によるBGMを合成しポッドキャスト番組を制作。mp3に変換（エンコード）してインターネット配信を試みる。

内容

- 第1回 ガイダンス、演習課題(1)-1
- 第2回 演習課題(1)-2～E-MU Proteus VXの使用法(随時)
- 第3回 演習課題(1)-3～継続的に課題演習
- 第4回 演習課題(1)-4～継続的に課題演習
- 第5回 演習課題(1)-5～ボーカロイドの使用法
- 第6回 演習課題(1)-6～データの完成。オーディオの書き出し ミックスダウン
- 第7回 映像に音楽をつける(1)～YouTubeから動画ファイルをキャプチャする
(またはこちらで用意した動画素材を使う) 動画のイメージに沿って音楽を作る
(音楽はオーディオループ素材を中心に一部MIDIも併用)
- 第8回 映像に音楽をつける(2)～継続的に課題演習
- 第9回 映像に音楽をつける(3)～データの完成 試聴
- 第10回 ポッドキャストを作る(1)～ナレーションのレコーディングと編集
- 第11回 ポッドキャストを作る(2)～継続的に課題演習
- 第12回 ポッドキャストを作る(3)～BGM作成
- 第13回 ポッドキャストを作る(4)～継続的に課題演習
- 第14回 ポッドキャストを作る(5)～mp3エンコード(圧縮ファイルの作成) ブログで配信
- 第15回 最終回 まとめ ポッドキャスト番組の試聴会

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンその他の演奏経験は不要です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

原則としてコンピュータミュージック を履修済みであることが望ましいが、初心者も受け入れ可能。その場合は別途コンピュータミュージック に相当する内容を学ぶことになる。 の内容についてはコンピュータミュージック のシラバスに準ずる。ただし、受講制限の必要が生じた場合には従来のガイドラインに加えて からの継続履修希望者を優先とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・書籍（ガイドブック）

Cubase Seires 徹底操作ガイド...株式会社 リットーミュージック

・DVD

Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座...株式会社 ウォンツ

ミュージック・マスターガイドDVD“CUBASE 4”...株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータグラフィック（基礎）		
担当教員名	大西 由華		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

Photoshop（ペイント系）やIllustrator（ドロー系）を使用して、コンピュータグラフィックの基本を学びます。絵を描く技術は特に必要ありません。

図形や画像は、相手の理解を深めるための視覚資料としても利用されます。正確に図形を描くためのツールや、既存の図形や画像を加工する方法を習得しておくことは、社会に出てからも役に立ちます。自分の作品として残ることも、グラフィックソフトを使う大きな楽しみ。演習は楽しく、作品は美しく、操作は正しく覚えましょう。

コンピュータ操作が中心となるため、履修人数を制限することがあります。

内容

ドロー系グラフィックス

- 1．ペイント系とドロー系の違い
- 2．図形選択。選択範囲の移動、複製、追加、削除など。
- 3．描画ツール
- 4．ベジェ曲線

ペイント系グラフィックス

- 5．図形選択。選択範囲の移動、複製、追加、削除など。
- 6．描画ツール
- 7．色調補正
- 8．画像の切り抜き
- 9．画像の合成

評価

授業態度40点、課題制作60点により評価を行い、60点以上を合格とします。試験は行いません。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

自主プリントを中心に使用し、必要に応じて随時紹介します。

科目名	コンピュータグラフィック（発展）		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

情報処理演習 ・ を修了した後、画像処理をより深く学ぶための授業である。コンピュータグラフィック と関連がある（ の履修を前提とはしない）。

科目の概要

ソフトウェアPhotoshopを主に使用して、画像合成やカードのデザインなどをする。さまざまな作品例を題材に、その手法やソフトの操作について自分で納得しながら学び取っていく。

学修目標

1. パスを使って範囲を指定できる。
2. 複数の画像を合成できる。
3. ぼかしなど画像への特殊な効果を利用できる。
4. 自分のデザインがコンピュータ上で表現できる。

内容

1	パスを利用して線で描画
2	パスを利用した描画（塗りつぶしなど）
3	パスを使ったデザイン
4	範囲選択の方法
5	画像合成
6	マスクの利用
7	画像を使った表現
8	レイヤー効果とフィルタ
9	描画モードの利用
10	金属を表現する
11	プラスチックを表現する
12	紙を表現する
13	水を表現する
14	最終課題制作
15	まとめ

評価

授業中の提出物75%、最終作品25%により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】使用しない。プリント配布。

【参考図書】教室で紹介する

科目名	マガジン制作ワークショップ		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ボランティアの広報紙等をツールとして、その編集に直接関わりながら雑誌や冊子制作の基本を学ぶ。演習の形をとるので、受講者と調整のうえ、集中授業も展開する。

科目の概要

成果物のコンセプトの理解を踏まえ、企画の組み立て、コンテンツの編集をOJTで学ぶ。

学修目標

- 1 川上から川下までの編集工程を体験見聞することにより、企画力の重要性、見出し・写真配置を含めた総合的な編集力を高め、コンテンツの活かし方を体得する。
- 2 電子書籍が注目される時代ではあるが、紙媒体による「雑誌、冊子、新聞」等の編集の蓄積がその基盤であることを学ぶ。
- 3 メディアへの就職を志向する学生のキャリアアップに資する。

内容

雑誌(小冊子)であれ、書籍であれ、新聞であれ、あらゆる出版物は、企画力・文章力・見出しを含むレイアウト力といった総合的な「編集力」の結晶である。ボランティアの広報紙等をツールとして、何をコンセプトにして、どう取材し、どう書き、どう割り付けて、読者の心をつかむか。大学の学びを実践的に生かし、その手ごたえを感じることで、学びの喜びを再発見する授業を展開する。編集者の肉声にも接し、レイアウトの延長線上にあるDTPにも触れながら、成果物を生み出し、検証し合う。

評価

授業への取り組み50点、理解と進歩50点の計100点で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	マガジン制作ワークショップ		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ボランティアの広報紙等をツールとして、その編集に直接関わりながら雑誌や冊子制作の基本を学ぶ。演習の形をとるので、受講者と調整のうえ、集中授業も展開する。

科目の概要

成果物のコンセプトの理解を踏まえ、企画の組み立て、コンテンツの編集をOJTで学ぶ。

学修目標

- 1 川上から川下までの編集工程を体験見聞することにより、企画力の重要性、見出し・写真配置を含めた総合的な編集力を高め、コンテンツの活かし方を体得する。
- 2 電子書籍が注目される時代ではあるが、紙媒体による「雑誌、冊子、新聞」等の編集の蓄積がその基盤であることを学ぶ。
- 3 メディアへの就職を志向する学生のキャリアアップに資する。

内容

雑誌(小冊子)であれ、書籍であれ、新聞であれ、あらゆる出版物は、企画力・文章力・見出しを含むレイアウト力といった総合的な「編集力」の結晶である。ボランティアの広報紙等をツールとして、何をコンセプトにして、どう取材し、どう書き、どう割り付けて、読者の心をつかむか。大学の学びを実践的に生かし、その手ごたえを感じることで、学びの喜びを再発見する授業を展開する。編集者の肉声にも接し、レイアウトの延長線上にあるDTPにも触れながら、成果物を生み出し、検証し合う。

リアルな「編集力」の学びと関連付け、雑誌・書籍ビジネスや、抱える課題についても学ぶ。

評価

授業への取り組み50点、理解と進歩50点の計100点で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	フォト・ビデオジャーナリズム演習		
担当教員名	岡崎 正義		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

新聞・雑誌などの活字メディアを飾る「写真」も、映画・テレビの「動画」も、撮る(撮影)という作業ぬきには成り立ちません。

デジタルカメラによる静止画撮影とビデオカメラによる動画の撮影を実習して、撮ること(映像表現)について理解を深める。

また、撮影を実践する中からジャーナリズムの中の写真の役割やビデオ映像の役割について考えます。

ビデオについては、撮影したものを編集する際 映像編集演習 が関係します。

科目の概要

どのような点に注意すると、第三者に理解され、支持されるような作品になるかについて考える。

その際、自分自身の納得はもちろん、多くの視聴者の共感を呼ぶようなものがどうすれば撮れるのかということに主眼を置きます。

学修目標 以下の4点を目標とします。

- 1、写真の撮影について理解し、撮影技能の向上をはかる
- 2、写真(静止画)とビデオ(動画)について、その違いを理解する。
- 3、ビデオ撮影を実践することにより、その映像表現について理解し、撮影技能の向上をはかる。
- 4、ビデオ映像は、編集を前提として撮影されていることを理解する。

内容

1	何を、どんなカメラで撮るのか
2	写真1 まず撮ってみよう
3	写真2 シャッターチャンス、フォーカス、絞り、ポジション
4	写真3 画角(写角)、構図、光の質と方向
5	写真4 テーマを決めて撮る
6	写真5 デジタルで保存する
7	写真の良さ。ビデオの良さ。
8	ビデオ撮影1 ビデオカメラのしくみを理解する
9	ビデオ撮影2 長さ(時間)の要素
10	ビデオ撮影3 音を効果的に使う
11	ビデオ撮影4 アンブルを変え、サイズを変え、多角的に
12	ビデオ撮影5 被写体が動く。カメラとVTRが動く
13	編集の役割
14	レポートについて
15	まとめ

評価

実習による評価40点、作品の提出30点、レポート30点の合計で評価し、60点以上を合格とする。
三分の二以上出席することで、評価を受けることができます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要な教材は、その都度、資料として配布する。

科目名	フォト・ビデオジャーナリズム演習		
担当教員名	岡崎 正義		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

新聞・雑誌などの活字メディアを飾る「写真」も、映画・テレビの「動画」も、撮る（撮影）という作業ぬきには成り立ちません。

デジタルカメラによる静止画撮影とビデオカメラによる動画の撮影を実習して、撮ること（映像表現）について理解を深める。

また、撮影を実践する中からジャーナリズムの中の写真の役割やビデオ映像の役割について考えます。

ビデオについては、撮影したものを編集する際 映像編集演習 が関係します。

科目の概要

どのような点に注意すると、第三者に理解され、支持されるような作品になるかについて考える。

その際、自分自身の納得はもちろん、多くの視聴者の共感を呼ぶようなものがどうすれば撮れるのかということに主眼を置きます。

学修目標 以下の4点を目標とします。

- 1、写真の撮影について理解し、撮影技能の向上をはかる
- 2、写真（静止画）とビデオ（動画）について、その違いを理解する。
- 3、ビデオ撮影を実践することにより、その映像表現について理解し、撮影技能の向上をはかる。
- 4、ビデオ映像は、編集を前提として撮影されていることを理解する。

内容

1	何を、どんなカメラで撮るのか
2	写真1 まず撮ってみよう
3	写真2 シャッターチャンス、フォーカス、絞り、ポジション
4	写真3 画角（写角）、構図、光の質と方向
5	写真4 テーマを決めて撮る
6	写真5 デジタルで保存する
7	写真の良さ。ビデオの良さ。
8	ビデオ撮影1 ビデオカメラのしくみを理解する
9	ビデオ撮影2 長さ（時間）の要素
10	ビデオ撮影3 音を効果的に使う
11	ビデオ撮影4 アングルを変え、サイズを変え、多角的に
12	ビデオ撮影5 被写体が動く。カメラとVTRが動く
13	編集の役割
14	レポートについて
15	まとめ

評価

実習による評価40点、作品の提出30点、レポート30点の合計で評価し、60点以上を合格とする。
三分の二以上出席することで、評価を受けることができます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要な教材は、その都度、資料として配布する。

科目名	フォト・ビデオジャーナリズム演習		
担当教員名	岡崎 正義		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

新聞・雑誌などの活字メディアを飾る「写真」も、映画・テレビの「動画」も、撮る（撮影）という作業ぬきには成り立ちません。

デジタルカメラによる静止画撮影とビデオカメラによる動画の撮影を実習して、撮ること（映像表現）について理解を深める。

また、撮影を実践する中からジャーナリズムの中の写真の役割やビデオ映像の役割について考えます。

ビデオについては、撮影したものを編集する際 映像編集演習 が関係します。

科目の概要

どのような点に注意すると、第三者に理解され、支持されるような作品になるかについて考える。

その際、自分自身の納得はもちろん、多くの視聴者の共感を呼ぶようなものがどうすれば撮れるのかということに主眼を置きます。

学修目標 以下の4点を目標とします。

- 1、写真の撮影について理解し、撮影技能の向上をはかる
- 2、写真（静止画）とビデオ（動画）について、その違いを理解する。
- 3、ビデオ撮影を実践することにより、その映像表現について理解し、撮影技能の向上をはかる。
- 4、ビデオ映像は、編集を前提として撮影されていることを理解する。

内容

1	何を、どんなカメラで撮るのか
2	写真1 まず撮ってみよう
3	写真2 シャッターチャンス、フォーカス、絞り、ポジション
4	写真3 画角（写角）、構図、光の質と方向
5	写真4 テーマを決めて撮る
6	写真5 デジタルで保存する
7	写真の良さ。ビデオの良さ。
8	ビデオ撮影1 ビデオカメラのしくみを理解する
9	ビデオ撮影2 長さ（時間）の要素
10	ビデオ撮影3 音を効果的に使う
11	ビデオ撮影4 アンブルを変え、サイズを変え、多角的に
12	ビデオ撮影5 被写体が動く。カメラとVTRが動く
13	編集の役割
14	レポートについて
15	まとめ

評価

実習による評価40点、作品の提出30点、レポート30点の合計で評価し、60点以上を合格とする。
三分の二以上出席することで、評価を受けることができます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要な教材は、その都度、資料として配布する。

科目名	ラジオ番組制作演習		
担当教員名	勝田 裕之		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ねらい

(科目の性格) コミュニケーション学科の一環として、ラジオの特性と利点を理解し制作者の立場に立つことによって、その作業過程を通して表現とは何かを体験的に学ぶ。

(科目の概要) 1年次の「ラジオ番組制作ワークショップ」を基に、さらに一歩進めた形で番組制作の実際を習得する。特に企画・制作・評価という一つの流れを重視して授業を進めていく。具体的には「提案」をどのように作品化するかというプロセスの中で、番組制作の理論と実技を身につける。

(学修目標) 1. ラジオの特性(想像力を刺激するメディア、災害報道に強いメディアである)を認識する。2. ラジオ番組制作の実体験から、コミュニケーションの意味、特にメディアコミュニケーションとは何かを理解する。3. 制作者の立場を経験することによって、逆に、日頃、メディアが発信しているコンテンツを客観的に、批判的に受けとめる能力を身につける。

内容

1	ラジオの特性と利点(講義) 機材説明
2	インタビュー番組を作る グループ分け 役割分担
3	" グループで打ち合わせ
4	" 提案書を書き、口頭で発表する
5	" インタビュー部分を小型録音機に収録
6	" インタビュー部分を小型録音機に収録
7	" 番組全体のコメントや音楽を準備
8	" 1本の番組に収録(完成品を作る パッケージする)
9	" 1本の番組に収録(完成品を作る パッケージする)
10	" 収録作品の試聴・合評
11	ニュース番組を作る ニュースとは ニュース文章の書き方(講義)
12	" 素材を拾う 素材のニュース化
13	" ニュース作成
14	" 番組として1本にする(完成品を作る パッケージする)
15	" 試聴・評価 授業全体のまとめ

評価

期末提出レポート(50点) 各完成番組作品(50点)により評価し、60点以上を合格とする。

なお三分の二以上出席することで、評価を受けることができる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

「ラジオは脳にきく」

和歌山県立医大教授 板倉徹

東洋経済新報社

科目名	ラジオ番組制作演習		
担当教員名	勝田 裕之		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ねらい

(科目の性格) コミュニケーション学科の一環として、ラジオの特性と利点を理解し制作者の立場にたつことによって、その作業過程を通して表現とは何かを体験的に学ぶ。

(科目の概要) 1年次の「ラジオ番組制作ワークショップ」を基に、さらに一歩進めた形で番組制作の実際を習得する。特に企画・制作・評価という一つの流れを重視して授業を進めていく。具体的には「提案」をどのように作品化するかというプロセスの中で、番組制作の理論と実技を身につける。

(学修目標) 1. ラジオの特性(想像力を刺激するメディア、災害報道に強いメディアである)を認識する。2. ラジオ番組制作の実体験から、コミュニケーションの意味、特にメディアコミュニケーションとは何かを理解する。3. 制作者の立場を経験することによって、逆に、日頃、メディアが発信しているコンテンツを客観的に、批判的に受けとめる能力を身につける。

内容

1	ラジオの特性と利点(講義) 機材説明
2	インタビュー番組を作る グループ分け 役割分担
3	" グループで打ち合わせ
4	" 提案書を書き、口頭で発表する
5	" インタビュー部分を小型録音機に収録
6	" インタビュー部分を小型録音機に収録
7	" 番組全体のコメントや音楽を準備
8	" 1本の番組に収録(完成品を作る パッケージする)
9	" 1本の番組に収録(完成品を作る パッケージする)
10	" 収録作品の試聴・合評
11	ニュース番組を作る ニュースとは ニュース文章の書き方(講義)
12	" 素材を拾う 素材のニュース化
13	" ニュース作成
14	" 番組として1本にする(パッケージ)
15	" 試聴・合評 授業全体のまとめ

評価

期末レポート(50点) 各完成番組作品(50点)により評価し、60点以上を合格とする。

なお三分の二以上出席することで、評価を受けることができる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書 「ラジオは脳にきく」 和歌山県立医大教授 板倉徹 東洋経済新報社

科目名	映像編集演習		
担当教員名	岡崎 正義		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、ビデオ撮影された映像素材を、構成にしたがって「ねらい」を絞って、カットして、「よく分かるように」つなぐ。

編集に使用する映像素材は、ビデオの撮影がしっかりとできていることが前提となります。従って、撮影実習のある フォト・ビデオジャーナリズム演習 と関係があります。

講義では、コンピューターを使って映像編集を行う ノンリニア編集機 を使用して実習を行います。構成を考えて、ピンウインドウから映像素材を選びます。プレビューウインドウで絵と音を確認して適当な長さにカットします。カットしたものをタイムラインにならべます。

その際、「ねらい」がはっきりしていて、分かりやすい構成になっているかどうか重要なポイントになります。

文字を入れ、コメントを入れ、必要に応じて音楽やエフェクトも入れて作品を完成させます。

映像素材を生かすも殺すも編集次第です。

学修目標は、次の3点です。

ノンリニア編集のしくみを理解し、編集機材を使いこなせるようにする。

構成で「ねらい」を絞り、「よく分かる」ように映像編集する。

映像編集技能の向上をはかる。

内容

1	ノンリニア編集について
2	ノンリニア編集で使用する機材について
3	編集の約束事(方向性、目線、時間と空間のとばし方、サイズ、長さ、イマジナリーライン)
4	誰に何をどう見せたいのか。「ねらい」は何か。
5	構成を考える。編集のための素材を集める。ノンリニア編集機に取り込む(キャプチャーする)
6	エディウスについて
7	編集開始。どのような順番でカットをならべるか。どこを切り取るべきか。
8	素材の音を生かそう
9	エフェクトについて考えよう
10	文字を入れよう
11	コメントを書く。選曲する。
12	ナレーション入れ。音入れ(音楽、効果音)。
13	必要に応じて手直し
14	視聴、検討
15	まとめ

評価

実習 50 点及び作品 50 点の合計で評価し、60 点以上を合格とする。

三分の二以上出席することで評価を受けることができます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要な教材は、その都度、資料として配布する。

科目名	映像編集演習		
担当教員名	岡崎 正義		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、ビデオ撮影された映像素材を、構成にしたがって「ねらい」を絞って、カットして、「よく分かるように」つなく。

編集に使用する映像素材は、ビデオの撮影がしっかりとできていることが前提となります。従って、撮影実習のある フォト・ビデオジャーナリズム演習 と関係があります。

講義では、コンピューターを使って映像編集を行う ノンリニア編集機 を使用して実習を行います。

構成を考えて、ピンウインドウから映像素材を選びます。プレビューウインドウで絵と音を確認して適当な長さにカットします。カットしたものをタイムラインにならべます。

その際、「ねらい」がはっきりしていて、分かりやすい構成になっているかどうか重要なポイントになります。

文字を入れ、コメントを入れ、必要に応じて音楽やエフェクトも入れて作品を完成させます。

映像素材を生かすも殺すも編集次第です。

学修目標は、次の3点です。

ノンリニア編集のしくみを理解し、編集機材を使いこなせるようにする。

構成で「ねらい」を絞り、「よく分かる」ように映像編集する。

映像編集技能の向上をはかる。

内容

1	ノンリニア編集について
2	ノンリニア編集で使用する機材について
3	編集の約束事(方向性、目線、時間と空間のとばし方、サイズ、長さ、イマジナリーライン)
4	誰に何をどう見せたいのか。「ねらい」は何か。
5	構成を考える。編集のための素材を集める。ノンリニア編集機に取り込む(キャプチャーする)
6	エディウスについて
7	編集開始。どのような順番でカットをならべるか。どこを切り取るべきか。
8	素材の音を生かそう
9	エフェクトについて考えよう
10	文字を入れよう
11	コメントを書く。選曲する。
12	ナレーション入れ。音入れ(音楽、効果音)。
13	必要に応じて手直し
14	視聴、検討
15	まとめ

評価

実習 50 点及び作品 50 点の合計で評価し、60 点以上を合格とする。

三分の二以上出席することで評価を受けることができます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要な教材は、その都度、資料として配布する。

科目名	映像編集演習		
担当教員名	岡崎 正義		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、ビデオ撮影された映像素材を、構成にしたがって「ねらい」を絞って、カットして、「よく分かるように」つなく。

編集に使用する映像素材は、ビデオの撮影がしっかりとできていることが前提となります。従って、撮影実習のある フォト・ビデオジャーナリズム演習 と関係があります。

講義では、コンピューターを使って映像編集を行う ノンリニア編集機 を使用して実習を行います。

構成を考えて、ピンウインドウから映像素材を選びます。プレビューウインドウで絵と音を確認して適当な長さにカットします。カットしたものをタイムラインにならべます。

その際、「ねらい」がはっきりしていて、分かりやすい構成になっているかが重要なポイントになります。

文字を入れ、コメントを入れ、必要に応じて音楽やエフェクトも入れて作品を完成させます。

映像素材を生かすも殺すも編集次第です。

学修目標は、次の3点です。

ノンリニア編集のしくみを理解し、編集機材を使いこなせるようにする。

構成で「ねらい」を絞り、「よく分かる」ように映像編集する。

映像編集技能の向上をはかる。

内容

1	ノンリニア編集について
2	ノンリニア編集で使用する機材について
3	編集の約束事(方向性、目線、時間と空間のとばし方、サイズ、長さ、イマジナリーライン)
4	誰に何をどう見せたいのか。「ねらい」は何か。
5	構成を考える。編集のための素材を集める。ノンリニア編集機に取り込む(キャプチャーする)
6	エディウスについて
7	編集開始。どのような順番でカットをならべるか。どこを切り取るべきか。
8	素材の音を生かそう
9	エフェクトについて考えよう
10	文字を入れよう
11	コメントを書く。選曲する。
12	ナレーション入れ。音入れ(音楽、効果音)。
13	必要に応じて手直し
14	視聴、検討
15	まとめ

評価

実習 50 点及び作品 50 点の合計で評価し、60 点以上を合格とする。

三分の二以上出席することで評価を受けることができます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要な教材は、その都度、資料として配布する。

科目名	イベント・CM制作演習		
担当教員名	小西 真理		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目では、イベント・CMを音楽の面から制作していきます。

単に鑑賞するための音楽ではなく、特定の商品を告知・宣伝するための音楽を制作することにより、広告の意味や影響を考察し、それにおける音楽の果たす役割を実践を通して学んでいきます。

学修目標は、

音楽ソフトCubase AI4を自在に操作できるようにする

映像に沿った音楽の制作

広告としての効果の検証

内容

第1回 ガイダンス

第2回 Cubase操作の確認を兼ねた演習課題

第3回 Cubase操作の確認を兼ねた演習課題

第4回 既製CM音楽についての研究

第5回 既製CM音楽についての研究

第6回 音声の録音

第7回 サウンドロゴの制作

第8回 サウンドロゴの制作

第9回 動画の取り込み

第10回 動画にBGMを付ける

第11回 自作CM音楽の制作

第12回 自作CM音楽の制作

第13回 自作CM音楽の制作

第14回 自作CM音楽の制作

第15回 まとめ

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

コンピュータミュージックI、IIを履修済であることが望ましい。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

原則、プリントを配布します。

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・ 書籍（ガイドブック）

「Cubase Series 徹底操作ガイド」 株式会社 リットーミュージック

・ DVD

「Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座」 株式会社 ウォンツ

「ミュージック・マスターガイドDVD "CUBASE 4"」 株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータによるマガジン制作演習		
担当教員名	大西 由華		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本の出版物がコンピュータで編集されるようになって20年が経ちました。アプリケーションソフトも成熟し、専門家だけでなくとも編集レイアウトが出来て、ちょっとしたコツを覚えれば、誰でもページを美しく仕上げることが出来るようになりました。

この授業では、レイアウトソフト『Adobe InDesign』を使って、編集に慣れていなくても、ひとまずコンピュータでマガジン制作してみたい人に体験いただける内容です。

「マガジン制作ワークショップ」を受講された方はステップアップ編として位置付けることができ、翌年の受講が優先されます。また「DTP 演習」を受講される方は、その前の受講をお勧めします。

コンピュータ操作が中心となるため、履修人数を制限することがあります。

内容

- ・オリエンテーション
- ・DTP 基礎知識
- ・イラストや画像
- ・ツールの基本操作
- ・マスターページ
- ・ページレイアウト
- ・印刷

評価

授業態度40点、課題制作60点により評価を行い、60点以上を合格とします。試験は行いません。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

自主プリントを中心に使用し、必要に応じて随時紹介します。

科目名	コンピュータによるマガジン制作演習		
担当教員名	大西 由華		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本の出版物がコンピュータで編集されるようになって20年が経ちました。アプリケーションソフトも成熟し、専門家だけでなくとも編集レイアウトが出来て、ちょっとしたコツを覚えれば、誰でもページを美しく仕上げることが出来るようになりました。

この授業では、レイアウトソフト『Adobe InDesign』を使って、編集に慣れていなくても、ひとまずコンピュータでマガジン制作してみたい人に体験いただける内容です。

「マガジン制作ワークショップ」を受講された方はステップアップ編として位置付けることができ、翌年の受講が優先されます。また「DTP 演習」を受講される方は、その前の受講をお勧めします。

コンピュータ操作が中心となるため、履修人数を制限することがあります。

内容

- ・オリエンテーション
- ・DTP 基礎知識
- ・イラストや画像
- ・ツールの基本操作
- ・マスターページ
- ・ページレイアウト
- ・印刷

評価

授業態度40点、課題制作60点により評価を行い、60点以上を合格とします。試験は行いません。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

自主プリントを中心に使用し、必要に応じて随時紹介します。

科目名	マガジン制作ワークショップ（基礎）		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ボランティアの広報紙等をツールとして、その編集に直接関わりながら雑誌や冊子制作の基本を学ぶ。演習の形をとるので、受講者と調整のうえ、集中授業も展開する。

科目の概要

成果物のコンセプトの理解を踏まえ、企画の組み立て、コンテンツの編集をOJTで学ぶ。

学修目標

- 1 川上から川下までの編集工程を体験見聞することにより、企画力の重要性、見出し・写真配置を含めた総合的な編集力を高め、コンテンツの活かし方を体得する。
- 2 電子書籍が注目される時代ではあるが、紙媒体による「雑誌、冊子、新聞」等の編集の蓄積がその基盤であることを学ぶ。
- 3 メディアへの就職を志向する学生のキャリアアップに資する。

内容

雑誌（小冊子）であれ、書籍であれ、新聞であれ、あらゆる出版物は、企画力・文章力・見出しを含むレイアウト力といった総合的な「編集力」の結晶である。ボランティアの広報紙等をツールとして、何をコンセプトにして、どう取材し、どう書き、どう割り付けて、読者の心をつかむか。大学の学びを実践的に生かし、その手ごたえを感じることで、学びの喜びを再発見する授業を展開する。編集者の肉声にも接し、レイアウトの延長線上にあるDTPにも触れながら、成果物を生み出し、検証し合う。

評価

授業への取り組み50点、理解と進歩50点の計100点で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示。

科目名	マガジン制作ワークショップ（発展）		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ボランティアの広報紙等をツールとして、その編集に直接関わりながら雑誌や冊子制作の基本を学ぶ。演習の形をとるので、受講者と調整のうえ、集中授業も展開する。

科目の概要

成果物のコンセプトの理解を踏まえ、企画の組み立て、コンテンツの編集をOJTで学ぶ。

学修目標

- 1 川上から川下までの編集工程を体験見聞することにより、企画力の重要性、見出し・写真配置を含めた総合的な編集力を高め、コンテンツの活かし方を体得する。
- 2 電子書籍が注目される時代ではあるが、紙媒体による「雑誌、冊子、新聞」等の編集の蓄積がその基盤であることを学ぶ。
- 3 メディアへの就職を志向する学生のキャリアアップに資する。

内容

雑誌（小冊子）であれ、書籍であれ、新聞であれ、あらゆる出版物は、企画力・文章力・見出しを含むレイアウト力といった総合的な「編集力」の結晶である。ボランティアの広報紙等をツールとして、何をコンセプトにして、どう取材し、どう書き、どう割り付けて、読者の心をつかむか。大学の学びを実践的に生かし、その手ごたえを感じることで、学びの喜びを再発見する授業を展開する。編集者の肉声にも接し、レイアウトの延長線上にあるDTPにも触れながら、成果物を生み出し、検証し合う。

リアルな「編集力」の学びと関連付け、雑誌・書籍ビジネスや、抱える課題についても学ぶ。

評価

授業への取り組み50点、理解と進歩50点の計100点で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示。

科目名	情報倫理		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスコミ4媒体から驚異的な普及でその影響力を延ばすインターネットに人々の関心は移り、仕事や研究、私生活を取り巻く環境は一変した。

しかし「情報」の重要度が高まっているにもかかわらず、個々の情報を見てみると、まさに玉石混交である。そうした現代を生きる我々は混沌とした情報社会の中で真に必要な情報を選び、間違いやトラブルからいかに自らを守るかが問われている。

授業では、メディア企業だけでなく、我々個人にも情報発信が可能になった現実を踏まえ、情報の発信から受信と(再)利用の過程で、企業も個人も守り、気をつけなければならないルール=情報倫理について考える。

内容

授業計画

- 1) 現代社会と情報
- 2) 情報社会の特徴と情報の信ぴょう性
- 3) 情報公開と個人情報の保護
- 4) 監視カメラと人権/プライバシー *番組視聴
- 5) インターネットと人権
- 6) 表現の自由と制約
- 7) 名誉毀損/プライバシーの侵害と保護
- 8) テレビ番組基準
- 9) 報道被害と救済
- 10) 報道番組とネット *番組視聴
- 11) 匿名発表&匿名報道と無責任社会
- 12) 少年犯罪&精神障害者事件と報道
- 13) 情報源の秘匿
- 14) 編集権と期待権
- 15) まとめ

評価

期末レポート60点 + ミニレポート40点 = 100点 60点以上が合格

*ミニレポートとは、毎回の授業終了前の約10分で受講生の理解度を把握するために行う一種のリアクションペーパーである。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

関連資料は毎回の授業時に配布する。参考図書は随時紹介する。

科目名	漫画論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

戦後日本の代表的なポピュラー文化として、マンガとアニメーションは相互に影響を与え合いながら発展してきました。その結果、マンガやアニメは、「ソフト・パワー」として現在日本の産業を支える重要なコンテンツになっています。日本ではどうして、こんなにもマンガとアニメが普及したのでしょうか？ その歴史的な文脈を探りながら、わたしたちの社会や文化、日常生活の中でマンガとアニメが果たしてきた役割を、文化社会学的な視点から考察します。そのために、広く社会学、歴史学、文化研究、メディア論、表象論、文学理論など、分析のために役立つ理論や方法論を毎週の講義を通じて紹介していきます。最終的には、受講者が実際にレポートなどを作成する際に使えるような知識を学んでもらうことが本講義の目的となります。また、製作現場が実際にはどのように展開されているかを学んでもらうために、実際にマンガやアニメーションの製作に関わっている特別講師の方を招いて特別講義をしてもらうことになっています。

内容

1. ポピュラー文化としてマンガとアニメをどう考察するか
2. 戦後マンガの歴史(1) 手塚治虫が開いた世界
3. 戦後マンガの歴史(2) 少年マンガの世界
4. 戦後マンガの歴史(3) 少女マンガの世界
5. マンガと表象(1) ジェンダーの視点から
6. マンガと表象(2) 恋愛の視点から
7. マンガとその製作現場 特別講師の授業
8. 戦後アニメの歴史(1) テレビアニメの世界
9. 戦後アニメの歴史(2) SFアニメの世界
10. 戦後アニメの歴史(3) アニメ映画の世界
11. アニメと表象(1) ハイブリディティの視点から
12. アニメと表象(2) テクノロジーの視点から
13. アニメとその製作現場 特別講師の授業
14. 「クール・ジャパン」現象を再検討する
15. まとめ

特別講師の講義日程によって、順番については多少の変更があります。

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%を総合して評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書

津堅信之・アニメーション学入門・平凡社新書

推薦書

大塚英志 + ササキバラゴウ・教養としての まんが・アニメ

米沢嘉博・戦後少女マンガ史 ・ちくま文庫

その他、必要に応じて、授業の中でテキストを指示し、プリントを配布します。

科目名	国際マスコミュニケーション論		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目分類 マスメディアコースメディア理論群選択必修

概要

「国際マスコミュニケーション」とは、マス・メディアを中心にした国を越えた社会の間のコミュニケーションをいいます。例えば、高校のときに韓国に旅行にいかれた方は、向こうでNHKを見ることが出来るのに驚いたのではないのでしょうか。グローバル化の進展に伴い、国際マスコミュニケーションは質・量共に増大しつづけており、それが国家および社会にとってどのような影響を与えているのかを考えるのが本講義の目的です。「国境を越えるマス・コミュニケーションのインパクト」が講義のサブタイトルです。

取り扱うテーマは、前半は、「国際マスコミュニケーション」を議論していく上で必要な、基本的な事象や概念について、具体的な事例を交えながら解説していきます。取り扱う主な事象・概念は、文化帝国主義、情報主権、国境を越えるテレビ、集团的帰属意識などです。

後半は、ヨーロッパ・北米などにおける具体的な「国際マスコミュニケーション」の状況を紹介しながら、前半で解説した概念の理解を深めていきます。講義の締めくくりでは、現在の日本を含めたアジアを取り巻く「国際マスコミュニケーション」の状況を考えてみたいと思っています。

目標

現代における国際マスコミュニケーションの意義と問題点を理解する。

内容

1	イントロダクション
2	現代の国際マスコミュニケーションの特徴
3	現代の国際マスコミュニケーションの特徴
4	マスコミュニケーションと国民的帰属意識
5	マスコミュニケーションと国民的帰属意識
6	国境を越えるマスコミュニケーション(TV)は何を伝えるのか
7	中間まとめ
8	「国境を越えるマスコミュニケーション」とステレオタイプ
9	「国境を越えるマスコミュニケーション」とステレオタイプ
10	世界情報秩序をめぐる議論と情報主権・文化帝国主義
11	北アメリカにおける国際マスコミュニケーション
12	ヨーロッパにおける国際マスコミュニケーション
13	日韓間の国際マスコミュニケーション
14	アジアにおける国際マスコミュニケーション
15	まとめ

評価

中間テスト（40％）および期末レポート（60％）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】ジョン・トムリンソン『文化帝国主義』青土社 361.6/T

田中浩編著『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』龍星出版、1996年

『メディア用語基本事典』（世界思想社）

科目名	グローバルジャーナリズム		
担当教員名	鈴木 弘貴、込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格:コミュニケーション学科の学科専門科目で、マスメディアコースの「メディア理論群」の中の選択必修科目

科目の概要:「グローバル化」は、社会のあらゆる面において、現に進行している現象であるが、本講義ではその中でも特に、経済とメディア(ニュース)の二つの側面にポイントを絞って授業を進めていく。「経済面」は「グローバル化」と呼ばれる現象が最も早く現われ、また、その他の分野の「グローバル化」にも大きな影響を及ぼしている分野である。具体的には、自由貿易協定、多国籍企業、金融の国際化などに表れている。このような具体例を挙げながら、グローバル化がもたらす功罪について学んでいくことにする。「メディア(ニュース)」の「グローバル化」、「すなわち「グローバル・ジャーナリズム」は、経済のみならず、文化・社会のグローバル化の動きと密接にかかわる現象である。このため、「グローバル・ジャーナリズム」の現状について学び、考えることは、「グローバル化と社会」を総合的にとらえる視点を得ることになる。具体的には、CNN国際ニュースやBBCワールドニュースなどの事例から、グローバルなニュースとは何か、それは必要なのか、その問題点は何か、などを学んでいく。

学修目標:1. 「グローバル化」の意味と、それが現代社会でなぜ進行しているのか、そしてそのインパクトは何かを理解する。2. 「経済におけるグローバル化」を巡る諸問題を理解する。3. 「社会におけるグローバル化」の一例としての「グローバル・ジャーナリズム」を巡る諸問題を理解する。

内容

1	グローバル化とは何か
2	グローバル化がもたらす経済への影響
3	インターネットとグローバル化
4	グローバルな経済危機
5	グローバルと通貨危機
6	経済危機と経済政策
7	グローバル危機と国際協調
8	中間まとめ
9	ジャーナリズムと市民社会
10	グローバルなニュースの収集
11	グローバルなニュースの伝達
12	グローバルなニュースの選択と解釈
13	グローバル・ジャーナリズムの現状
14	グローバル・ジャーナリズムの問題点と可能性
15	まとめ

評価

中間レポート（50%）および期末レポート（50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

『メディア用語基本事典』（世界思想社）

『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（世界思想社）

科目名	放送ジャーナリズム		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

テレビやラジオの放送制度や放送番組を中心に研究する。具体的には実際の政治や事件、戦争などがどのように報道されているかを検証する。この意味で「時事問題を扱う他の科目と合わせて履修することを薦める。3年、4年次の卒論執筆の基礎にもなる。

マスメディアは世界、国家、社会を映す鏡である。しかし、鏡が曇っていてはそれらを正しく映し出すことはできない。特にテレビは今や、人々の生活や仕事と切っても切り離せない社会装置でありながら、「やらせ」や「捏造」、「政治(家)との関係」など様々な課題を抱えている。真に役に立ち、必要とされるテレビとはどのようなテレビなのか、という視点でテレビを考える科目である。

ただ漫然とテレビを見るのではなく、「考えながら見る」「見た後で考える」ことが重要である。とにかく人気のある番組、質の高い番組をたくさん見てほしい。そして、「もし自分がディレクターだったら」「もし、レポーターだったら」どうしよう!と考えると、もっとテレビが身近になり、テレビが伝えることをよりよく、より正確に、より楽しく、そして、より批判的にとらえることができるようになる。

内容

- 1) ガイダンス 「放送」とは何?、「(放送)ジャーナリズムって何?」
- 2) 放送にはルールがある タイタニック号遭難の教訓、届かなければ放送じゃない、「あまねく論」
- 3) 放送と通信の融合 MSNBC の衝撃、デジタル技術が可能にしたもの
- 4) テレビの影響力 メディアスクラムと放送被害、BPO
- 5) 放送番組基準 時代/世相とともに変わる番組基準、NHK/民放比較
- 6) 放送と政治 多様性の確保と所有規制問題
- 7) 放送と政治 ケネディ対ニクソンTV討論から“劇場型報道”
- 8) 放送と政治 ベトナム戦争とテレビ
- 9) 番組編集権 言論・表現の自由と政治(家)の“介入”
- 10) 戦争報道 ベトナム戦争の前と後
- 11) 戦争報道 BBC戦争報道ガイドライン、米従軍取材ガイドライン、自衛隊取材要綱(イラク)
- 12) 戦争報道 9・11同時多発テロとイラク・アフガン戦争、“ロボット戦争”
- 13) 災害報道 被害報道から防災報道へ、国境を越える災害と国際放送
- 14) 視聴率問題 視聴率調査、視聴率至上主義の弊害、誰のためのテレビか
- 15) まとめ

評価

毎回のミニレポート = 40点(授業の理解度、受講生の問題意識、日常のテレビ視聴を通しての疑問点等を見る)

期末試験 = 60点

計100点 両方合わせて60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使わない。参考図書は授業中に随時紹介する。

科目名	エンターテイメント映像論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本講義では、グローバル化が進むにつれて世界中で視聴されるようになったハリウッド映画のいくつかの作品を視聴し、その面白さの根源がどこにあるのか、また世界中で見られる映像としてそこで描かれている事物がどのような意味を持ちうるのか、といった点についてグループワークを中心に分析していく。授業で扱うのは、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』、『スター・ウォーズ』、『タイタニック』、『ターミネーター2』など、誰もが一度は見たことがある(だろう)作品である。授業内では、実際に映画を視聴し、映画理論に関する論文を輪読し、「ハリウッド脚本術」と呼ばれるその独特の脚本構成の分析や映像表現技術の検討を通じて、エンターテイメント性とはなにか、またその概念が孕む問題点について考えていく。

内容

1. エンターテイメントメディアとは何か?
2. エンターテイメントメディアの構造(1)ストーリーと脚本
3. エンターテイメントメディアの構造(2)キャラクター
4. エンターテイメントメディアの構造(3)フレームと編集
5. エンターテイメントメディアの構造(4)イデオロギー
6. エンターテイメントメディアの分析(1)
7. エンターテイメントメディアの分析(2)
8. エンターテイメントメディアの分析(3)
9. エンターテイメントメディアの分析(4)
10. エンターテイメントメディアの分析(5)
11. エンターテイメントメディアの分析(6)
12. エンターテイメントメディアと映画理論(1)
13. エンターテイメントメディアと映画理論(2)
14. エンターテイメントメディアと映画理論(3)
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%で総合して評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

藤井仁子『入門・現代ハリウッド映画講義』人文書院

ルイス・ジアネッティ『映画技法のリテラシー1』フィルムアート社

ルイス・ジアネッティ『映画技法のリテラシー2』フィルムアート社

純丘曜彰『エンターテイメント映画の文法：ヒットを約束する脚本からカメラワークまで』フィルムアート社

ニール・D.ヒックス『ハリウッド脚本術：プロになるためのワークショップ101』 フィルムアート社

*必要に応じて、授業内でプリントを配布します。

科目名	サイバージャーナリズム		
担当教員名	平井 智尚		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目はジャーナリズム関連科目の一つである。よって、関連科目の履修によりジャーナリズムに関する基礎知識を修得していることが前提となる。

ねらい

本講義ではウェブとジャーナリズムの関係について考える。ジャーナリズムと聞くと、マス・メディア組織に所属する専門家が行う活動のように思える。だが現代においては、ホームページ、ブログ、電子掲示板、動画サイトなどに見られる表現もジャーナリズムとかがわってくる。本講義では日常生活におけるインターネット利用に引きつけながら、サイバージャーナリズムの問題を考えていきたい。

学修目標

(1) サイバージャーナリズムの枠組みを理解する。(2) サイバージャーナリズムを自らのインターネット利用に展開することができる。(3) 既存のジャーナリズムとの関係を理解する。(4) ウェブ社会のリテラシーを身につける。

内容

1	ガイダンス
2	サイバージャーナリズム概論
3	ポータルサイト
4	インターネット新聞
5	ウェブの普及と個人の情報発信
6	電子掲示板
7	ブログとジャーナリズム
8	ブログとジャーナリズム
9	動画サイトとジャーナリズム
10	個人ニュースサイト
11	内部告発サイト
12	事例分析
13	事例分析
14	マス・メディアのウェブ展開
15	まとめ

評価

授業内レポート(2~3回を予定)を40点、期末レポートを60点として評価を行い、60点以上を合格とする。なお受講者が多数の場合には期末レポートをペーパーテストに変更する場合もある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし

【推薦書】なし

【参考図書】授業内で適宜紹介する

科目名	コミュニケーションの心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

コミュニケーション学科の専門選択科目として、人間のコミュニケーション行動に興味をもつ学生を対象とする。コミュニケーション行動を科学的に理解する基礎を身につける。

科目の概要

コミュニケーション活動とは、メッセージを送る人と受け取る人との共同作業であり、メッセージという情報が表現され伝達され受容され理解されるというプロセスからなるものである。このプロセスのなかで、人間がどのような行動を行っているのか、心や行動にどのような影響を及ぼすのか、について明らかにされている心理学的なメカニズムや法則性を中心に述べる。私たちが普通に行っている行動に影響を及ぼす心理的な要因について、論理的かつ分析的に理解する知識を身につけるとともに、行動の潜在的な意味や目的を客観的に考える態度や視点を養ってほしい。

学修目標

評価基準ともなる学習到達目標は、1)教科書の記述内容を理解しようと努力したか、2)コミュニケーション行動に関するメカニズムや法則性を理解したか、3)コミュニケーション行動に関する理論を日常生活での行動に適用して説明できるかである。

内容

1. コミュニケーション行動と心理学
2. 対人コミュニケーションの成立
3. 対人コミュニケーションの特徴
4. 言語とコミュニケーション
5. 言語コミュニケーションの特質
6. 非言語メディアによるコミュニケーション
7. 自己開示の概念と領域
8. 自己開示が果たす機能
9. 自己開示を規定する要因
10. 自己呈示と社会的スキル
11. 防衛的自己呈示と主張的自己提示
12. 他者を動かすコミュニケーション(要請承諾・説得)
13. 説得的コミュニケーションと態度変容
14. 要請技法と心理的效果
15. まとめ

評価

授業内の小課題20点、期末テスト80点、の計100点満点により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 深田博己著 『インターパーソナルコミュニケーション』 北大路書房

科目名	マス・コミュニケーションの社会心理学		
担当教員名	加藤 徹郎		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目はマス・コミュニケーション論における基礎理論である「効果研究」を学史的に解説していくことで、メディアと世論形成、あるいはメディアと大衆社会との関わりあいについて解説していきます。私たちは日々、様々なメディアに接触しています。そうしたメディアの映し出す「現実」や価値観に、私たちは少なからず影響を受けているのではないのでしょうか。あるいは、逆に私たちがメディアに影響を与えていくこともあるのかもしれません。講義では、こうした「問い」を起点にし、マスメディアが世論に及ぼす影響力について、様々な理論モデルを参照しながら考察していきます。将来マスコミ関連の職業を志望している方、マスメディアを理論的・思想的に体系化して学びたい方には、基本的な知識の習得に役立つ科目といえます。

「情報行動」についての基本的な解説(1,2)、効果研究および世論形成についての理論モデルの説明(3~11)、批判学派における理論的方法論の解説およびメディア受容に関する現代的課題(12,13)

基本的には授業後の復習をメインとする。以下の到達目標と概要を確認しながら、配布されたプリントを参照し、講義全体における各授業の位置づけや、学史的な流れを念頭において内容の理解をすること。

- ・「効果研究」および「世論」「大衆社会」についての基本的な理解。
- ・マスメディアおよび(自分も含めた)人々の情報行動を対象化し、批判的な読解を可能にすること。
- ・メディア受容に関する現代的課題について、オリジナルな視点で興味関心を持てるようになること。

内容

- 1.オリエンテーション
- 2.身のまわりのメディアについて問い直す - 情報行動 -
- 3.なぜ大衆はメディアに説得されてしまうのか? - 弾丸効果モデル -
- 4.メディアの影響力を疑ってみる - コミュニケーション2段階の流れ -
- 5.遠くのメディアより近くの知人 - オピニオン・リーダー論 -
- 6.複雑な「社会」をメディアはいかに映し出すのか? - 擬似環境論 -
- 7.「何を考えるべきか」と「何に「ついて」考えるべきか」 - アジェンダ設定モデル -
- 8.世論はいかに形成されるのか? - アジェンダ設定モデルの展開 -
- 9.世間知、あるいは「空気」としてのメディア - 沈黙の螺旋モデル -
- 10.長時間メディアに接していると、人間不信になる? - 培養効果モデル -
- 11.視聴者によるメディア評価 利用と満足研究 -
- 12.送り手の責任/受け手の責任 - カルチュラル・スタディーズ -
- 13.インターネット上のコミュニティ
- 14.期末試験
- 15.まとめ/フィードバック

評価

【レポート30点, 期末テスト60点, これに毎回の小レポート(授業内容についての感想)を加えた総合評価】

期末試験の範囲は全ての講義内容とします。

【注意事項】

・映像資料を使用する関係上、遅刻・私語は厳禁とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特になし（毎回、プリントを配布。参照資料はそのつど提示します。）

科目名	ドキュメンタリー映像論		
担当教員名	小河原 正己		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

20世紀は、「映像の世紀」と言われている。言うまでもなく、その前半世紀は「映画」が大きな柱となり、後半世紀は「テレビ」がその中核となった。そして、そのいずれの時代においても、何人もの先駆者たちが、ドキュメンタリー的な映像表現の手法を駆使して、数々のすぐれた記録や作品を残し、様々な分野で、知られざる事実や隠された真相を記録、放送してきた。

そこで、これら過去の名作を視聴しながら、次の3つをキーワードに、ドキュメンタリーにおける映像表現とは何かを考察する。

1、ドキュメンタリーとは何か 2、映像を通してものを見るときはどういうことか 3、ドキュメンタリーをどう読みとるか

そのために、具体的には、次のように、講座を展開する。

1. 100年を超えるドキュメンタリーの歩みをたどり、その先駆者たちの映像表現の思想と手法を理解させる。
2. 講師が制作に関わっている番組を例に、映像表現や番組制作の体験的、実践的な方法論を解説する。
3. ドキュメンタリーにおける演出やメディア・リテラシーについて理解を深めるとともに、ドキュメンタリーの今後の可能性について考察する。

内容

1	「映像の世紀」の黎明・映画の登場～リュミエール兄弟とG・メリエス(フランス)
2	ドキュメンタリー映画制作の先駆者(1)～ドキュメンタリーの父・R・フラハティ(アメリカ)
3	ドキュメンタリー映画制作の先駆者(2)～近代映画の父・D・W・グリフィス(アメリカ)
4	ドキュメンタリー映画手法の確立(1)～モンタージュ理論・S・エイゼンシュテイン(ロシア)
5	ドキュメンタリー映画手法の確立(2)～美の追及者・L・リーフェンシュタール(ドイツ)
6	ドキュメンタリー映画理論の確立～J・グリアソンとP・ローサ(イギリス)
7	ドキュメンタリー映画日本の先駆者～戦う映画監督・亀井文夫
8	「映像の世紀」・テレビの登場～テレビ最初期のフィルム・ドキュメンタリー
9	ドキュメンタリーは、「音」をどう取り込んできたか～フィルムからビデオへ
10	ビデオは、テレビ・ドキュメンタリーをどう変えたか(1)～凝視するカメラ
11	テレビは、「ヒロシマ」をどう記録したか(1)～空白の記録
12	テレビは、「ヒロシマ」をどう記録したか(2)～爆心地の記録
13	ビデオは、テレビ・ドキュメンタリーをどう変えたか(2)～時代と格闘するカメラ
14	デジタル・メディア時代、ドキュメンタリーをどう見るか
15	デジタル・メディア時代、ドキュメンタリーはどうなるか

評価

期末のレポート40点、各回の小レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考書】(1) ポール・ローサ著「ドキュメンタリー映画」(1936年)

(2) エリック・バーナウ著「世界ドキュメンタリー史」(1974年)

【推薦書】(1) 吉田直哉著「映像とは何だろうか～テレビ制作者の挑戦」(岩波新書、2003年刊) 699/Y

(2) NHK出版編「ヒロシマはどう記録されたか」(NHK出版、2003年刊) 210.75/H

(3) 今野勉他著「お前はただの現在にすぎない」(朝日文庫、2008年刊)

科目名	メディア広告論		
担当教員名	山形 季央		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

広告活動は、ある程度の規模の企業にとっては製品広告、企業広告とも必要不可欠です。

広告とは広告費を支払って、広告効果を求める経済活動です。広告費の6 - 7割はメディア費用です。

適正なコストで、適当な効果を期待するために、メディア戦略が採用されます。

それが「マーケティング・コミュニケーション戦略」です。その理解が目的です。

(この科目では、クリエイティブ戦略論はほとんど取り上げません)

メディアの種類ごとの、メディア企業の経営方法を理解し、広告主企業側のマーケティング戦略の概要を理解するために「講義」を主体にします。さらに、理解を深めるために、「机上演習」をします。

企業活動というものを偏見なく理解することが基本的知識となり、企業活動を広告活動から把握することを実践的理解とする立場で数回の「レポート」を課します。期末最終レポートは発表も含みます。

マスメディアおよび情報データベースとしてのウェブメディア、通信メディアの現状と数年先の状況を第三者に説明できる程度に、個別知識を身につけましょう。企業の広告部長は何を考え、何を意図するかを追体験しましょう。

内容

デジタル放送が実現する年です。注目すべきは、アナログ放送がなくなることです。写真がデジタル全盛になってもアナログのフィルムは残っていますが、アナログテレビは、アナログ録画したビデオテープの再生にしか使えません。過去の番組はデジタル化しないとまったく価値がなくなります。過去の番組をコストを掛けてデジタル化する以上は、営業して収益を上げないとなりません。そのために、放送局という企業体は、番組映像を使った新しいビジネスモデルをいろいろと考え出すでしょう。

出版社はデジタル出版と配信販売に本格的に向き合い始めるでしょう。電子出版物を閲覧するデバイス(道具)が多様化するでしょう。雑誌も、新聞もデジタル化するとたとえば写真は動画に変化してゆくかもしれません。BGM付の記事やコラムがラジオのように流れるかもしれません。音楽配信との融合も考えられます。

2011年は、日本では、メディア状況が大変化する年になりそうです。携帯電話などでは、韓半島や中国大陸を巻き込んだシステムバージョンアップが進み始めるでしょう。日本企業の広告部長さんたちは、そのような変化の中でも、消費者たちのメディア接触状況、活用状況を見極めて将来計画を立案し、実行し、総括してゆかねばなりません。

そのためには、テレビ放送や、テレビ広告とはなにか? どのようなバリエーションが可能か?

新聞雑誌という活字媒体といわれていたメディアもデジタル化でどのような変化がおきるのか?

消費者たちは、購買行動をどのように変化させてゆくのか? という疑問に取り組みます。

購買行動とは、どのように分析できるのかをマーケティングは研究してきました。その中の各要素を細かく点検します。分析に必要な尺度をマーケティングは考えてきました。その尺度には、どういう新しい要素が加わるのかを検討します。

メディア業界に働く人たちは、特に東京には数多くいます。その人たちはどういう局面にいるのでしょうか? 生き残るメデ

メディアも、変化は進行します。「ゲゲゲの女房」に紙芝居がマンガ本に、マンガ本がテレビにブームが移行して行った場面がありました。2010年代は再び新旧交代、新陳代謝の時代です。

基礎知識は、講義中にできるだけ説明しますが、できれば、討論時間をつくりたいものです。

評価

レポート提出とその内容、発表に大きな比重があります。

受講態度も評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

主たる教材は、講義中に紹介しますが、次の新書を読むと参考になります

『生き残るメディア』	まつもとあつし	アスキー新書	2010.12.10刊	743円
『電通とリクルート』	山本直人	新潮新書	2010.12.20刊	720円
『メディア社会』	佐藤卓巳	岩波新書	2006.6.20刊	740円

科目名	メディア産業論		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディア4媒体と新領域メディアに至るメディアビジネスを概観し、コンテンツの重要性を押さえながら、今後を展望する。

科目の概要

新聞、テレビ、雑誌、ラジオという既存メディアの厳しいビジネス環境さとともに、インターネット、電子書籍、携帯電話等の展開を学ぶ。

学修の目標

- 1 日々、現代人が水のように接するメディアのビジネス構造を理解し、ビジネス面からメディアリテラシーを高める。
- 2 メディアビジネスの現場で働く人の現実を的確に把握し、メディアへの就職を志向する学生のモチベーションをアップさせる。

内容

1	ガイダンス(ネット社会における新聞の明日から説き起こす)
2	総論 メディアの変貌の中のロマンとソロバン
3	全国紙ビジネスの今
4	通信社と地方紙
5	編集者と出版界
6	電子書籍と紙の本
7	本ができるまでと本の出版
8	テレビ概論
9	テレビの番組制作とビジネス
10	ラジオのラジコという試み
11	業界専門紙の生き方
12	広告ビジネス概観
13	広告代理店の今
14	インターネットビジネス
15	まとめ

評価

授業への取り組み70点、試験30点の計100点で、60点以上を合格とします。合格点に満たない場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	映像女性論（基礎）		
担当教員名	松本 侑壬子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

映画は楽しい娯楽であると同時に、巨額の制作費をかけたイメージ商品であり、その時代や社会の欲求の反映です。また人の心に直接に訴えかける強力なメディアであり、高度な総合芸術でもあります。映画を手がかりに社会と人間関係のあり方をジェンダーの視点で考えてみましょう。

19世紀末の映画の誕生から1世紀余の歴史の中で、女性の登場しない映画はごく稀（まれ）です。スクリーン上のヒロインは長い間理想の女性イメージとして描かれ、それは時代とともに変わってきたのです。改めて“作られた女の理想像”を見直し、時代背景との関係を考察します。

前期（Ⅰ）は、ヒロイン像の変遷。映画史とからめながらスクリーンに描かれる女性像の変遷を中心に、パワーポイントを使って分かりやすく講義します。映画をジェンダーの視点から主体的に見る基礎的な力（メディア・リテラシー）をつけることを目指します。

この授業は、学年、学部・学科を問わず広く受講可能です。ただし、私語は厳禁。授業妨害とみなし、即刻退室を求めます。

内容

1. 映画の誕生とその時代 “動く画像”への挑戦、エジソンの発明、リュミエール兄弟のシネマトグラフへ。
2. 世界初の女性監督は23歳のパリジェンヌだった 映画黎明期の女性映画人たち。
3. ヒロイン像の変遷 ハリウッドの成り立ちと“夢の工場”で形成される“女の理想像”
4. ヒロイン像の変遷 “アメリカ映画の父”とグリフィス・ガールズ
5. ヒロイン像の変遷 最初の女優たち 対照的なハリウッド映画と日本映画
6. ヒロイン像の変遷 ヒロイン3条件は永遠か？
7. ヒロイン像の変遷 サイレントからトーキーへ 変わるスターの条件
8. ヒロイン像の変遷 “女らしさ”は作られる セックス・シンボルの系譜。
9. アニメのヒロインたち
ディズニーの歴史と白雪姫の表象するもの
ジブリの女性像について
10. 女性解放運動と新女性映画
11. CG時代の女性像は？—強く、賢く、美しいアクションウーマンたち
12. アカデミー賞 歴史と仕組み、受賞作品をジェンダーの視点で検討する。
13. まとめ

授業では、映画評論家である本講師による最新映画情報など新鮮な映画の話題も随時取り上げる。

評価

授業に対する意欲・関心・態度およびレポート40点、ペーパーテスト60点により評価を行ない、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特になし。必要に応じて適切なものを紹介、資料配布する。

【推薦書】井上一馬著『アメリカ映画の大教科書』（上・下）（新潮社）778.253/1/1-2

北野圭介著『ハリウッド100年史講義』（平凡社）778.253/K

松本侑壬子著『シネマ女性学』（論創社）778.04/M

エマニュエル・レヴィ著、浜口幸一訳『アカデミー賞全史』（文芸春秋）778.253/L

シネマライブラリー 別冊女性情報「女性監督映画がおもしろい」2004年版（パド・ウィメンズ・オフィス）、同上 2005年版（同）

同上 「女性映画がおもしろい」2006年版（同）、同上 ・2007年版（同）、同上 ・2008年版、同上 ・2009年版、同上 ・2010年版

科目名	映像女性論（発展）		
担当教員名	松本 侑壬子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

後期は、できれば前期の（ ）の授業を受けておいた方がより分かりやすいですが、この授業だけでも理解はできるように講義を進めます。

映画を手がかりに社会と人間関係のあり方をジェンダーの視点で考えること、実際の作品を手がかりに映画を主体的に見る基礎的な力（メディア・リテラシー）をつけるよう目指すのも前期と同様です。

後期は、比較的新しい作品を素材に“女らしさ”“男らしさ”の「性の境界線」を超える主人公たちに焦点を当ててジェンダーフリーな生き方とは、を考えます。

また、世界的に女性の映画産業界への進出が著しい中で、映画の作り手の中心となる女性監督たちについて学びます。とりわけ、これまで見過ごされ勝ちだった日本の女性監督たちの活躍に注目し、その人と作品を通して映画を身近なものとして理解することを目指します。時には現役の女性監督を招き、生きた映画製作の話をお聞きしましょう。

この授業は、学年配当1・2年となっていますが、実際には学年、学部・学科あるいはコースを問わず広く受講可能です。また、社会人の方々にも開講しています。

内容

1. 映画におけるジェンダー問題とは何か “女性映画” というけれど。
2. “性の越境者たち” …異装の人々とその運命
 - 女装 仮説1：男が女装すると、たいていは喜劇になる
 - 女装 仮説2：内的欲求からの女装は、しばしばシリアスになる
 - 男装 仮説3：女が男装すると、たいていは悲劇になる
3. 女の男装ファンタジー 時空を超えるオルランド。漫画・アニメ・舞台・文学から。
4. 世界の女性監督たち
 - 世界初の女性監督は23歳パリジェヌ - アリス・ギーの仕事と生涯
 - ヒトラーと3人のドイツ女性映画人
 - 女性監督ならではの”目” 米・加・旧ソ連の3作品
 - やっと出た！ハリウッド初のアカデミー賞受賞女性監督
5. 日本の女性監督たち
 - 初期の二人。第1号は”男装の麗人”、第2号は、大女優で6本も撮った！
 - 女性に険しい監督への道を自分ならではのやり方で切り開いた3人のわが道
 - 上り坂の日本映画。いま、最も輝いている旬の女性監督たち
6. まとめと展望

評価

授業に対する意欲・関心・態度、レポート40点、ペーパーテストで60点により評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト】特になし。必要に応じて適切なものを紹介、資料配布する。

【推薦書】吉田・林・松本ら共著『女性監督映画の全貌』（パド・ウィメンズ・オフィス）R778.2/J

佐藤忠男著『日本映画史』（岩波書店）（ - ）778.21/S/1-4

松本侑壬子著『映画をつくった女たち 女性監督の100年』（シネマハウス）778.28/M

羽田澄子著『映画と私』（晶文社）778.21/H

浜野佐知著『女が映画を作るとき』（平凡社）778.04/

松井久子監督『ターニングポイント』（講談社）

科目名	演劇論A		
担当教員名	藤澤 茜		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人々を魅了する演劇はどのように誕生し、継承されてきたのでしょうか。この問題を解明することは、日本の文化、風土、宗教観、国民性などを理解し、現代の私たちのルーツを探ることにもなります。

日本の伝統芸能の中でも歌舞伎を中心に取り上げて検証します。その理由は次の4点が挙げられます。

- (1) 小説や浮世絵、落語等に影響を与えた歌舞伎を通じ、人々が演劇に求めた要素を検証できること。
- (2) 神の祭りという宗教的性質があり、信仰と演劇という不可分の問題についても検討できること。
- (3) 世界で初めて回り舞台を設置するなど、舞台技術、演出面でも多くの特徴がみられること。
- (4) 現代のマスコミ同様社会現象を敏感に反映する姿勢から、大衆演劇の意義を明らかにできること。

科目の概要

能、狂言や西洋演劇、アジアの演劇との比較も行ない歌舞伎の本質を明らかにします。宝塚やミュージカル、アニメーションにも対象を広げ、エンターテインメントとしての演劇のあり方を検証します。

学修目標

- (1) 歌舞伎を中心とした日本の芸能、世界の芸能についての基礎知識を学びます。文献調査などのレクチャーを経て、特に興味を持った演劇については各自が検証し、レポートとして提出します。
- (2) 浮世絵を通じて歌舞伎の本質を探ります。浮世絵を持参する機会を設け、絵画の造詣も深めます。
- (3) ビデオ観賞を通じて、役者の演技、演出等の細かな部分にも理解を深めます。

内容

文献、脚本研究のほか、ビデオ観賞、絵画資料からの検証をまじえ視覚的に演劇をとらえて学びます。絵画資料については、主に浮世絵を取り上げます。2008年には浮世絵の検証をもとに元禄時代の上方の舞台復元(プロジェクトには藤澤も参加)が行われるなど、浮世絵は資料的な価値が高く歌舞伎研究には不可欠な資料です。

以下のスケジュールで授業を進めます。

ガイダンス・歌舞伎の特色と歴史

歌舞伎の舞台構造を知る～能舞台の模倣時代から現代のコクーン歌舞伎まで

芝居を創る 元禄上方和事復活上演までの軌跡

市川團十郎と江戸の信仰

人形浄瑠璃と歌舞伎 「義経千本桜」の狐忠信

能と歌舞伎舞踊 「道成寺」「土蜘蛛」など

歌舞伎と話芸 「仮名手本忠臣蔵」と落語

歌舞伎と広告 「外郎売」など

浮世絵に見る歌舞伎 歌舞伎役者の人気を知る

歌舞伎の海外公演 パリオペラ座公演・平成中村座ニューヨーク公演

歌舞伎と海外の演劇(1)京劇(中国)・パンソリ(韓国)等アジアの芸能

歌舞伎と海外の演劇(2)シェイクスピアと蜷川幸雄

海外の演劇 「ロミオとジュリエット」・ミュージカル「ウエストサイド物語」

現代の演劇 宝塚「ベルサイユのばら」に見る華麗な舞台

現代のアニメーション 「千と千尋の神隠し」と日本文化

評価

毎時間の授業に関するコメント提出と、学期末にレポート提出を課します。配点の比率は、授業時のコメント30%、レポート70%とし、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし。【参考書】開講後に指示。

授業時には毎回プリントを配布します。

科目名	演劇論 B		
担当教員名	佐藤 里野		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、マスメディアコース表現文化群のうち、選択必修科目である。本科目では、現代を中心としたアメリカ演劇および舞台芸術について、歴史的背景や社会的文脈に位置付けつつ概観する。

ジャンル、規模において多様にひろがるアメリカの舞台芸術の中から、現代社会の諸問題を読み解く視点を与えてくれる作家、作品を取り上げる。

学修目標は以下の3点とする。

1. 演劇という媒体の特徴を理解する。
2. 授業で取り上げたアメリカ演劇(舞台芸術)の概要を、歴史的・文化的諸条件の中で理解する。
3. 様々な資料から、現代社会の中でアメリカ演劇を多角的に考察する視野を学ぶ。

内容

1	Introduction
2	Circus Amok: 「みんな」のためのパフォーマンス
3	"Undiscovered Amerindians": 「批評的な観客性とは」
4	戯曲 Eunene O'Neil 『夜への長い旅路』他
5	戯曲 Tennessee Williams 『欲望という名の電車』他
6	戯曲 Arthur Miller 『るつぼ』他
7	戯曲 Lillian Hellman 『子供の時間』他
8	戯曲 Edward Albee 『動物園物語』他
9	戯曲 David Henry Hwang 『M.バタフライ』
10	Split Britches: フェミニズム演劇のジレンマ
11	Karen Finley: 「身体」とはなにか
12	戯曲 Tony Kushner 『エンジェルズ・イン・アメリカ』
13	Anna Deavere Smith: ドキュメンタリーと演劇
14	戯曲 Terrence McNally 『コーパス・クリスティ』
15	まとめ

評価

期末テスト(60%)、授業態度(10%)、提出物(30%)で評価し、60点以上を合格とする。

試験や課題は、日本語で実施する。また、全授業の2/3以上出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】プリントを配布する。

【参考書等】授業で適宜紹介する。

科目名	音楽とコミュニケーション		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

- ・私たちが日常的に享受している音楽の大部分は広義の「ポピュラー音楽」だということができる。
- この「ポピュラー音楽」とは何か?どこから来てどのように変遷したのか?を音源、映像資料とともに検証する。また、メディアやテクノロジーと音楽のかかわりについても考察する。
- 主に20世紀のアメリカ音楽を中心に紹介、考察する。中盤以降はアイルランド、イギリス、ジャマイカなど音楽的に関係の深い諸国のポピュラー音楽についても触れていく。

学修目標

- ・ポピュラー音楽はどこからやってきたのか?
- ・ブルースとジャズ
- ・アイリッシュ・トラッドとカントリー・ミュージック
- ・ロックの50年史
- ・ソウルとファンク～ヒップホップ
- ・レゲエとDJ
- ・フォークとシンガー・ソングライター
- ・テクノロジーと音楽～現状と展望～

内容

1	ガイドランス (ルール、システム、ブログの使い方) ・ポピュラー音楽とは?その概略
2	ブルース～R&B アメリカン・ミュージックの原点 ブルース～その発生と拡大、発展
3	ジャズ【1】ラグタイム～ニューオーリンズ・ジャズ～スウィングの黄金期 その他
4	ジャズ【2】ビ・バップ革命～ハード・バップ～クール・ジャズ～ファンキー・ジャズ その他
5	ロック【1】ロック・ミュージックのルーツ カントリー～ロカビリー、R&B、R&R
6	ロック【2】ポップ・ロック～ブリティッシュ・インヴェイジョン その他
7	ソウル～R&B ・ルーツ・ミュージックとしてのゴスペル・ソウル・ミュージック その他
8	フォークとフォーク・ロック フォークとフォーク・ロック～カントリー・ロック その他
9	ロック【3】サイケデリック・ロックとロック・フェスティバル～プログレッシヴ・ロック
10	ロック【4】ロックの多様化～個人志向とエンターテインメント志向シンガーソングライター他
11	スカ～レゲエ スカ～レゲエとヒップ・ホップ アメリカ音楽とジャマイカ音楽の相互影響
12	ロック【5】パンク～ニュー・ウェーブ その他
13	ロック【6】モダン・メインストリーム・ロック～オルタナティヴ・ロック～ポスト・ロック
14	クラブ・ミュージック 電子音楽の歴史、DJカルチャー～ハウス、テクノ、ドラムンベース他
15	テクノロジーと音楽 ・テクノロジーの発達による音楽産業の地殻変動・レコードの時代 他

評価

毎回の小レポート 60%

平常点 40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦図書（必携ではない）

大衆音楽史 森 正人 著 中公新書

サウンド・エッセイ 小沼純一 著 平凡社新書

ポピュラー音楽へのまなざし 東谷護 著 勁草書房

音楽未来形 増田聡・谷口文和 著 洋泉社

科目名	日本語学		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本語の面白さを知る！

この授業は、アクティブラーニング(学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」)による参加型授業です。母国語として特に気づくこともなく使っている日本語を、何で? どうして? を大切に言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。単なる知識の伝授だけでなく、考えるプロセスも訓練しましょう。また、ことばや文化との関わりについて考えながら、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えていきましょう。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。大学での学び・気づきのきっかけになると嬉しいです。

内容

- 第1回 インストラクション(授業の方法と評価の仕方)
- 第2回 言語とは何?
- 第3回 日本語っていつからはじまったの?
- 第4回 言語とコミュニケーション
- 第5回 音声言語としての日本語(音声記号を書けるようにしよう!)
- 第6回 日本語音声の特徴
- 第7回 日本語方言の音声
- 第8回 音響分析と日本語
- 第9回 アクセントとイントネーション
- 第10回 方言とアクセント
- 第11回 文字の歴史
- 第12回 変体仮名を読む(古今集の恋の歌を読む)
- 第13回 表記のゆれと変化
- 第14回 日本語を考える
- 第15回 フィードバック

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問を含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント(提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D < 60 C < 70 B < 80 A < 90 S(4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	日本語学		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本語の面白さを知る！

この授業は、アクティブラーニング(学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」)による参加型授業です。母国語として特に気づくこともなく使っている日本語を、何で? どうして? を大切に言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。単なる知識の伝授だけでなく、考えるプロセスも訓練しましょう。また、ことばや文化との関わりについて考えながら、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えていきましょう。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。大学での学び・気づきのきっかけになると嬉しいです。

内容

- 第1回 インストラクション(授業の方法と評価の仕方)
- 第2回 流行語・ことばの変化
- 第3回 正しいことば・間違ったことば
- 第4回 語彙1
- 第5回 語彙2
- 第6回 敬語・待遇表現
- 第7回 ことばのスタイル
- 第8回 ことばを調べる1
- 第9回 ことばを調べる2
- 第10回 ことばを調べる3
- 第11回 ワークセッション1
- 第12回 ワークセッション2
- 第13回 外国語と日本語
- 第14回 日本語を考える
- 第15回 フィードバック

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問を含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント(提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S(4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します

科目名	ことばの心的メカニズムA		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語） / マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

統語論・意味論・形態論・語用論等の言語学の諸分野については「ことばの心的メカニズムC」で、音声学・音韻論の分野については「ことばの心的メカニズムB・D」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となります。英語の教職課程を履修している学生はできる限り4科目すべてを履修してください。

対象言語としては主に英語を取り上げながら、心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方を学びます。

心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方が理解できる。

内容

1	言語学のめざすもの
2	言語とは何か？
3	（人間）言語の特性
4	人間言語と動物言語
5	言語の習得<心理言語学(1)>: 心理言語学のめざすもの
6	言語の習得<心理言語学(2)>: 言語習得の特徴
7	言語の習得<心理言語学(3)>: 母語の習得（英語の自然発話資料を中心に）
8	言語の習得<心理言語学(4)>: 母語の習得（英語の実験発話資料を中心に）
9	言語の習得<心理言語学(5)>: 母語の習得（形態論・統語論・意味論の各モジュールの習得）
10	言語の多様性<社会言語学(1)>: 社会言語学のめざすもの
11	言語の多様性<社会言語学(2)>: 使用地域による違い
12	言語の多様性<社会言語学(3)>: 使用者の性別による違い
13	言語の多様性<社会言語学(4)>: 使用者の年齢・属する社会による違い
14	言語と脳<神経言語学>: 人間は脳のどの部分を使ってことばを発し、理解するのか
15	まとめ

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とします。合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

- (1) 期末試験： 70%
- (2) 小テスト（毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います）： 30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布します。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』, 郡司隆男・西垣内泰介編, 研究社, 2800円. 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

『言語の獲得と喪失』，橋田浩一他著，岩波書店，3400円．

科目名	ことばの心的メカニズムB		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース表現文化群Iの専門科目で、選択必修科目。なお、「ことばの心的メカニズムD」では、より時間の長い発音(音連続・リズム・イントネーション)に注目して、英語での朗読やナレーションへと応用します。「ことばの心的メカニズムA・C」と「B・D」を合わせれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことができるので、英語の教職課程を履修している学生はできる限り4科目すべての履修をお勧めします。

母語の個々の音(母音・子音・半母音)の発音は無意識に習得している知識ですが、発音に障がいのある人の支援をする時や、外国語の学習・教育において、また、朗読など声を専門的に使う活動においては、音声学の知識が役立ちます。なじみ深い外国語である英語を中心として、日本語との比較により発音のしくみを客観的に分析し、個々の音の特徴を理解します。

英語と日本語の個々の音の発音をしているときの口の中の各部分の動きを考えて、図などで違いを説明できるようにし、発音記号も読み書きできるようにします。さらに、必要に応じて、自らの英語の発音を改善し、英語の聞き取り力も向上させます。

内容

日本人にとって混同しやすい英語の発音(rとlなど)の聞き分けができ、また、自分でも発音し分けられるようになるには、ネイティブスピーカーの発音をただ単に聞き流すだけでは不十分な場合が多いのです。まず口の各部分の動きなどを頭で理解してから、自分で聞き分けができなくても発音の区別をつけて練習していくと、だんだんと聞き分けられるようになります。発音分析には頭の体操の要素もありますが、実際に声を出して実技に取り組んでください。

1	I. 現代英語の標準発音 II. 音声器官と音の分類 IX. 綴り字と発音
2	III. 母音-短母音 その1 (母音の3つの特徴とKIT, DRESS, FOOT)
3	III. 母音-短母音 その2 (TRAP, LOTの米音, STRUTの3母音間の区別)
4	III. 母音-長母音 その1 (FLEECE, GOOSEと短母音との音色の区別)
5	III. 母音-長母音 その2 (PALM, THOUGHT, NURSE, BATHの英米音, CLOTHの英米音)
6	III. 母音-二重母音 (FACE, PRICE, CHOICE, MOUTH, GOATなど)
7	III. 母音-二重母音 (rの二重母音), 三重母音, 弱母音
8	IV. 子音-閉鎖音(有気音と、閉鎖音の前にsがある場合の無気音)
9	IV. 子音-摩擦音 その1 (唇歯音と歯音と歯茎音)
10	IV. 子音-摩擦音 その2 (硬口蓋歯茎音と声門音)
11	IV. 子音-破擦音と鼻音
12	IV. 子音-流音と半母音
13	発音記号に親しむ(1) 英文の発音表記練習
14	発音記号に親しむ(2) 英文朗読への応用
15	まとめ

評価

期末試験（聞き分けテストや発音記号の理解を含む）を60点、平常点（課題提出、小テスト等）を40点として、合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 竹林滋 / 斎藤弘子著（2008）、新装版『英語音声学入門』（音声CD付）、大修館書店。

[参考図書] 授業で適宜紹介します。

科目名	ことばの心的メカニズムC		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

言語学の関連分野については「ことばの心的メカニズムA」で、音声学・音韻論の分野については「ことばの心的メカニズムB・D」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となります。英語の教職課程を履修している学生は4科目すべてを履修してください。

英語を科学的に分析・研究する対象として扱い、英語学の中核をなす形態論(英語の単語の構造)、統語論(英語の文の構造)、意味論(意味の構造)を中心に、さらに語用論などの分野も含めて、英語学の基本的な概念を学びます。適宜、大多数の学生の母語である日本語と比較することにより英語という言語の持つ特徴を浮き彫りにできるようにしたいと考えています。

(i)形態論、統語論、意味論、語用論の基本的な概念をまなぶ、(ii)言語を学習の対象ではなく科学的な分析の対象として捉えることができる

内容

以下の各トピックに関して基本的な概念・考え方等の説明を講義形式で行います。理解を深めるための演習や課題の提出、毎授業の最初に前回の授業の復習小テストがあります。

1	言語を科学的な分析の対象として捉える方法
2	形態論(1): 形態論のめざすもの
3	形態論(2): 語の内部構造、形態素
4	形態論(3): 形態素分析
5	形態論(4): 語形成規則(偶発的な語形成規則)
6	形態論(5): 語形成規則(少し規則的な語形成規則)
7	形態論(6): 語形成規則(規則的な語形成規則)
8	統語論(1): 統語論のめざすもの
9	統語論(2): 句・文の内部構造
10	統語論(3): 句構造規則
11	統語論(4): 変形規則
12	意味論(1): 意味論のめざすもの
13	意味論(2): 語や文の意味の記述
14	語用論: 言語はどのように使用されるのか
15	まとめ

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とします。合格点に満たなかった場合は、再試験を実施します。

(1) 期末試験: 70%

(2) 小テスト(毎回授業のはじめに前回授業の復習テストをします): 30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布します。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

『文法』，益岡隆志他著，岩波書店，3400円． 801.08/1/5

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

科目名	ことばの心的メカニズムD		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース表現文化群Iの専門科目で、選択必修科目。この科目では、「ことばの心的メカニズムB」で身に付けた、英語の個々の音(母音・子音・半母音)に関する知識を、長い朗読やナレーション活動に発展させます。「ことばの心的メカニズムA・C」と「B・D」を合わせれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことができるので、英語の教職課程を履修している学生はできる限り4科目すべての履修をお勧めします。

一般に、幼い子どもが言語を習得する際は、個々の音の正確な発音よりも、複数の音にわたって起こるリズムとイントネーション(韻律)の方を先に習得するといいます。しかし、外国語として英語を学ぶ者が、そのイントネーションを自然なものに近付けるには、いきなり勘にたよって「リズムよく真似」するよりは、英語のリズム・イントネーションの構造・体系・法則性のある程度頭で理解したうえで練習した方が効率がよいので、その手順で練習します。

英語のスク립トの内容をチキンと理解していないと、機械的な音読にしかありませんから、まずテキストの英文ナレーションの意味をその和訳で確認します。次に、個々の音が連続した時に起こる音変化(単語間のリエゾン、音の脱落・同化・融合)の現象を、教科書のお手本ナレーション音声の中で観察します。そして、句・節・文がその文脈の中でどのような音の強弱・高低の変化を見せているのかを、強調すべき情報と、弱く低く飛ばして発音すべき情報とに分けて音読します。

内容

テキストの英語は、6種類のナレーションが合計14ユニットに分かれて収録されています。そのすべてをこなすというよりは、その中の4ないし5種類程度を選んでよく練習し、クラス全体でナレーションCD一枚作品を共同制作できるようにする予定です。以下は、6種類を選んだ場合の、やや練習時間に余裕のない計画ですが、学生の反応によって変える可能性があります。

1	Units 1 & 2 A Disappearing World
2	英語の音変化(単語間のリエゾン、音の脱落・同化・融合)、練習
3	Units 3 & 4 The Missing Snows of Kilimanjaro
4	英語の音節と音の強弱・長短・高低について、Units 1?4より録音
5	Units 5 & 6 Cambodia Animal Rescue
6	複合語アクセントと句アクセント、練習
7	作品発表(1) Units 1?6より映像に合わせて朗読・録音
8	Units 7 & 8 Orangutan Language
9	イントネーションの構造、練習
10	Units 9?11 Cupid the Dolphin
11	音調群の核がどの語の中になるかについて、Units 7?11より録音
12	Unit 12?14 Saving the Pandas
13	共有情報・旧情報・補足のイントネーション、練習
14	総復習
15	作品発表(2) Units 7?14より映像に合わせて朗読・録音

評価

第7週の作品を30点、第15週の作品を30点、それ以外の録音物の合計点を40点として、合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]山科美和子/横山三鶴/沖野泰子著（2011）、_Messages from the Globe_

[ナショナルジオグラフィックDVDで楽しく学ぶ基礎英語]、センゲージラーニング。

[参考図書] 竹林滋 / 斎藤弘子著（2008）、新装版『英語音声学入門』（音声CD付）、大修館書店。（「ことばの心的メカニズムB（音声学 基礎）」では教科書として使用している本です。）

科目名	英米文学史		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選必,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語)/中学校教諭一種免許状(英語)/マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

英米の歴史を背景に両国の文学の流れを概観し、それぞれの時代の特徴と文学の関わりを、小説を中心にしながらいくつかの項目に絞って概説します。そして文学作品を単なる知識として歴史の中に位置付けるのではなく、各時代の潮流の中で作品が人間の生の営みをどのような形で反映し、また新しい時代をどのように切り拓いていったのかを探ってみます。とくに小説は結果が重要なのではなく、結末に至るまでの過程を味読しながら思索すべきものです。その意味からもこの講義が聞きっぱなしに終わらないで、実際に作品に当たってその面白さを直に味わいながら、さまざまな人間像についての理解を深める契機になることを望みます。そのために原則として邦訳のある作品で話を進め、また名場面をビデオで鑑賞したりして、作品を身近なものにします。

内容

《英文学》

- (1) 英米の歴史の流れおよび英語の特徴
- (2) 欽定英訳聖書と英文学
- (3) エリザベス朝演劇とシェイクスピア(人間の発見)
- (4) 18世紀・・・小説の始まり(写実と諷刺の精神)
- (5) ゴシックロマンスとジェーン・オースティン(非日常と日常)
- (6) ローマン派詩人(感情の解放)
- (7) ヴィクトリア朝の小説(ディケンズとブロンテ姉妹)
- (8) イギリス児童文学(ルイス・キャロルとベアトリックス・ポター)
- (9) 世紀末文学(審美主義)
- (10) 20世紀「意識の流れ」の小説(ジョイスとウルフ)
- (11) 生命の哲学(ロレンスとフォスター)

《米文学》

- (12) 19世紀のピューリタニズムと小説(ホーソンとメルヴィル)
- (13) 20世紀初頭の自然主義文学(アメリカの悲劇)
- (14) 20年代の「失われた世代」(虚無と退廃の戦後文学)
- (15) 30年代の社会主義文学とその後(現代文明批判)

評価

課題レポート60点、授業への参加状況40点の割合で評価をし、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

毎回、プリントを配布します。

参考書については授業時に適宜紹介します。

科目名	イギリス文学		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

近代イギリス小説に見る女性像の変遷についての理解を深め、それぞれの時代の新しいタイプの人間像を今日的な観点から検討する。

内容

19、20世紀のイギリス小説に登場するヒロインだけでなく重要な役割を演ずる他の女性も取りあげて、女性としてのさまざまな有りようを作品に即して辿り、時代を牽引する新しい生き方のできる女性、逆に旧弊に囚われた遅れた生き方しかできない女性を、時代背景と照らし合わせながら、具体的な場面設定の中で捉える。その結果として人間の多様な生き様を実感しながら、今日的な意味を探る。

授業計画

- 第1回： ガイダンス
- 第2回： ジェーン・オースティン『高慢と偏見』
- 第3回： シャーロット・ブロンテ『ジェーン・エア』
- 第4回： エミリー・ブロンテ『嵐ヶ丘』
- 第5回： ウィリアム・メックピース・サッカレー『虚栄の市』
- 第6回： チャールズ・ディケンズ『デイヴィッド・コパフィールド』
- 第7回： ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』
- 第8回： ヘンリー・ジェイムズ『ある婦人の肖像』
- 第9回： トマス・ハーディ『テス』
- 第10回： E・M・フォースター『ハワーズ・エンド』
- 第11回： D・H・ロレンス『息子と恋人』
- 第12回： D・H・ロレンス『チャタレー夫人の恋人』
- 第13回： ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』
- 第14回： マーガレット・ドラブル『礮臼』
- 第15回： まとめ

評価

課題レポート60点、授業への参加状況40点の割合で評価をし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキスト

毎回、プリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業時に適宜紹介する。

科目名	アメリカ文学		
担当教員名	佐藤 里野		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、マスメディアコース表現文化群 のなかの選択必修科目で、植民地時代から現代に至るまでのアメリカ文学の流れを、歴史的・社会的背景を踏まえつつ概観する。

この科目では、「小説」を中心に扱う。時代別に、主要な作家・作品を紹介しつつ、作品の今日的解釈に有効な批評理論(ジェンダー批評)なども適宜紹介していく。

文学は、現代社会の様々な問題を読み解く批評的なツールとなり得る。自分自身の関心や問題意識を持って授業に参加してほしい。学修目標は次の3点である。

1. アメリカ文学の概要(作家・作品)を理解する。
2. アメリカ文学史を、歴史的・社会的な文脈の中で意識する。
3. 様々な資料から、アメリカ文学を多角的に考察する視野を学ぶ。

内容

1	イントロダクション
2	植民地文学
3	アメリカ小説の誕生(1)ワシントン・アーヴィング 他
4	アメリカ小説の誕生(2)エドガー・アラン・ポー、ナサニエル・ホーソーン 他
5	アメリカ小説の誕生(3)ハーマン・メルヴィル 他
6	リアリズム文学の形成 マーク・トウェイン、ヘンリー・ジェームズ 他
7	女性作家の活躍 ケイト・ショパン、イーディス・ウォートン 他
8	自然主義文学の時代 セオドア・ドライサー 他
9	モダニズムの文学 ガートルード・スタイン、ウィラ・キャザー 他
10	ロスト・ジェネレーション (1) F.スコット・フィッツジェラルド 他
11	ロスト・ジェネレーション (2) アーネスト・ヘミングウェイ、ウィリアム・フォークナー 他
12	現代のアメリカ文学 (1) トルーマン・カポーティ、ジェローム・D.サリンジャー 他
13	現代のアメリカ文学 (2) カーソン・マッカーラーズ 他
14	現代のアメリカ文学 (3) トニ・モリスン 他
15	まとめ

評価

期末テスト(60%)、授業態度(10%)、提出物(30%)で評価し、60点以上を合格とする。

試験や課題は、日本語で実施する。また、全授業の2/3以上出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【参考書等】授業で適宜紹介する。

科目名	感性文化表現 A (手話)		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

私たちはいろいろな方法で他者とコミュニケーションを取っていますが、聴覚に障害を持つ人たちは聴覚を利用したコミュニケーション手段が使えず、その方法は視覚を利用したものになります。この科目ではそれら視覚的なコミュニケーション手段について学びます。

科目の概要

手話を中心に、それ以外の筆談、読唇、補聴器、てのひら書き、触手話、指点字などさまざまなコミュニケーション手段を体験的に学びます。

学修目標

手話技術に関してはNP0手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語と例文を理解し、自己紹介や日常生活における簡単なやり取りができるようにします。

またそれ以外のコミュニケーションについても、そのものの持つ特徴や利便性を考え、聴覚のみに限定しない、より豊かなコミュニケーション能力を身につけます。

内容

1	あいさつの表現
2	家族の表現
3	時制の表現
4	指文字(ア行~サ行)
5	名前の表現
6	指文字(タ行~ハ行)
7	趣味の表現
8	指文字(マ~ワ行)
9	写像的な表現
10	空間を利用した表現
11	地名の表現
12	自己紹介
13	食べ物に関する表現
14	スポーツに関する表現
15	まとめ

評価

手話による自己紹介形式の実技試験(50%)、学修目標に基づく筆記試験(40%)、通常の授業態度(10%)により評価を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書 実用手話ハンドブック/谷千春監修/新星出版/378.28/J

科目名	感性文化表現 A (手話)		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

私たちはいろいろな方法で他者とコミュニケーションを取っていますが、聴覚に障害を持つ人たちは聴覚を利用したコミュニケーション手段が使えず、その方法は視覚を利用したものになります。この科目ではそれら視覚的なコミュニケーション手段について学びます。

科目の概要

手話を中心に、それ以外の筆談、読唇、補聴器、てのひら書き、触手話、指点字などさまざまなコミュニケーション手段を体験的に学びます。

学修目標

手話技術に関してはNP0手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語と例文を理解し、自己紹介や日常生活における簡単なやり取りができるようにします。

またそれ以外のコミュニケーションについても、そのもの持つ特徴や利便性を考え、聴覚のみに限定しない、より豊かなコミュニケーション能力を身につけます。

内容

1	あいさつの表現
2	家族の表現
3	時制の表現
4	指文字(ア行~サ行)
5	名前の表現
6	指文字(タ行~ハ行)
7	趣味の表現
8	指文字(マ~ワ行)
9	写像的な表現
10	空間を利用した表現
11	地名の表現
12	自己紹介
13	食べ物に関する表現
14	スポーツに関する表現
15	まとめ

評価

手話による自己紹介形式の実技試験(50%)、学修目標に基づく筆記試験(40%)、通常の授業態度(10%)により評価を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書 実用手話ハンドブック/谷千春監修/新星出版/378.28/J

科目名	感性文化表現 B (朗読)		
担当教員名	川野 一字		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

「朗読」とは、作品（ここでは文学作品）の内容を声に出して聞き手に伝える事。声に出す事で、「黙読」とはまた違う生き生きとした世界が広がり、古典文学作品もより身近になる。この科目は、一人一人の声を通して様々な作品をじっくり味わう実践講座である。また「朗読」は、自分にとって最も無理のない発声を基に、「自分の声」を探す道でもある。毎回、朗読を録音し必要に応じ再生して、読み方とともに自分の声を確認してもらうことにしている。「自分の声を見つけることは、自分の可能性を広げ、自分を深く知ること」につながる。この講座を通じて、自らの感性を磨いていただきたい。

内容

1. 「朗読」の基礎を学ぶ。向田邦子『父の詫び状』などの作品
モンゴメリー『赤毛のアン』、浦松佐美太郎『たった一人の山』など
2. 「ことば」による豊かなイメージをつかむ。
中 勘助 『銀の匙』
3. 言葉の美しさを感じる。 古典文学の魅力
樋口一葉『たけくらべ』
清少納言『枕草子』 紫式部『源氏物語』桐壺など
『平家物語』序章など

評価

授業中の読み方。（事前に下読みをきちんとしているかどうか）（40%）
講義の最終週に課題文の朗読を行い、評価する。（60%）
出席日数も考慮する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキストはその都度事前にコピーを配布する。
授業時に、自分用の録音のためカセットやMDなどを用意するのが望ましい。

科目名	ダンスパフォーマンス		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の科目である。ジャンルにとらわれない、楽しむダンスをめざす。

また、コミュニティダンス(地域の人々が健康のために行っているダンス)を広め、指導にあたるインストラクター(ダンスムーブメント(ダンス的運動)インストラクターライセンスの受験資格)を目指す人のための授業内容をおりこむ。

科目の概要

この授業では様々なダンスの特性や文化的背景を理解するとともに、ジャンルにこだわらない実践を通してリズム感や体力向上を目指し、身体を感じ、心から楽しみ、実感を持って自分の感性につなげていくことをねらいとする。

学修目標

1. 「身体を動かすことの楽しさ」を実感する。
2. からだのすみずみまで感じながら踊ることにより、感性を磨き、音楽のフィーリングを感じ取り、自ら工夫できるようにする。
3. ダンスが不得意な人も、リズムを感じて動くことにより、リズム感を養う。からだがかたい人も、動いたことのない動作をすることによって、動かしたことのない関節や筋肉を柔軟にするように心がける。

内容

1) 1 週目 授業内容についてオリエンテーション

毎回

W-up リズムに乗ったエクササイズ

移動でロコモーション(様々なステップ)

その日の作品、部分練習

C-dn ストレッチまたはマッサージ

を行う。

2) 2 週目? 5 週目 リズムエクササイズ

基本の練習、リズムに乗って動きを楽しむ。体力を高める。

3) 6? 9 週目 リズムムーブメント

動きのバリエーションを広げる

4) 10? 13 週目 ダンスムーブメント

フィーリングを感じながら

5) 14? 15 週目 作品として、仕上げ、発表

技術や鑑賞能力を高める。

評価

平常点(授業時の課題に対する意欲、関心、態度、毎回のまとめを含める)80%、作品の発表および鑑賞20%等から、総合的に評価。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜指示する。

科目名	ダンスパフォーマンス		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の科目である。ジャンルにとらわれない、楽しむダンスをめざす。

また、コミュニティダンス(地域の人々が健康のために行っているダンス)を広め、指導にあたるインストラクター(ダンスムーブメント(ダンス的運動)インストラクターライセンスの受験資格)を目指す人のための授業内容をおりこむ。

科目の概要

発展系であるこの授業では様々なダンスの特性や文化的背景を理解し、ジャンルにこだわらない実践を通すと同時に、自ら工夫し、新たな創作につなげることをねらいとする。

学修目標

1. からだのすみずみまで感じながら踊ることにより、感性を磨き、音楽のフィーリングを感じ取り、自ら工夫できるようにする。
2. ダンスが不得意な人も、リズムを感じて動くことにより、リズム感を養う。からだがかたい人も、動いたことのない動作をすることによって、動かしたことのない関節や筋肉を柔軟にするように心がける。
3. ダンスが得意な人も、苦手な人も、工夫や創作に挑戦し、新たな自分の可能性を探る。

内容

1) 1週目 授業内容についてオリエンテーション

毎回

W-up リズムに乗ったエクササイズ

移動でロコモーション(様々なステップ) ここで、工夫のトレーニングも行う。

その日の作品、部分練習

C-dn ストレッチまたはマッサージ

を行う。

2) 2? 3週目 リズムエクササイズ

基本の練習、リズムに乗って動きを楽しむ。体力を高める。

3) 4? 6週目 リズムムーブメント

動きのバリエーションを広げる

4) 7? 9週目 ダンスムーブメント

フィーリングを感じながら

4) 10? 13週目 ダンスムーブメント

創作に挑戦

5) 14? 15週目 作品として、仕上げ、発表

技術や評価・鑑賞能力を高める。

評価

評価 平常点（授業時の課題に対する意欲、関心、態度、毎回のまとめを含める）80%、作品の発表および鑑賞20%等から、総合的に評価。忘れものは減点とする。

見学者は授業内容等（指定用紙）を記入し、毎時提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜指示する。

科目名	演劇論A（基礎）		
担当教員名	藤澤 茜		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人々を魅了する演劇はどのように誕生し、継承されてきたのでしょうか。この問題を解明することは、日本の文化、風土、宗教観、国民性などを理解し、現代の私たちのルーツを探ることにもなります。

日本の伝統芸能の中でも歌舞伎を中心に取り上げて検証します。その理由は次の4点が挙げられます。

- (1)小説や浮世絵、落語等に影響を与えた歌舞伎を通じ、人々が演劇に求めた要素を検証できること。
- (2)神の祭りという宗教的性質があり、信仰と演劇という不可分の問題についても検討できること。
- (3)世界で初めて回り舞台を設置するなど、舞台技術、演出面でも多くの特徴がみられること。
- (4)現代のマスコミ同様社会現象を敏感に反映する姿勢から、大衆演劇の意義を明らかにできること。

科目の概要

能、狂言や西洋演劇、アジアの演劇との比較も行ない歌舞伎の本質を明らかにします。宝塚やミュージカル、アニメーションにも対象を広げ、エンターテインメントとしての演劇のあり方を検証します。

学修目標

- (1)歌舞伎を中心とした日本の芸能、世界の芸能についての基礎知識を学びます。文献調査などのレクチャーを経て、特に興味を持った演劇については各自が検証し、レポートとして提出します。
- (2)浮世絵を通じて歌舞伎の本質を探ります。浮世絵を持参する機会を設け、絵画の造詣も深めます。
- (3)ビデオ観賞を通じて、役者の演技、演出等の細かな部分にも理解を深めます。

内容

文献、脚本研究のほか、ビデオ観賞、絵画資料からの検証をまじえ視覚的に演劇をとらえて学びます。絵画資料については、主に浮世絵を取り上げます。2008年には浮世絵の検証をもとに元禄時代の上方の舞台復元(プロジェクトには藤澤も参加)が行われるなど、浮世絵は資料的な価値が高く歌舞伎研究には不可欠な資料です。

以下のスケジュールで授業を進めます。

ガイダンス・歌舞伎の特色と歴史

歌舞伎の舞台構造を知る～能舞台の模倣時代から現代のコクーン歌舞伎まで

芝居を創る 元禄上方和事復活上演までの軌跡

市川團十郎と江戸の信仰

人形浄瑠璃と歌舞伎 「義経千本桜」の狐忠信

能と歌舞伎舞踊 「道成寺」「土蜘蛛」など

歌舞伎と話芸 「仮名手本忠臣蔵」と落語

歌舞伎と広告 「外郎売」など

浮世絵に見る歌舞伎 歌舞伎役者の人気を知る

歌舞伎の海外公演 パリオペラ座公演・平成中村座ニューヨーク公演

歌舞伎と海外の演劇(1)京劇(中国)・パンソリ(韓国)等アジアの芸能

歌舞伎と海外の演劇(2)シェイクスピアと蜷川幸雄

海外の演劇 「ロミオとジュリエット」・ミュージカル「ウエストサイド物語」

現代の演劇 宝塚「ベルサイユのばら」に見る華麗な舞台

現代のアニメーション 「千と千尋の神隠し」と日本文化

評価

毎時間の授業に関するコメント提出と、学期末にレポート提出を課します。配点の比率は、授業時のコメント30%、レポート70%とし、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし。【参考書】開講後に指示。

授業時には毎回プリントを配布します。

科目名	演劇論B（発展）		
担当教員名	佐藤 里野		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、マスメディアコース表現文化群のうち、選択必修科目である。本科目では、現代を中心としたアメリカ演劇および舞台芸術について、歴史的背景や社会的文脈に位置付けつつ概観する。

ジャンル、規模において多様にひろがるアメリカの舞台芸術の中から、現代社会の諸問題を読み解く視点を与えてくれる作家、作品を取り上げる。

学修目標は以下の3点とする。

1. 演劇という媒体の特徴を理解する。
2. 授業で取り上げたアメリカ演劇（舞台芸術）の概要を、歴史的・文化的諸条件の中で理解する。
3. 様々な資料から、現代社会の中でアメリカ演劇を多角的に考察する視野を学ぶ。

内容

1	Introduction
2	Circus Amok: 「みんな」のためのパフォーマンス
3	"Undiscovered Amerindians": 「批評的な観客性とは」
4	戯曲 Eunene O'Neil 『夜への長い旅路』他
5	戯曲 Tennessee Williams 『欲望という名の電車』他
6	戯曲 Arthur Miller 『るつぼ』他
7	戯曲 Lillian Hellman 『子供の時間』他
8	戯曲 Edward Albee 『動物園物語』他
9	戯曲 David Henry Hwang 『M.バタフライ』
10	Split Britches: フェミニズム演劇のジレンマ
11	Karen Finley: 「身体」とはなにか
12	戯曲 Tony Kushner 『エンジェルズ・イン・アメリカ』
13	Anna Deavere Smith: ドキュメンタリーと演劇
14	戯曲 Terrence McNally 『コーパス・クリスティ』
15	まとめ

評価

期末テスト（60%）、授業態度（10%）、提出物（30%）で評価し、60点以上を合格とする。

試験や課題は、日本語で実施する。また、全授業の2/3以上出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【参考書等】授業で適宜紹介する。

科目名	日本語学（基礎）		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

日本語の面白さを知る！

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。

母国語として特に気づくこともなく使っている日本語を、何で？ どうして？ を大切に言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。

単なる知識の伝授だけでなく、考えるプロセスも訓練しましょう。また、ことばや文化との関わりについて考えながら、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えていきましょう。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。

大学での学び・気づきのきっかけになると嬉しいです。

内容

- 第1回 インストラクション（授業の方法と評価の仕方）
- 第2回 言語とは何？
- 第3回 日本語っていつからはじまったの？
- 第4回 言語とコミュニケーション
- 第5回 音声言語としての日本語（音声記号を書けるようにしよう！）
- 第6回 日本語音声の特徴
- 第7回 日本語方言の音声
- 第8回 音響分析と日本語
- 第9回 アクセントとイントネーション
- 第10回 方言とアクセント
- 第11回 文字の歴史
- 第12回 変体仮名を読む（古今集の恋の歌を読む）
- 第13回 表記のゆれと変化
- 第14回 日本語を考える
- 第15回 フィードバック

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問を含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント） レポート・課題・・・3~8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S（4回以上の欠席は受講放棄とみなします）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	日本語学（発展）		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

日本語の面白さを知る！

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。母国語として特に気づくこともなく使っている日本語を、何で？ どうして？を大切に言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。単なる知識の伝授だけでなく、考えるプロセスも訓練しましょう。また、ことばや文化との関わりについて考えながら、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えていきましょう。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。大学での学び・気づきのきっかけになると嬉しいです。

内容

- 第1回 インストラクション（授業の方法と評価の仕方）
- 第2回 流行語・ことばの変化
- 第3回 正しいことば・間違ったことば
- 第4回 語彙1
- 第5回 語彙2
- 第6回 敬語・待遇表現
- 第7回 ことばのスタイル
- 第8回 ことばを調べる1
- 第9回 ことばを調べる2
- 第10回 ことばを調べる3
- 第11回 ワークセッション1
- 第12回 ワークセッション2
- 第13回 外国語と日本語
- 第14回 日本語を考える
- 第15回 フィードバック

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問を含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント） レポート・課題・・・3~8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D < 60 C < 70 B < 80 A < 90 S（4回以上の欠席は受講放棄とみなします）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	ことばの心的メカニズム A (言語学 基礎)		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

統語論・意味論・形態論・語用論等の言語学の諸分野については「ことばの心的メカニズムC」で、音声学・音韻論の分野については「ことばの心的メカニズムB・D」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となります。英語の教職課程を履修している学生はできる限り4科目すべてを履修してください。

対象言語としては主に英語を取り上げながら、心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方を学びます。

心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方が理解できる。

内容

1	言語学のめざすもの
2	言語とは何か？
3	(人間)言語の特性
4	人間言語と動物言語
5	言語の習得<心理言語学(1)>: 心理言語学のめざすもの
6	言語の習得<心理言語学(2)>: 言語習得の特徴
7	言語の習得<心理言語学(3)>: 母語の習得(英語の自然発話資料を中心に)
8	言語の習得<心理言語学(4)>: 母語の習得(英語の実験発話資料を中心に)
9	言語の習得<心理言語学(5)>: 母語の習得(形態論・統語論・意味論の各モジュールの習得)
10	言語の多様性<社会言語学(1)>: 社会言語学のめざすもの
11	言語の多様性<社会言語学(2)>: 使用地域による違い
12	言語の多様性<社会言語学(3)>: 使用者の性別による違い
13	言語の多様性<社会言語学(4)>: 使用者の年齢・属する社会による違い
14	言語と脳<神経言語学>: 人間は脳のどの部分を使ってことばを発し、理解するのか
15	まとめ

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とします。合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

- (1) 期末試験: 70%
- (2) 小テスト(毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います): 30%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】プリントを配布します。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』, 郡司隆男・西垣内泰介編, 研究社, 2800円. 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

『言語の獲得と喪失』，橋田浩一他著，岩波書店，3400円．

科目名	ことばの心的メカニズムB（音声学 基礎）		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語） / マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

マスメディアコース表現文化群Iの専門科目で、選択必修科目。なお、「ことばの心的メカニズムD(音声学 発展)」では、この科目よりも時間の長い発音（音連続・リズム・イントネーション）に注目して、英語での朗読やナレーションへと応用します。「ことばの心的メカニズムA・C」と「B（音声学 基礎）・D（音声学 発展）」を合わせれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことができるので、英語の教職課程を履修している学生はできる限り4科目すべての履修をお勧めします。

母語の個々の音（母音・子音・半母音）の発音は無意識に習得している知識ですが、発音に障がいのある人の支援をする時や、外国語の学習・教育において、また、朗読など声を専門的に使う活動においては、音声学の知識が役立ちます。なじみ深い外国語である英語を中心として、日本語との比較により発音のしくみを客観的に分析し、個々の音の特徴を理解します。

英語と日本語の個々の音の発音をしているときの口の中の各部分の動きを考えて、図などで違いを説明できるようにし、発音記号も読み書きできるようにします。さらに、必要に応じて、自らの英語の発音を改善し、英語の聞き取り力も向上させます。

内容

日本人にとって混同しやすい英語の発音（rとlなど）の聞き分けができ、また、自分でも発音し分けられるようになるには、ネイティブスピーカーの発音をただ単に聞き流すだけでは不十分な場合が多いのです。まず口の各部分の動きなどを頭で理解してから、自分で聞き分けができなくても発音の区別をつけて練習していくと、だんだんと聞き分けられるようになります。発音分析には頭の体操の要素もありますが、実際に声を出して実技に取り組んでください。

1	I. 現代英語の標準発音 II. 音声器官と音の分類 IX. 綴り字と発音
2	III. 母音-短母音 その1（母音の3つの特徴とKIT, DRESS, FOOT）
3	III. 母音-短母音 その2（TRAP, LOTの米音, STRUTの3母音間の区別）
4	III. 母音-長母音 その1（FLEECE, GOOSEと短母音との音色の区別）
5	III. 母音-長母音 その2（PALM, THOUGHT, NURSE, BATHの英米音, CLOTHの英米音）
6	III. 母音-二重母音（FACE, PRICE, CHOICE, MOUTH, GOATなど）
7	III. 母音-二重母音（rの二重母音）、三重母音、弱母音
8	IV. 子音-閉鎖音（帯気とsの影響）
9	IV. 子音-摩擦音 その1（唇歯音と歯音と歯茎音）
10	IV. 子音-摩擦音 その2（硬口蓋歯茎音と声門音）
11	IV. 子音-破擦音と鼻音
12	IV. 子音-流音と半母音
13	発音記号に親しむ（1） 英文の発音表記練習
14	発音記号に親しむ（2） 英文朗読への応用

評価

期末試験（聞き分けテストや発音記号の理解を含む）を60点、平常点（課題提出、小テスト等）を40点として、合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 竹林滋 / 斎藤弘子著（2008）、新装版『英語音声学入門』（音声CD付）、大修館書店。

[参考図書] 授業で適宜紹介します。

科目名	ことばの心的メカニズムC (言語学 発展)		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

言語学の関連分野については「ことばの心的メカニズムA」で、音声学・音韻論の分野については「ことばの心的メカニズムB・D」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となります。英語の教職課程を履修している学生は4科目すべてを履修してください。

英語を科学的に分析・研究する対象として扱い、英語学の中核をなす形態論(英語の単語の構造)、統語論(英語の文の構造)、意味論(意味の構造)を中心に、さらに語用論などの分野も含めて、英語学の基本的な概念を学びます。適宜、大多数の学生の母語である日本語と比較することにより英語という言語の持つ特徴を浮き彫りにできるようにしたいと考えています。

(i)形態論、統語論、意味論、語用論の基本的な概念をまなぶ、(ii)言語を学習の対象ではなく科学的な分析の対象として捉えることができる

内容

以下の各トピックに関して基本的な概念・考え方等の説明を講義形式で行います。理解を深めるための演習や課題の提出、毎授業の最初に前回の授業の復習小テストがあります。

1	言語を科学的な分析の対象として捉える方法
2	形態論(1): 形態論のめざすもの
3	形態論(2): 語の内部構造、形態素
4	形態論(3): 形態素分析
5	形態論(4): 語形成規則(偶発的な語形成規則)
6	形態論(5): 語形成規則(少し規則的な語形成規則)
7	形態論(6): 語形成規則(規則的な語形成規則)
8	統語論(1): 統語論のめざすもの
9	統語論(2): 句・文の内部構造
10	統語論(3): 句構造規則
11	統語論(4): 変形規則
12	意味論(1): 意味論のめざすもの
13	意味論(2): 語や文の意味の記述
14	語用論: 言語はどのように使用されるのか
15	まとめ

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とします。合格点に満たなかった場合は、再試験を実施します。

(1) 期末試験: 70%

(2) 小テスト(毎回授業のはじめに前回授業の復習テストをします): 30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布します。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

『文法』，益岡隆志他著，岩波書店，3400円． 801.08/1/5

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

科目名	ことばの心的メカニズムD (音声学 発展)		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース表現文化群Iの専門科目で、選択必修科目。この科目では、「ことばの心的メカニズムB(音声学基礎)」で身に付けた、英語の個々の音(母音・子音・半母音)に関する知識を、長い朗読やナレーション活動に発展させます。「ことばの心的メカニズムA・C」と「B(音声学基礎)・D(音声学発展)」を合わせれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことができるので、英語の教職課程を履修している学生はできる限り4科目すべての履修をお勧めします。

一般に、幼い子どもが言語を習得する際は、個々の音の正確な発音よりも、複数の音にわたって起こるリズムとイントネーション(韻律)の方を先に習得するといえます。しかし、外国語として英語を学ぶ者が、そのイントネーションを自然なものに近付けるには、いきなり勘にたよって「リズムよく真似」するよりは、英語のリズム・イントネーションの構造・体系・法則性をある程度頭で理解したうえで練習した方が効率がよいので、その手順で練習します。

英語のスク립トの内容をチキンと理解していないと、機械的な音読にしかありませんから、まずテキストの英文ナレーションの意味をその和訳で確認します。次に、個々の音が連続した時に起こる音変化(単語間のリエゾン、音の脱落・同化・融合)の現象を、教科書のお手本ナレーション音声の中で観察します。そして、句・節・文がその文脈の中でどのような音の強弱・高低の変化を見せているのかを、強調すべき情報と、弱く低く飛ばして発音すべき情報とに分けて音読します。

内容

テキストの英語は、6種類のナレーションが合計14ユニットに分かれて収録されています。そのすべてをこなすというよりは、その中の4ないし5種類程度を選んでよく練習し、クラス全体でナレーションCD一枚作品を共同制作できるようにする予定です。以下は、6種類を選んだ場合の、やや練習時間に余裕のない計画ですが、学生の反応によって変える可能性があります。

1	Units 1 & 2 A Disappearing World
2	英語の音変化(単語間のリエゾン、音の脱落・同化・融合)、練習
3	Units 3 & 4 The Missing Snows of Kilimanjaro
4	英語の音節と音の強弱・長短・高低について、Units 1?4より録音
5	Units 5 & 6 Cambodia Animal Rescue
6	複合語アクセントと句アクセント、練習
7	作品発表(1) Units 1?6より映像に合わせて朗読・録音
8	Units 7 & 8 Orangutan Language
9	イントネーションの構造、練習
10	Units 9?11 Cupid the Dolphin
11	音調群の核がどの語の中になるかについて、Units 7?11より録音
12	Unit 12?14 Saving the Pandas
13	共有情報・旧情報・補足のイントネーション、練習
14	総復習
15	作品発表(2) Units 7?14より映像に合わせて朗読・録音

評価

第7週の作品を30点、第15週の作品を30点、それ以外の録音物の合計点を40点として、合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]山科美和子/横山三鶴/沖野泰子著（2011）、_Messages from the Globe_

[ナショナルジオグラフィックDVDで楽しく学ぶ基礎英語]、センゲージラーニング。

[参考図書] 竹林滋 / 斎藤弘子著（2008）、新装版『英語音声学入門』（音声CD付）、大修館書店。（「ことばの心的メカニズムB（音声学 基礎）」では教科書として使用している本です。）

科目名	ダンスパフォーマンス（基礎）		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の科目である。ジャンルにとらわれない、楽しむダンスをめざす。

また、コミュニティダンス（地域の人々が健康のために行っているダンス）を広め、指導にあたるインストラクター（ダンスムーブメント（ダンス的運動）インストラクターライセンスの受験資格）を目指す人のための授業内容をおりこむ。

科目の概要

この授業では様々なダンスの特性や文化的背景を理解するとともに、ジャンルにこだわらない実践を通してリズム感や体力向上を目指し、身体を感じ、心から楽しみ、実感を持って自分の感性につなげていくことをねらいとする。

学修目標

1. 「身体を動かすことの楽しさ」を実感する。
2. からだのすみずみまで感じながら踊ることにより、感性を磨き、音楽のフィーリングを感じ取り、自ら工夫できるようにする。
3. ダンスが不得意な人も、リズムを感じて動くことにより、リズム感を養う。からだがかたい人も、動いたことのない動作をすることによって、動かしたことのない関節や筋肉を柔軟にするように心がける。

内容

1) 1 週目 授業内容についてオリエンテーション

毎回

W-up リズムに乗ったエクササイズ

移動でロコモーション（様々なステップ）

その日の作品、部分練習

C-dn ストレッチまたはマッサージ

を行う。

2) 2 週目? 5 週目 リズムエクササイズ

基本の練習、リズムに乗って動きを楽しむ。体力を高める。

3) 6? 9 週目 リズムムーブメント

動きのバリエーションを広げる

4) 10? 13 週目 ダンスムーブメント

フィーリングを感じながら

5) 14? 15 週目 作品として、仕上げ、発表

技術や鑑賞能力を高める。

評価

出席状況（授業時の課題に対する意欲、関心、態度、毎回のまとめを含める）80%、作品の発表および鑑賞20%等から、総合的に評価。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜指示する。

科目名	ダンスパフォーマンス（発展）		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の科目である。ジャンルにとらわれない、楽しむダンスをめざす。

また、コミュニティダンス（地域の人々が健康のために行っているダンス）を広め、指導にあたるインストラクター（ダンスムーブメント（ダンス的運動）インストラクターライセンスの受験資格）を目指す人のための授業内容をおりこむ。

科目の概要

発展系であるこの授業では様々なダンスの特性や文化的背景を理解し、ジャンルにこだわらない実践を通すと同時に、自ら工夫し、新たな創作につなげることをねらいとする。

学修目標

1. からだのすみずみまで感じながら踊ることにより、感性を磨き、音楽のフィーリングを感じ取り、自ら工夫できるようにする。
2. ダンスが不得意な人も、リズムを感じて動くことにより、リズム感を養う。からだがかたい人も、動いたことのない動作をすることによって、動かしたことのない関節や筋肉を柔軟にするように心がける。
3. ダンスが得意な人も、苦手な人も、工夫や創作に挑戦し、新たな自分の可能性を探る。

内容

1) 1 週目 授業内容についてオリエンテーション

毎回

W-up リズムに乗ったエクササイズ

移動でロコモーション（様々なステップ） ここで、工夫のトレーニングも行う。

その日の作品、部分練習

C-dn ストレッチまたはマッサージ

を行う。

2) 2? 3 週目 リズムエクササイズ

基本の練習、リズムに乗って動きを楽しむ。体力を高める。

3) 4? 6 週目 リズムムーブメント

動きのバリエーションを広げる

4) 7? 9 週目 ダンスムーブメント

フィーリングを感じながら

4) 10? 13 週目 ダンスムーブメント

創作に挑戦

5) 14? 15 週目 作品として、仕上げ、発表

技術や評価・鑑賞能力を高める。

評価

評価 出席状況（授業時の課題に対する意欲、関心、態度、毎回のまとめを含める）80%、作品の発表および鑑賞20%等から、総合的に評価。忘れものは減点とする。

見学者は授業内容等（指定用紙）を記入し、毎時提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜指示する。

科目名	児童文学論B（日本文学 発展）		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

マスメディアコース・表現文化群 に属する、学科専門の選択科目です。

児童文学とよばれる作品は、昔話などの口承文芸と、歴史的にも、また作品の構造としても深い関わりを持っています。この授業では、まず口承文芸の話形と機能について理解したうえで、それが児童文学作品とどう関わるかについて考察し、児童文学とは何かをあわせて考えます。関連した昔話などの口承文芸や児童文学作品、参考文献を授業時間以外に読む意欲を持って受講してください。

口承文芸に関する基礎知識を習得し、児童文学と口承文芸の関係を理解することが学修の目標です。

内容

- （ 1 ）児童文学と口承文芸
- （ 2 ）児童文学の定義
- （ 3 ）お伽噺・童話・昔話
- （ 4 ）柳田国男の昔話研究
- （ 5 ）伝承の構造と話型
- （ 6 ）異界訪問譚
- （ 7 ）異類婚姻譚
- （ 8 ）継子いじめ譚
- （ 9 ）昔話「桃太郎」の変容
- （10）日本神話と教科書
- （11）異形のモノと子ども
- （12）動物・怪獣・妖怪
- （13）児童文学と民俗的想像力
- （14）児童文学とアニメ
- （15）まとめ

講義の内容・順序は必要に応じて変更することがあります。

評価

期末レポート7割、授業時の小レポートや提出物など3割の配分で評価します。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は指定しません。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。関連した昔話などの口承文芸や児童文学作品、参考文献を授業時間以外に積極的に読むようにしてください。

科目名	児童文学論C（欧米文学 基礎）		
担当教員名	佐藤 里野		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、科目分類マスメディアコース表現文化群 中の選択科目であり、現代の英語圏児童文学を、歴史的、社会的背景と関連付けつつ概観する。

授業では、アメリカ及びイギリスを中心とした児童文学を、年代順に扱う。主要な作家・作品の紹介だけでなく、歴史的、社会的な位置付け、及び現代社会における受容のあり方にいたるまで、多角的に考察する。

学修目標は以下の3点である。

1. 英語圏の児童文学史の概要（作家・作品）を理解する。
2. 歴史的・社会的諸条件における児童文学の位置付けを理解する。
3. さまざまな資料から、児童文学を多角的に考察する視野を学ぶ。

内容

1	イントロダクション
2	19世紀イギリス ルイス・キャロル "Alice's Adventures in Wonderland" 他
3	19世紀アメリカ(1) ルイザ・メイ・オルコット "Little Women" 他
4	19世紀アメリカ(2) マーク・トウェイン "The Adventures of Tom Sawyer" 他
5	20世紀イギリス(1) ビアトリクス・ポター "The Tale of Peter Rabbit" 他
6	20世紀イギリス(2) J.R.R.トールキン "The Hobbit; or, There and Back Again" 他
7	20世紀アメリカ(1) ライマン・フランク・ボーム "The Wonderful Wizard of Oz" 他
8	20世紀アメリカ(2) フランシス・ホジソン・パーネット "The Secret Garden" 他
9	20世紀アメリカ(3) ローラ・インガルス・ワイルダー "Little House on the Praire" 他
10	20世紀イギリス(3) C.S.ルイス "The Lion, the Witch and the Wardrobe"他
11	20世紀イギリス(4) メアリー・ノートン "The Borrowers" 他
12	20世紀イギリス(5) フィリパ・ピアス "Tom's Midnight Garden" 他
13	20世紀アメリカ (4) E.B.ホワイト "Charlotte's Web" 他
14	20世紀アメリカ (5) モーリス・センダック "Where the Wild Things Are" 他
15	まとめ

評価

期末テスト(60%)、授業態度(10%)、提出物(30%)で評価し、60点以上を合格とする。

試験や課題は、日本語で実施する。また、全授業の2/3以上出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【参考書】桂宿子・牟田おりえ 編著 『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房、2004年
その他、授業で適宜紹介する。

科目名	インターンシップ		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターンシップとは、学生が企業等において行う実習・研修という形で就業体験をする制度である。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

多くの学生には、自らの就職活動にこのインターンシップを取り入れ、職業選択や将来設計について考える機会ととらえて積極的に参加してほしい。

内容

1. 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを行う。学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

2. 実施手順

ガイダンス：5月上旬に実施されるガイダンスで詳細説明を行う。参加希望者は必ず出席すること。

実施：夏季休暇期間中（前期）、または春季休暇期間中（後期）を中心に約2週間（実質10日、実働60時間以上）研修を行う。なお、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員または担任教員に事前に相談すること。

申込：キャリアセンターが受け入れ先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受け入れ先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出する。

事前指導：キャリアセンターがビジネスマナーなどの事前指導を行う。

担当教員：2年生はクラス担当教員、3・4年生はゼミ担当教員が期間中に訪問し、巡回指導を行う。

3. 実施例（2010年度）

新座市役所、志木市役所、朝霞市役所、荒川区役所、あさ出版、NHK出版、オンワード樫山、ケイ・テクノ、ザ・ライトスタッフオフィス、東急アド・コミュニケーションズ、トップシーン、蓼科情報、埼玉新聞社、丸正飯塚、リコージャパン

評価

学生：実習・研修の成果をレポートにまとめる。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

受け入れ先：受け入れ先の担当責任者から実習内容の評価を記した「評価表」を提出してもらう。

巡回指導：実施期間中に教員が受け入れ先を訪問する巡回指導を行い、実施状況を確認する。

評価は学生のレポート（40点）、受け入れ先評価（40点）、教員による巡回指導の状況確認（20点）の計100点で総合的に判断して行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	インターンシップ		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターンシップとは、学生が企業等において行う実習・研修という形で就業体験をする制度である。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

多くの学生には、自らの就職活動にこのインターンシップを取り入れ、職業選択や将来設計について考える機会ととらえて積極的に参加してほしい。

内容

1. 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを行う。学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

2. 実施手順

ガイダンス：5月上旬に実施されるガイダンスで詳細説明を行う。参加希望者は必ず出席すること。

実施：夏季休暇期間中（前期）、または春季休暇期間中（後期）を中心に約2週間（実質10日、実働60時間以上）研修を行う。なお、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員または担任教員に事前に相談すること。

申込：キャリアセンターが受け入れ先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受け入れ先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出する。

事前指導：キャリアセンターがビジネスマナーなどの事前指導を行う。

担当教員：2年生はクラス担当教員、3・4年生はゼミ担当教員が期間中に訪問し、巡回指導を行う。

3. 実施例（2010年度）

新座市役所、志木市役所、朝霞市役所、荒川区役所、あさ出版、NHK出版、オンワード樫山、ケイ・テクノ、ザ・ライトスタッフオフィス、東急アド・コミュニケーションズ、トップシーン、蓼科情報、埼玉新聞社、丸正飯塚、リコージャパン

評価

学生：実習・研修の成果をレポートにまとめる。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

受け入れ先：受け入れ先の担当責任者から実習内容の評価を記した「評価表」を提出してもらう。

巡回指導：実施期間中に教員が受け入れ先を訪問する巡回指導を行い、実施状況を確認する。

評価は学生のレポート（40点）、受け入れ先評価（40点）、教員による巡回指導の状況確認（20点）の計100点で総合的に判断して行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	角田 真二、亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するために、キャリアサポート では就職活動に関わる具体的な基礎力向上を目指した授業を行う。就職活動においてSPIや一般常識は重要な第一歩であり、それをクリアすることは必要条件となる。こうした基礎知識を、解説を含めてわかりやすく学習し、基礎力向上につなげる。就職活動に必要な学習であるので、多くの学生が受講することが望まれる。

内容

1. SPI概要—SPIとは、SPIの考え方、使われ方など

2. 非言語分野の学習

年齢算、仕事算、旅人算、流水算

グラフ・領域、資料解釈、空間把握

順列組み合わせ、確率、n進法

運動力学など

3. 言語分野の学習

同意語、反対語、ことわざ・慣用句

包含関係、行為関係、原料関係、用途関係

複数の意味、長文問題など

各ステージで言語、非言語の両分野を事例にもとづき解説する。

評価

受講態度(50点)、試験(50点)をもとに総合評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	亀田 温子、泉 直子、角田 真二、松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

女性の人生をより豊かなものにするためには、職業を持つことが欠かせない。さまざまな分野で活躍する職業人の実例に触れながら、仕事をする事で何がえられるのか、自分の興味や能力を仕事で活かすにはどうしたらよいか考える。これによって、大学卒業後、スムーズに職業生活をスタートさせるための基盤をつくる。

「仕事が女性の人生をより豊かにする」ということを、3回のワークショップと10名の職業人の実例を通じて認識する。まず、1回目のワークショップでキャリア形成の基本となる考え方(興味、能力、価値観にそった仕事選びが充実した職業人生につながる)と各自が抱いている仕事に対するイメージを確認する。次いで、5名の職業人からそれぞれの仕事を持つ魅力について学び、2回目のワークショップで各自の興味や能力が活かせる仕事について考える。さらに、5名の職業人から自分にとって仕事とは何か、職業観・仕事観を学び、3回目のワークショップで職業生活からえられるものは何か考察する。そして最後に、本授業を通じて各自の仕事に対するイメージがどう変化したか確認する。

内容

1	ガイダンス(大卒女子の労働の実情)
2	ワークショップ1(仕事に対する自分のイメージを認識する)
3	野本範子氏(リコージャパン(株))「女性経営職の楽しさと永年勤続の魅力」
4	遣田重彦氏(LVMH)「Employabilityとは？」
5	畠山一郎氏ほか(広告社)「コミュニケーションをデザインする仕事」
6	好本 恵氏(フリーアナウンサー)「アナウンサーと放送～その仕事の醍醐味」
7	りそな銀行員 銀行業務と女性の働き方
8	ワークショップ2(自分の能力や興味について考える)
9	菊田あや子氏(フリーアナウンサー)「仕事で人生を切り開く楽しさと充実感教えます」
10	石渡弘行氏(アイルピーソリューションズ)「『武器』としてのコミュニケーションスキル」
11	富士通社員 SEなど情報系の仕事
12	大西由華氏(ヒューマンスキル講師)「コミュニケーション力は一生物のスキル」
13	森 美香氏(NPOエンジェル・ケア・ハート)「起業をとおして自己表現」
14	ワークショップ3(仕事をする事で何がえられるのか)
15	まとめ(総括討論)

評価

講師10名ごとに提出するチェックリスト(60点)、ワークショップ3回の課題(30点)、および最終回の全体レポート(10点)の計100点で総合評価する。合わせて60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に随時紹介する。

科目名	演習		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この演習は、ともテレビについて研究するものである。つまり、各ゼミ生はテレビが抱える様々な課題に対して自分なりの問題意識をもってテレビに向き合う=テレビを見ることから始まる。テレビが伝えるニュースや各種番組の視聴を通して、日本が、世界が、或いは地域社会が抱える様々な問題についても時事性意識をもって考える。

テレビはインターネットに追い上げられながらも、それが持つ影響力は依然として強い。そんな中、人々が真に必要なとする社会装置としての地位を維持し続けているのかは何故か。社会装置としてのテレビは「快適なもの」として受け入れられているか。テレビが提供する情報や番組は視聴者の疑問や批判にきちんと応えているか。テレビの娯楽番組は本当に人々に笑いや楽しみ、癒しをもたらしているか。テレビは豊かな生活に役立っているか。例えば、このような問題意識をもって日々のテレビを見ることから始まる。

各ゼミ生はテレビを通して感知した関心分野からそれぞれ研究テーマを選び出し、自分なりの「テレビ論」「ジャーナリズム論」等にまとめ上げ、最終学年での卒論執筆/制作につなげていく。

ただし、卒業論文、卒業制作は必ずしもテレビや放送、ジャーナリズムに直結したテーマでなくても可とする。テレビ(報道)を通して、世界や日本が抱える様々な問題に関心を持ち、それらを研究テーマとして取り組むことはむしろ歓迎するものである。

内容

とにかくテレビを見る。ただ漫然と見るのではなく、考えながら見る、見た後で考えることが重要である。「もし、自分が番組を作るディレクターだったら」「もし、現場に派遣されたレポーターだったら」どうする!、という仮説を立ててテレビを見る、そして考える、ということである。

22年度は中国残留孤児の問題をテーマにした番組を視聴して、「家族/親子のありよう」を考えたほか、現代で言うところの「やらせ」をテレビ草創期の番組はどのように扱っていたか、残虐な映像を取り込んだ番組、例えば戦争報道番組と放送番組基準との関係等について研究した。

23年度はゼミ生の関心分野や卒業後の希望進路等を踏まえて考える。

評価

各ゼミ生の取り組み、意見発表、レポートを総合判断して評価する。

取り組み+意見発表=60点、レポート=40点 計100点 60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書はない。参考図書は授業中に随時紹介する。

科目名	演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Hクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 ユニバーサルデザイン、ヒューマンインタフェースの分野について学ぶ。

科目の概要 コンピュータなどの道具よりも道具を使う人間を中心に考え、人間に優しい道具のデザインを考える。よりわかりやすく言うと、年齢、性別、障害の有無などに関わらず、日常の全ての道具を、使う人間にとって使いやすく、わかりやすい、学びやすい道具のデザインを考える。

学修目標 遊園地にいるかのように、人間が思わず使いたくなる楽しい道具のデザインにすることを狙う。単なる思い付きではなく、人間の心理過程の考察に基づき、道具のデザインについて提案ができることを狙う。

内容

1. 研究

各自が選択した研究テーマについて考察を進め、論文や試作品を作成する。

世の中には、使いにくい道具、わかりにくい表現があふれている。自分の興味のある道具や表現などを一つ選択し、そのテーマについて、人間の心理過程の考察を行ない、道具のデザインについて考える。学習、思考といった高次認知機能だけでなく、視聴覚機能、運動機能、まで含めて総合的な考察を行なう。

例えば、高齢者が情報機器の使い方を学習する場合に生じる問題、がある。

2. コミュニケーション

自分一人で自分の研究テーマについて考察を進めるだけでなく、他の学生の研究テーマの発表を聞いて、積極的にコメント、質問をして欲しい。それによって、他の学生の研究を促進させる、自分の研究を別の角度から考察するきっかけとして欲しい。

評価

提出してもらった論文で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に指示

科目名	演習		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

2年次に専門科目の「ことばの心的メカニズムA(前期)」を履修していない学生は、3年次に履修してください。この演習を通して各自興味のあるテーマを見つけ、4年次の卒業研究につながるようにします。

言語学の研究領域のうち、形態論、統語論、意味論、語用論を中心に基本的な文献を読むことに加え、資料を集め、整理・分析するといった作業を通して、ことばを科学的に分析する力を養います。

(i)形態論、統語論、意味論、語用論の基本的知識を身につける、(ii)資料を自分で集め、整理、分析できる

内容

基本文献の内容をレポーターが報告し、全員で問題点を検討するという形式で演習を行います。また、コーパスを使った資料の検索の方法、インフォーマントチェックの方法を実際の作業を通して身につけることも行いたいと思います。

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とします。

- (1) 期末レポート： 50%
- (2) 授業内での発表： 50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業内で指示します。

科目名	演習		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Jクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この演習では、日本語の変化やバリエーションなど言語研究を通しての専門的知識獲得と、社会に出てから必要とされる「自ら問題を発見し、解決する能力」を身につけることを目標とします。

方言調査旅行研修や新語流行語の収集分析など実際にフィールドワークを行いながら自ら発信できるオリジナルコンテンツ(就活での自己PRの内容)を作ります。Mind-Map思考法、プレゼンテーションなどPCを用いた技能も併せて身につけ、言語化、可視化の訓練を行います。自らの変化を希望しそれに向かって努力する学生をサポートし育てます。体験重視型自己成長促進ゼミを目指します。ゴールは「人としての素敵さの獲得!」です。

内容

- 第1回 自己分析と現状分析
- 第2回 言語研究とは何か
- 第3回 プレゼンテーション、レジメ、論文作成法
- 第4回 自己分析の実際
- 第5回 プレゼンテーション1
- 第6回 プレゼンテーション2
- 第7回 フィールドワーク方法論1
- 第8回 フィールドワーク計画
- 第9回 ライフビジョンとキャリアビジョン
- 第10回 調査データ分析法
- 第11回 目標設定と達成のための方法
- 第12回 研究計画作成1
- 第13回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成1
- 第14回 研究計画作成2
- 第15回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成2

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問を含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント(提出【基礎点】...1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 90(4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	演習		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Kクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は脳と脳内外コミュニケーションの演習です。呼吸することから始まり食事、運動、考える、話す、芸術活動に至まで私たちは「脳」に依存しています。そんな「脳」の働きは私たちの感情や心理とどのような関係にあるのでしょうか。脳の発達の側面から、多岐にわたる活動までをゼミでは演習します。

内容

前半は脳の構造と機能、心理についての演習です。後半は脳の役割を学びます。

1. 導入：脳科学と心理学はどこが違うのか
2. 脳はどう進化したか
3. 子供の脳はどう発達するか
4. 大人の脳と老人の脳
5. 感情と脳の関係
6. 理解と脳の関係
7. 判断と脳の関係
8. 前半のまとめ(脳科学を中心に)
9. 脳と童話(脳と絵本、童話創作)
10. 脳と広告(注意)
11. 脳と嘘(錯覚、錯視、虚偽)
12. 脳と音楽(音を音楽にする脳)
13. 脳と絵画(脳が彩色する方法)
14. 脳と運動、社会、数
15. まとめ

評価

各テーマの理解度。

テーマに沿った本の要約レポート

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書：『脳のしくみ』(新星出版)、最初の授業で配布します。

科目名	演習		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース専門必修科目。

言語音声やその習得・パーソナルコミュニケーションに関するについて自分なりの疑問・問題を発見し、仮説をたて、事実を観察したり実験を行ったりし、結論を出し、それを文章で表現することを通して、自分で思考する練習をする。

研究日誌を付ける習慣をつくる。

内容

もし言語音声に関連する科目である「ことばの心的メカニズムB, D」をまだ履修していなければ、演習Iと並行して履修してほしい。(今年度は、前期科目「ことばの心的メカニズムB」において、昨年度までの後期科目「ことばの心的メカニズムD」に近い内容を扱うので、ご注意のこと。)

本科目は、演習IIと合わせて4年次の卒業研究へとつなげられるようにしたい。

【3年次前期】： 紙のノート(ルースリーフでないほうが望ましい)でもパソコンのファイルのプリントアウトでも良いので、ゼミ研究日誌をつける。このようなノートは、就職活動でゼミでは何をしているかと聞かれたときに役立つであろう。ゼミ担任と関心が合わない場合は、研究日誌は自分の関心に沿ったことだけを書いてもよろしい。

これまでの演習Iでは英語の絵本で朗読CDがついているものを使って、英語の学習を兼ねて朗読の練習をした。また、TOEICの問題集にもゼミの時間を割いた。就職活動を前に、基礎的な学力の養成にも力を入れたいものである。

なお、設楽ゼミではこれまで懇親会や旅行を催して、協力関係を育てている。

【3年次夏休み】： 次年度の卒業研究のための実験・調査を行うことが望ましい。最低限でも、シラバスで「演習II」の内容を参照のこと。

評価

研究日誌を50点、授業中に確かめるゼミへの積極的な参加度を50点として、合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教材】プリントの予定。

【推薦書】Michael Sandel著、_Justice: What's the Right Thing to Do?_, Penguin Books。(別売り著者朗読によるaudiobookあり)

科目名	演習		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

優れた小説が面白いのはなぜでしょう。小説は人間を問題にします。ですから、小説を読む面白さとは、人生について、人間についての面白さです。わたしたちは一度の人生しか歩めません。そこでの経験は限られています。小説を読めば、自分以外の、まとまりのある個別的な人生を経験することができます。小説の中の人物の追体験をすることで、彼らと感情を共有し、人間についての知識を蓄え、彼らと同じように喜んだり、哀しんだりしながら、その完結した物語に感動するのです。虚構の世界での経験ではありますが、これが現実のわれわれに影響を与えないわけがありません。一冊の小説がその人の一生を決定づけることだって珍しくはありません。

小説家は社会の制約や既成の道徳にとらわれない、新しい人間像を示そうとします。常に人間の自由、解放を目指すからです。ですから小説は人生の新しい経験をわたしたちに与えてくれます。わたしたちの現実生活の中の不純物を取り除いたかたちで、そのエッセンスだけをわかりやすいかたちで与えてくれます。ところでこうした新しい人間像を示すには、人物造型に新しい描き方、新しい方法が必要になります。作家はこの新しい方法を見つけ出すことに精魂を傾けます。新しい人物像に新しい描き方がぴったり合ったときは、そこに調和のとれた美的世界が出現し、わたしたちは知的充足感とともに美的快感に酔うことができるのです。こうした小説の機能をイギリス小説で検討します。

内容

1. 19世紀以降のイギリス小説の流れを俯瞰します。
2. イギリス文学には優れた女流作家が多いが、男性原理の支配する社会の中で、家庭内を唯一の自己表現の場としていた女性たちが、いかにして自己に目覚め、魂の自由をもとめ、ついには自己実現の達成に至るのかを、オースティン、ブロンテ姉妹、ジョージ・エリオット等で検証します。
3. 20世紀のE・M・フォースター、D・H・ロレンス、ヴァージニア・ウルフ等とモダニズムの関係をとらえつつ、これらの作家によっていかなる新しい人間像が提示されているのかを考えます。
4. これらの作家を中心にしてその代表作を個別に取り上げ、作家の伝記的事実、作品鑑賞、評価の面から皆で論じ合います。この過程を通して卒業研究へと対象を絞り込むようにします。
5. 論文の書き方については、(1)そもそも論文とはどんなものが、(2)なぜ書くのか、(3)テーマはどうして選ぶのか、(4)作品をどう読むのか、(5)参考資料はどのように集め、利用するのか、(6)論文をどのような手順と形式で書くのか、などの観点から扱います。

評価

以下の割合で点数化し、60点以上を合格とします。

レポート提出：40%、発表：40%、授業への参加状況：20%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要に応じてプリントを配布します。参考図書は授業時間に随時指示します。

科目名	演習		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この授業は、社会情報学部コミュニケーション学科マスメディアコースの演習である。

「身体表現」を中心に「からだ」「こころ」「スポーツ」「健康」「表現」「生活」「身体活動」など様々なキーワードをもとに、「ダンス」から広い意味での「身体表現」までアプローチして行く。

科目の概要

直接身体活動を行ったり、DVDや舞台鑑賞をしたり、関連書籍を読み議論し合い、感性を養って行く。

学修目標

- 1) 卒業研究のための「素材」「種」を見つける
- 2) そのために、様々なアプローチを試みる
- 3) 卒業後の成長も見据え、一歩でも二歩でも今よりステップアップした女性を目指し、そのために何をすべきか、自ら考え、自己をプロデュースする能力を育てて行く。

内容

- 1) オリエンテーション(自己紹介、面談等)
- 2) 様々なキーワードをもとに、自らの卒業論文にすべきテーマを探す
- 3) 提示された本の中から、最も他のメンバーに紹介したい項目を提示し、その理由を説明する。
- 4) それをもとにゼミのメンバーで議論する。新しい考え方や、他者の考え方(場合によっては相容れないこともあること)を受け入れつつ、取捨選択できるようにする。
- 5) 様々なジャンルのダンスに挑戦
- 6) 桐華祭などの発表場面における、身体表現活動の発表を企画段階からプロデュースし、必要な情報や技術、コンテンツを準備する。(実技から裏方の技術まで)
- 7) 本などの依頼により、様々な地域の現場における身体活動の指導者に直接インタビューを行い、記事にまとめる。

評価

平常点60%、準備、調査、発表40%。その他議論の際の発言や、準備・発表に対する姿勢など総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度適宜提示する。

科目名	演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は卒業研究につながる科目である。卒業研究とは、自分でテーマを選んで目標を設定し、その目標に向けて自分で資料を探して読みこなし、目標を達成していくものである。その準備段階として自分の興味の方向性を定めていくことをこの科目の目的とする。

科目の概要

毎回ひとりの発表を行い、順に発表者を交代していく。テーマは自由に設定し、参考文献も自分で探す。基本的には口頭発表で、発表者以外のひとは質問ができるように要点を押さえながら聞く。

学修目標

1. 自分でテーマを設定し、必要な参考文献を探することができる。
2. 議論に参加できるような聞き方を身につける。
3. 他人が理解できるよう口頭で筋道をたてて話すことができる。

内容

- ・参考文献を読みこなし理解し、それを他人に伝えるプロセスを通じて、より深く理解を進めることができると期待される。
- ・発表後の議論から、新たな知見を得られることが期待される。
- ・テーマを設定できるよう普段からニュースなどに興味をもつ。
- ・図書館等で参考文献を探すことに慣れる。
- ・他人の発表を通して、自分の発表をより良いものにしていく。

評価

発表の状況、議論への参加度で評価する。60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】使用しない

【参考図書】教室で紹介する

科目名	演習		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース3年の必修科目

担当教員の専門である、国際コミュニケーションやトランスナショナル・ジャーナリズムについて、講義では詳しくできなかった部分を、ビデオ、インターネット、現地で蒐集した資料などを見せながら、より深く学んでいきます。最終的には、マスメディアと社会、文化の関係を理解して、マスメディアと賢く付き合えるための能力=メディア・リテラシーを身につけることができれば、と考えています。

内容

3年生の前半は「マスメディアやマスコミをどのようにすれば研究できるか」という方法論を身につけてもらいます。具体的なテレビ番組や新聞などを使いながら、グループで調べ、発表し、議論します。

3年生の後半からは基本文献の読み込みを中心に、ビデオ、時には映画などをみんなで見ながら、卒業論文のテーマを絞っていきます。

3年春学期：

新歓コンパ！

マスメディア研究の方法論

産業研究、ジャーナリスト研究、出し手研究(メディア組織論)、内容分析、受け手研究

夏合宿(伊豆?)

3年秋学期：

各自の関心に沿った基本文献の報告

卒論のテーマの検討

評価

ゼミでの発表、提出物など。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

『メディア用語基本事典』(世界思想社)

「情報化社会をめぐる諸相-国境を越えるコミュニケーションのインパクト」(共著、田中浩編著『現代思想とはなにか-近・現代350年を検証する』所収、P.216-232龍星出版、1996年)

「グローバル・ジャーナリズム」（共著、田村、林、大井編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』所収、p.178-195.世界思想社、2004年）

「“違い”に注目すると見えてくる - 比較研究の必要性と考え方」『テレビニュースの解剖学 - 映像時代のニュース・リテラシー』 p. 40-54. 小玉美意子編著（新曜社、2008年）

科目名	演習		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この演習は、ともテレビについて研究するものである。つまり、各ゼミ生はテレビが抱える様々な課題に対して自分なりの問題意識をもってテレビに向き合う=テレビを見ることから始まる。テレビが伝えるニュースや各種番組の視聴を通して、日本が、世界が、或いは地域社会が抱える様々な問題についても時事性意識をもって考える。

テレビはインターネットに追い上げられながらも、それが持つ影響力は依然として強い。そんな中、人々が真に必要なとする社会装置としての地位を維持し続けているのかは何故か。社会装置としてのテレビは「快適なもの」として受け入れられているか。テレビが提供する情報や番組は視聴者の疑問や批判にきちんと応えているか。テレビの娯楽番組は本当に人々に笑いや楽しみ、癒しをもたらしているか。テレビは豊かな生活に役立っているか。例えば、このような問題意識をもって日々のテレビを見ることから始まる。

各ゼミ生はテレビを通して感知した関心分野からそれぞれ研究テーマを選び出し、自分なりの「テレビ論」「ジャーナリズム論」等にまとめ上げ、最終学年での卒論執筆/制作につなげていく。

ただし、卒業論文、卒業制作は必ずしもテレビや放送、ジャーナリズムに直結したテーマでなくても可とする。テレビ(報道)を通して、世界や日本が抱える様々な問題に関心を持ち、それらを研究テーマとして取り組むことはむしろ歓迎するものである。

内容

とにかくテレビを見る。ただ漫然と見るのではなく、考えながら見る、見た後で考えることが重要である。「もし、自分が番組を作るディレクターだったら」「もし、現場に派遣されたレポーターだったら」どうする!、という仮説を立ててテレビを見る、そして考える、ということである。

22年度は中国残留孤児の問題をテーマにした番組を視聴して、「家族/親子のありよう」を考えたほか、現代で言うところの「やらせ」をテレビ草創期の番組はどのように扱っていたか、残虐な映像を取り込んだ番組、例えば戦争報道番組と放送番組基準との関係等について研究した。

23年度はゼミ生の関心分野や卒業後の希望進路等を踏まえて考える。

評価

各ゼミ生の取り組み、意見発表、レポートを総合判断して評価する。

取り組み+意見発表=60点、レポート=40点 計100点 60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書はない。参考図書は授業中に随時紹介する。

科目名	演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 ユニバーサルデザイン、ヒューマンインタフェースの分野について学ぶ。

科目の概要 コンピュータなどの道具よりも道具を使う人間を中心に考え、人間に優しい道具のデザインを考える。よりわかりやすく言うと、年齢、性別、障害の有無などに関わらず、日常の全ての道具を、使う人間にとって使いやすく、わかりやすい、学びやすい道具のデザインを考える。

学修目標 遊園地にいるかのように、人間が思わず使いたくなる楽しい道具のデザインにすることを狙う。単なる思い付きではなく、人間の心理過程の考察に基づき、道具のデザインについて提案ができることを狙う。

内容

1. 研究

各自が選択した研究テーマについて考察を進め、論文や試作品を作成する。

世の中には、使いにくい道具、わかりにくい表現があふれている。自分の興味のある道具や表現などを一つ選択し、そのテーマについて、人間の心理過程の考察を行ない、道具のデザインについて考える。学習、思考といった高次認知機能だけでなく、視聴覚機能、運動機能、まで含めて総合的な考察を行なう。

例えば、高齢者が情報機器の使い方を学習する場合に生じる問題、がある。

2. コミュニケーション

自分一人で自分の研究テーマについて考察を進めるだけでなく、他の学生の研究テーマの発表を聞いて、積極的にコメント、質問をして欲しい。それによって、他の学生の研究を促進させる、自分の研究を別の角度から考察するきっかけとして欲しい。

評価

提出してもらった論文で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に指示

科目名	演習		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習Ⅰに引き続き、演習Ⅱを通して各自興味のあるテーマを見つけ、4年次の卒業研究につながるようにします。

言語学の研究領域のうち、形態論、統語論、意味論、語用論を中心に基本的な文献を読むことに加え、資料を集め、整理・分析するといった作業を通して、ことばを科学的に分析する力を養います。

(i)形態論、統語論、意味論、語用論の基本的知識を身につける、(ii)資料を自分で集め、整理、分析できる、(iii)言語学の分野において基本的な論証の仕方を身につける

内容

基本文献の内容をレポーターが報告し、全員で問題点を検討するという形式で演習を行います。また、コーパスを使った資料の検索の方法、インフォーマントチェックの方法を実際の作業を通して身につけることも行いたいと思います。

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とします。

- (1) 期末レポート： 50%
- (2) 授業内での発表： 50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業内で指示します。

科目名	演習		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この演習では、日本語の変化やバリエーションなど言語研究を通しての専門的知識獲得と、社会に出てから必要とされる「自ら問題を発見し、解決する能力」を身につけることを目標とします。

方言調査旅行研修や新語流行語の収集分析など実際にフィールドワークを行いながら自ら発信できるオリジナルコンテンツ(就活での自己PRの内容)を作ります。Mind-Map思考法、プレゼンテーションなどPCを用いた技能も併せて身につけ、言語化、可視化の訓練を行います。自らの変化を希望しそれに向かって努力する学生をサポートし育てます。体験重視型自己成長促進ゼミを目指します。ゴールは「人としての素敵さの獲得!」です。

内容

- 第1回 自己分析と現状分析
- 第2回 言語研究とは何か
- 第3回 プレゼンテーション、レジメ、論文作成法
- 第4回 自己分析の実際
- 第5回 プレゼンテーション1
- 第6回 プレゼンテーション2
- 第7回 フィールドワーク方法論1
- 第8回 フィールドワーク計画
- 第9回 ライフビジョンとキャリアビジョン
- 第10回 調査データ分析法
- 第11回 目標設定と達成のための方法
- 第12回 研究計画作成1
- 第13回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成1
- 第14回 研究計画作成2
- 第15回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成2

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。
 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント(提出【基礎点】...1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A
 (4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中で指示します。

科目名	演習		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習Iで学んだ脳科学の基礎を土台に、自ら選んだテーマを掘り下げる。

内容

各自が卒業研究にむけてテーマを選び、発表、議論をしていきます。これによって、さらにテーマが具体的になる。これを後期にプレ卒業研究として提出します。

これまでのテーマを参考にあげておと、

1. 音楽と脳 癒しのメカニズム
2. くまのプーさんがカワイイわけ カワイイ感覚の脳科学
3. 香と記憶 香が感情に与える影響
4. 「色の心理的効果について」食における色の効果
5. 『脳は味をどう捉えるか』味覚の元を分析する
6. 子供の脳 感情のコントロール
7. 人格の形成 影響と変化
8. 潜在意識と顕在意識 言葉とイメージによる潜在能力の引き出し方
9. 脳と恋愛のメカニズム ---ひとはどう恋に落ちるか
10. 商品のイメージ作りとターゲット層
11. 記憶とは何か ワーキングメモリについて
12. 運動と脳 イメージングが運動に及ぼす影響について
13. 錯覚について
14. 作曲家の脳
15. 偽の記憶と冤罪

評価

テーマの具体性、完成度と研究の進捗状況によって。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各自のプリント

科目名	演習		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース専門必修科目。

言語音声やその習得・パーソナルコミュニケーションに関するについて自分なりの疑問・問題を発見し、仮説をたて、事実を観察したり実験を行ったりし、結論を出し、それを文章で表現することを通して、自分で思考する練習をする。

研究日誌を付ける習慣をつくる。

内容

もし言語音声に関連する科目である「ことばの心的メカニズムB, D」をまだ履修していなければ、演習Iと並行して履修してほしい。(今年度は、後期科目「ことばの心的メカニズムD」において、昨年度までの前期科目「ことばの心的メカニズムB」に近い内容を扱うので、ご注意のこと。)

本科目の研究内容を4年次の卒業研究へとつなげるために、演習Iに引き続いてゼミ研究日誌をつけ、それを使って学期末のレポートを作成する。

【3年次夏休み】：各自、自分の関心を第一に考えて、演習Iのレポートのテーマを考え、4年次の卒業研究の一部とるように心がける。自分の好きな事柄でないと卒業論文につながらないので、言語音声に関係ないテーマでもよい。テーマをきめるために、当然この時期の読書や取材・実験・調査も必要である。

【3年次後期】：ゼミ生の関心にできるだけ沿った書籍の一部分や論文を数点読む。ゼミ生はその都度研究日誌に書き足していく。研究日誌を使って、演習Iの最終レポートをつくる。これは、卒業研究論文の一部とすることが望ましい。

評価

最終レポートを60点、研究日誌を40点として、合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】川越 いつえ 著(2007)、『英語の音声科学』新装版、大修館書店

窪園 晴夫 著、西光 義弘 編(1998)、『音声学・音韻論(日英語対照による英語学演習シリーズ)』、くろしお出版

ジョン・カニソン キャットフォード 著、竹林 滋・設楽 優子・内田 洋子 訳(2006)、『実践音声学入門』、大修館書店

科目名	演習		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

優れた小説が面白いのはなぜでしょう。小説は人間を問題にします。ですから、小説を読む面白さとは、人生について、人間についての面白さです。わたしたちは一度の人生しか歩めません。そこでの経験は限られています。小説を読めば、自分以外の、まとまりのある個別的な人生を経験することができます。小説の中の人物の追体験をすることで、彼らと感情を共有し、人間についての知識を蓄え、彼らと同じように喜んだり、哀しんだりしながら、その完結した物語に感動するのです。虚構の世界での経験ではありますが、これが現実のわれわれに影響を与えないわけがありません。一冊の小説がその人の一生を決定づけることだって珍しくはありません。

小説家は社会の制約や既成の道徳にとらわれない、新しい人間像を示そうとします。常に人間の自由、解放を目指すからです。ですから小説は人生の新しい経験をわたしたちに与えてくれます。わたしたちの現実生活の中の不純物を取り除いたかたちで、そのエッセンスだけをわかりやすいかたちで与えてくれます。ところでこうした新しい人間像を示すには、人物造型に新しい描き方、新しい方法が必要になります。作家はこの新しい方法を見つけ出すことに精魂を傾けます。新しい人物像に新しい描き方がぴったり合ったときは、そこに調和のとれた美的世界が出現し、わたしたちは知的充足感とともに美的快感に酔うことができます。こうした小説の機能をイギリス小説で検討します。

内容

1. 19世紀以降のイギリス小説の流れを俯瞰します。
2. イギリス文学には優れた女流作家が多いが、男性原理の支配する社会の中で、家庭内を唯一の自己表現の場としていた女性たちが、いかにして自己に目覚め、魂の自由をもとめ、ついには自己実現の達成に至るのかを、オースティン、ブロンテ姉妹、ジョージ・エリオット等で検証します。
3. 20世紀のE・M・フォースター、D・H・ロレンス、ヴァージニア・ウルフ等とモダニズムの関係をとらえつつ、これらの作家によっていかなる新しい人間像が提示されているのかを考えます。
4. これらの作家を中心にしてその代表作を個別に取り上げ、作家の伝記的事実、作品鑑賞、評価の面から皆で論じ合います。この過程を通して卒業研究へと対象を絞り込むようにします。
5. 論文の書き方については、(1)そもそも論文とはどんなものが、(2)なぜ書くのか、(3)テーマはどうして選ぶのか、(4)作品をどう読むのか、(5)参考資料はどのように集め、利用するのか、(6)論文をどのような手順と形式で書くのか、などの観点から扱います。

評価

以下の割合で点数化し、60点以上を合格とします。

レポート提出：40%、発表：40%、授業への参加状況：20%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要に応じてプリントを配布します。参考図書は授業時間に随時指示します。

科目名	演習		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この授業は、社会情報学部コミュニケーション学科マスメディアコースの演習である。

「身体表現」を中心に「からだ」「こころ」「スポーツ」「健康」「表現」「生活」「身体活動」など様々なキーワードをもとに、「ダンス」から広い意味での「身体表現」までアプローチして行く。

科目の概要

直接身体活動を行ったり、DVDや舞台鑑賞をしたり、関連書籍を読み議論し合い、感性を養って行く。

後期の「演習II」となると、動き中心から、ワークショップ形式を多く取り入れ、ゼミ生自身で問題発見、解決を導くような手法をとるようにする。

学修目標

- 1) 卒業研究のための「素材」「種」を見つける
- 2) そのために、様々なアプローチを試みる
- 3) 卒業後の成長も見据え、一歩でも二歩でも今よりステップアップした女性を目指し、そのために何をすべきか、自ら考え、自己をプロデュースする能力を育てて行く

内容

- 1) 様々なキーワードをもとに、自らの卒業論文にすべきテーマを探す
- 2) 提示された本の中から、最も他のメンバーに紹介したい項目を提示し、その理由を説明する。
- 3) それをもとにゼミのメンバーで議論する。新しい考え方や、他者の考え方(場合によっては相容れないこともあること)を受け入れつつ、取捨選択できるようにする。
- 4) 様々なジャンルのダンスに挑戦
- 5) 発表場面における、身体表現活動の発表を企画段階からプロデュースし、必要な情報や技術、コンテンツを準備する。(実技から裏方の技術まで)この部分は少しウエイトが軽くなる。
- 6) 本などの依頼により、様々な地域の現場における身体活動の指導者に直接インタビューを行い、記事にまとめる。

評価

平常点60%、準備、調査、発表40%。その他議論の際の発言や、準備・発表に対する姿勢など総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度適宜提示する。

科目名	演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は卒業研究につながる科目である。卒業研究とは、自分でテーマを選んで目標を設定し、その目標に向けて自分で資料を探して読みこなし、目標を達成していくものである。その準備段階として自分の興味の方向性を定めていくことをこの科目の目的とする。

科目の概要

演習 に引き続き、毎回ひとりの発表を行っていく。テーマは演習 での発表と同じでも変えてもよい。前回の反省を生かしてよりよい発表を目指す。

学修目標

1. 自分でテーマを設定し、必要な参考文献を探することができる。
2. 議論に参加できるような聞き方を身につける。
3. 他人が理解できるよう口頭で筋道をたてて話すことができる。

内容

- ・人前での発表は、反省を生かしながら回数のある程度こなすことにより上達する。
- ・参考文献を読みこなし理解し、それを他人に伝えるプロセスを通じて、より深く理解を進めることができることを期待される。
- ・発表後の議論から、新たな知見を得られることが期待される。
- ・テーマを設定できるよう普段からニュースなどに興味をもつ。
- ・図書館等で参考文献を探すことに慣れる。
- ・他人の発表を通して、自分の発表をより良いものにしていく。

評価

発表の状況、議論への参加度で評価する。60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】使用しない

【参考図書】教室で紹介する

科目名	演習		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース3年の必修科目

担当教員の専門である、国際コミュニケーションやトランスナショナル・ジャーナリズムについて、講義では詳しくできなかった部分を、ビデオ、インターネット、現地で蒐集した資料などを見せながら、より深く学んでいきます。最終的には、マスメディアと社会、文化の関係を理解して、マスメディアと賢く付き合えるための能力=メディア・リテラシーを身につけることができれば、と考えています。

内容

3年生の前半は「マスメディアやマスコミをどのようにすれば研究できるか」という方法論を身につけてもらいます。具体的なテレビ番組や新聞などを使いながら、グループで調べ、発表し、議論します。

3年生の後半からは基本文献の読み込みを中心に、ビデオ、時には映画などをみんなで見ながら、卒業論文のテーマを絞っていきます。

3年春学期：

新歓コンパ！

マスメディア研究の方法論

産業研究、ジャーナリスト研究、出し手研究(メディア組織論)、内容分析、受け手研究

夏合宿(伊豆?)

3年秋学期：

各自の関心に沿った基本文献の報告

卒論のテーマの検討

評価

ゼミでの発表、提出物など。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

『メディア用語基本事典』(世界思想社)

「情報化社会をめぐる諸相-国境を越えるコミュニケーションのインパクト」(共著、田中浩編著『現代思想とはなにか-近・現代350年を検証する』所収、P.216-232龍星出版、1996年)

「グローバル・ジャーナリズム」（共著、田村、林、大井編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』所収、p.178-195.世界思想社、2004年）

「“違い”に注目すると見えてくる - 比較研究の必要性と考え方」『テレビニュースの解剖学 - 映像時代のニュース・リテラシー』 p. 40-54. 小玉美意子編著（新曜社、2008年）

科目名	卒業研究		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年次の演習、 の成果を踏まえて、卒業研究/卒業制作に結実させる。

内容

各自が卒業研究/卒業制作として扱うテーマは、4年次のスタートとともに確定させる。その上で、必要な素材の収集/分析を進め、執筆/制作にあたる。

評価

素材の質と量 = 20点、分析の視点と独自性/創造性 = 40点、論述の構成 = 20点、文章表現力/制作力 = 20点 計100点 60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書はない。参考図書/資料等は必要に応じて紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Hクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 ユニバーサルデザイン、ヒューマンインタフェースの分野について学ぶ。

科目の概要 コンピュータなどの道具よりも道具を使う人間を中心に考え、人間に優しい道具のデザインを考える。よりわかりやすく言うと、年齢、性別、障害の有無などに関わらず、日常の全ての道具を、使う人間にとって使いやすく、わかりやすい、学びやすい道具のデザインを考える。

学修目標 遊園地にいるかのように、人間が思わず使いたくなる楽しい道具のデザインにすることを狙う。単なる思い付きではなく、人間の心理過程の考察に基づき、道具のデザインについて提案ができることを狙う。

内容

1. 研究

各自が選択した研究テーマについて考察を進め、論文や試作品を作成する。

世の中には、使いにくい道具、わかりにくい表現があふれている。自分の興味のある道具や表現などを一つ選択し、そのテーマについて、人間の心理過程の考察を行ない、道具のデザインについて考える。学習、思考といった高次認知機能だけでなく、視聴覚機能、運動機能、まで含めて総合的な考察を行なう。

例えば、高齢者が情報機器の使い方を学習する場合に生じる問題、がある。

2. コミュニケーション

自分一人で自分の研究テーマについて考察を進めるだけでなく、他の学生の研究テーマの発表を聞いて、積極的にコメント、質問をして欲しい。それによって、他の学生の研究を促進させる、自分の研究を別の角度から考察するきっかけとして欲しい。

評価

提出してもらった論文で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に指示

科目名	卒業研究		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ことばの心的メカニズムA」、「演習I・II」の内容が基礎となります。

言語学の研究領域のうち、形態論、統語論、意味論、語用論を中心に、各自が興味を持った分野について、基本的な文献を読むことに加え、資料を集め、整理・分析するといった作業を通して、卒業論文の執筆を始めます。

(i)研究テーマの設定ができる、(ii)先行文献を批判的に読み、研究テーマの方向性を決める、(iii)先行文献の内容をまとめることができる。

内容

研究内容にかかわる先行研究を丁寧に読み、まとめるという作業を行ないます。

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とします。

- (1) 先行研究のまとめのレジュメ： 70%
- (2) 平常点（毎授業での発表）： 20%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各自の卒業研究のテーマに合わせて授業内で指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Jクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本語の変化やバリエーションなど言語研究を通しての専門的知識獲得と、社会に出てから必要とされる「自ら問題を発見し、解決する能力」を身につけることを目標とします。

卒業論文作成を行いながら自ら発信できるオリジナルコンテンツ(就活での自己PRの内容)の完成を目指します。Mind-Map思考法の発展、プレゼンテーションなどPCを用いた技能も併せて身につけ、言語化、可視化の訓練を行います。自らの変化を希望しそれに向かって努力する学生をサポートし育てます。体験重視型自己成長促進ゼミを目指します。ゴールは「人としての素敵さの獲得!」です。

内容

- 第1回 自己分析と現状分析
- 第2回 論文作成技法
- 第3回 卒論プレゼンテーション1
- 第4回 就活サポート1
- 第5回 卒論プレゼンテーション2
- 第6回 ゼミ共同プロジェクトフィールドワーク計画1
- 第7回 ゼミ共同プロジェクトフィールドワーク計画2
- 第8回 調査データ分析法1
- 第9回 調査データ分析法2
- 第10回 卒論プレゼンテーション3
- 第11回 共同プロジェクト準備1
- 第12回 共同プロジェクト準備2
- 第13回 ライフビジョン・キャリアビジョン完成
- 第14回 PC論文作成サポート
- 第15回 フィードバック

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問を含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント(提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S(4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Kクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は脳と脳内外コミュニケーションの演習です。呼吸することから始まり食事、運動、考える、話す、芸術活動に至まで私たちは「脳」に依存しています。そんな「脳」の働きは私たちの感情や心理とどのような関係にあるのでしょうか。脳の発達の側面から、多岐にわたる活動までを卒業研究ゼミでは演習します。

内容

各自が選んだテーマに沿って論文を書いていく。

1. 導入 （プレ卒業研究反省）
2. 論文の形式
3. 論文内容の検討
4. 引用に就いて
5. 参考文献の取り扱い
6. 他の研究領域との関係
7. インターネットからの引用の注意点
8. 下書き
9. 推敲方法
10. 比較検討
11. 誤字脱字の避け方
12. 論文の仕上げ
13. 首尾一貫性
14. 完成への注意点
15. まとめ

評価

月一度の校正によって判断。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各自の論文の校正

科目名	卒業研究		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース専門必修科目。

コミュニケーションについて自分なりの疑問・問題を発見し、仮説をたて、事実を観察したり実験を行ったりし、結論を出し、それを文章で表現することを通して、自分で思考する練習をする。

情報や考え方の出典の明記に特に注意する。

内容

3年次演習I, IIでは、英語の絵本(音声付きのもの)に注目した。ゼミ研究日誌の奨励・チェックができなかったので、早く卒業研究日誌の充実に努めてほしい。これまでの設楽ゼミ生の卒論の例は次の通り。

- * 映画『ハリーポッター』シリーズ
- * 海外ドラマ『24』
- * 日本の戯曲とその英訳の比較
- * 80年代、90年代、2000年代のテレビドラマのせりふに現れる日本語の男女差を終助詞に注目して分析した論文
- * 英語の同音異義語が聞き取り問題に与える影響を実験した論文

このような研究や、『ロミオとジュリエット』『オリバーツイスト』『キングコング』など、リメイク版のある映画作品を使って、新旧の発音が異なっているかどうかを調べるというのは卒論テーマの候補としていかがだろうか。

卒業研究の進捗状況のチェックは次のように行う。

- * 4年次4月～6月： 問題の分析、先行研究の分析、問題の修正、仮説の明確化、
観察・実験の計画
- * 4年次7月～10月： 観察・実験・取材
- * 4年次11月～12月初旬： 文章化・添削

卒業論文執筆・就職活動・内定先研修・卒業旅行などの時間配分を計画的に行っていただきたい。他大学で卒業研究が選択制などところも多いため、就職内定企業が卒業論文執筆時期に研修を勤めることがあるので、執筆時間を確保することには特に注意していただきたい。

評価

卒業研究ノートの評価を60点、卒業研究論文(作品制作)(執筆・制作中)の評価を40点とし、計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考書】「ことばの心的メカニズムB・D」、「演習II」の教科書・推薦書等を参照のこと。

科目名	卒業研究		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

英米文学、児童文学、欧米文化、英語研究、それぞれの研究テーマを3年次の演習から発展させ、卒業研究としてまとめます。

内容

毎週ゼミでそれぞれの論文の進捗状況を報告し、他学生と意見交換します。必要があれば個別指導を受け、論文の軌道修正をしながら卒業研究の完成を目指します。

評価

以下の割合で点数化し、60点以上を合格とします。

卒業研究の成果：80%、レポート提出、発表：20%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要に応じてプリントを配布します。参考図書は随時、個別的に指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

身体表現ゼミであるが、ダンスにとらわれず身体活動を通して人間のあらゆる角度から幅広く表現することの意味、実践することの意義に焦点をあて、各人が興味を持って調べ、4年間の集大成として卒業研究をまとめる。

内容

自分の興味のあることを楽しみながら調べ、知識を深めていくことが重要である。前期はそのための知識や情報を収集する期間として、各自の参考文献や共通な文献の読み合い、意見の出し合いなどしながら各自の考え方を固めていくことも同時に行っていく。

1. 研究テーマの設定
2. 研究計画作成(卒業研究提出日までの内容計画、中間発表、研究発表)
3. テーマに応じ、文献等を活用し取り組む
4. 卒業研究発表(全て仮題) (ゼミ関係2・3年生に呼びかける)

(以下は、平成22年度の卒研課題例)

ライフスタイルにおけるカフェの位置づけ～ホスピタリティをキーワードとして～

内側からの美しさを目指すダンス? ダンスで内側から外側まで美しく?

ファッションジャンルと判別について? 女子大学生が持つ系統のイメージ?

舞台と映像の共通と相違? 演技は人を変える?

オタク腐女子のボーイズラブライフ～彼女たちの生態と心理分析～

新体操の今～今後の可能性に向けて～

評価

準備状況等 50% 卒業研究内容 50% その他桐華祭参加状況、その他ゼミイベント参加状況、下級生教育等 総合的に評価する

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜指示する

科目名	卒業研究		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は卒業論文、または卒業制作を行っていく科目である。卒業研究とは、自分でテーマを選んで目標を設定し、その目標に向けて自分で資料を探して読みこなし、目標を達成していくものである。これまでの4年間で学習したことを十分に生かすことが期待される。

科目の概要

卒業論文には提出締切が存在する。年間でスケジュールをたて、目標設定から調査、章立て、執筆と計画的に行う。当然推敲する時間も必要である。

学修目標

1. 自分でテーマを設定し、必要な参考文献を探することができる。
2. 計画的に卒業論文を書き進めることができる。
3. 卒業論文はその体裁に則って作成する。
4. 少なくとも章立てまでは完了する。

内容

- ・漠然としたテーマでなく、どこまでを明らかにするのか明確な目標を設定する。
- ・できれば仮説をたてる。その仮説に関して調査を進めることが望ましい。
- ・様々な文献を調査して、客観性の高い結論を導く。
- ・論文の体裁を理解して、それに則って書く。
- ・少し期間を空けて推敲できるようにする。

評価

卒業論文または卒業制作への取り組みを評価する。60%以上で合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】使用しない

【参考図書】教室で紹介する

科目名	卒業研究		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究を完成させる中で、自分の企画力、計画性、行動力、構成力、克己心などを向上させます。

内容

各人の研究成果の進捗状況を報告し、指導を受けます。

評価

プレゼン内容(70%)および討論内容(30%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

『メディア用語基本事典』(世界思想社)

「情報化社会をめぐる諸相 - 国境を越えるコミュニケーションのインパクト」(共著、田中浩編著『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』所収、P.216-232龍星出版、1996年)

「グローバル・ジャーナリズム」(共著、田村、林、大井編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』所収、p.178-195.世界思想社、2004年)

「“違い”に注目すると見えてくる - 比較研究の必要性と考え方」『テレビニュースの解剖学 - 映像時代のニュース・リテラシー』 p. 40-54. 小玉美意子編著(新曜社、2008年)

科目名	卒業研究		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年次の演習、 の成果を踏まえて、卒業研究/卒業制作に結実させる。

内容

各自が卒業研究/卒業制作として扱うテーマは、4年次のスタートとともに確定させる。その上で、必要な素材の収集/分析を進め、執筆/制作にあたる。

評価

素材の質と量 = 20点、分析の視点と独自性/創造性 = 40点、論述の構成 = 20点、文章表現力/制作力 = 20点 計100点 60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書はない。参考図書/資料等は必要に応じて紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 ユニバーサルデザイン、ヒューマンインタフェースの分野について学ぶ。

科目の概要 コンピュータなどの道具よりも道具を使う人間を中心に考え、人間に優しい道具のデザインを考える。よりわかりやすく言うと、年齢、性別、障害の有無などに関わらず、日常の全ての道具を、使う人間にとって使いやすく、わかりやすい、学びやすい道具のデザインを考える。

学修目標 遊園地にいるかのように、人間が思わず使いたくなる楽しい道具のデザインにすることを狙う。単なる思い付きではなく、人間の心理過程の考察に基づき、道具のデザインについて提案ができることを狙う。

内容

1. 研究

各自が選択した研究テーマについて考察を進め、論文や試作品を作成する。

世の中には、使いにくい道具、わかりにくい表現があふれている。自分の興味のある道具や表現などを一つ選択し、そのテーマについて、人間の心理過程の考察を行ない、道具のデザインについて考える。学習、思考といった高次認知機能だけでなく、視聴覚機能、運動機能、まで含めて総合的な考察を行なう。

例えば、高齢者が情報機器の使い方を学習する場合に生じる問題、がある。

2. コミュニケーション

自分一人で自分の研究テーマについて考察を進めるだけでなく、他の学生の研究テーマの発表を聞いて、積極的にコメント、質問をして欲しい。それによって、他の学生の研究を促進させる、自分の研究を別の角度から考察するきっかけとして欲しい。

評価

提出してもらった論文で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に指示

科目名	卒業研究		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究Iで学んだことを発展させ、各自の選んだテーマに沿った卒業論文の指導を行います。

(i)研究テーマに沿った資料を自分の手で集めることができる、(ii)集めた資料を分析し、自分なりの主張を論じることができる。

内容

卒研究に向けて、テーマの立て方、参考資料などの文献検索の方法、卒業論文の書き方などを指導します。卒業研究では、学生各自のテーマを設定し、それに添った形で発表をしてもらいます。毎週、それを添削します。積極的な授業参加が望まれます。

評価

平常点(40%)、卒業論文(60%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各自の卒業研究のテーマに合わせて授業内で指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本語の変化やバリエーションなど言語研究を通しての専門的知識獲得と、社会に出てから必要とされる「自ら問題を発見し、解決する能力」を身につけることを目標とします。

卒業論文作成を行いながら自ら発信できるオリジナルコンテンツ(就活での自己PRの内容)の完成を目指します。Mind-Map思考法の発展、プレゼンテーションなどPCを用いた技能も併せて身につけ、言語化、可視化の訓練を行います。自らの変化を希望しそれに向かって努力する学生をサポートし育てます。体験重視型自己成長促進ゼミを目指します。ゴールは「人としての素敵さの獲得!」です。

内容

- 第1回 自己分析と現状分析
- 第2回 論文作成技法
- 第3回 卒論プレゼンテーション1
- 第4回 就活サポート1
- 第5回 卒論プレゼンテーション2
- 第6回 ゼミ共同プロジェクトフィールドワーク計画1
- 第7回 ゼミ共同プロジェクトフィールドワーク計画2
- 第8回 調査データ分析法1
- 第9回 調査データ分析法2
- 第10回 卒論プレゼンテーション3
- 第11回 共同プロジェクト準備1
- 第12回 共同プロジェクト準備2
- 第13回 ライフビジョン・キャリアビジョン完成
- 第14回 PC論文作成サポート
- 第15回 フィードバック

評価

- 卒業研究中間発表提出...50%
- 卒業研究最終提出・発表...50%
- 60点以上合格

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示

科目名	卒業研究		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は脳と脳内外コミュニケーションの演習です。呼吸することから始まり食事、運動、考える、話す、芸術活動に至まで私たちは「脳」に依存しています。そんな「脳」の働きは私たちの感情や心理とどのような関係にあるのでしょうか。脳の発達の側面から、多岐にわたる活動までを卒業研究ゼミでは演習します。

内容

各自が選んだテーマに沿って論文を仕上げていく。

1. 前期の論文の検討
2. 論文の形式の検討
3. 論文内容の検討
4. 引用について校閲
5. 参考文献の取り扱い検討
6. 他の研究領域との関係を検討
7. インターネットからの引用の検討
8. 下書きの兼用
9. 推敲方法を検討
10. 比較検討
11. 誤字脱字の検討
12. 論文の完成度の検討
13. 首尾一貫性お検証
14. 完成への注意点
15. まとめ

評価

論文を、語彙の選択、論理性、首尾一貫性、説得力、の点から検討し評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各自の論文の種類によって推薦図書は異なるので指導ごとに推薦する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース専門必修科目。

コミュニケーションについて自分なりの疑問・問題を発見し、仮説をたて、事実を観察したり実験を行ったりし、結論を出し、それを文章で表現することを通して、自分で思考する練習をする。

情報や考え方の出典の明記に特に注意する。

内容

3年次演習I, IIでは、英語の絵本(音声付きのもの)に注目した。ゼミ研究日誌の奨励・チェックができなかったので、早く卒業研究日誌の充実に努めてほしい。これまでの設楽ゼミ生の卒論の例は次の通り。

- * 映画『ハリーポッター』シリーズ
- * 海外ドラマ『24』
- * 日本の戯曲とその英訳の比較
- * 80年代、90年代、2000年代のテレビドラマのせりふに現れる日本語の男女差を終助詞に注目して分析した論文
- * 英語の同音異義語が聞き取り問題に与える影響を実験した論文

このような研究や、『ロミオとジュリエット』『オリバーツイスト』『キングコング』など、リメイク版のある映画作品を使って、新旧の発音が異なっているかどうかを調べるといのは卒論テーマの候補としていかがだろうか。

卒業研究の進捗状況のチェックは次のように行う。

- * 4年次7月～10月： 問題の分析、先行研究の分析、問題の修正、仮説の明確化、
観察・実験・取材
- * 4年次11月～12月初旬： 文章化・添削

卒業論文執筆・就職活動・内定先研修・卒業旅行などの時間配分を計画的に行っていただきたい。他大学で卒業研究が選択制なところも多いため、就職内定企業が卒業論文執筆時期に研修を勤めることがあるので、執筆時間を確保することには特に注意していただきたい。

評価

卒業研究日誌の評価を40点、卒業研究論文(作品制作)の評価を60点とし、計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考書】「ことばの心的メカニズムB・D」、「演習II」の教科書・推薦書等を参照のこと。

科目名	卒業研究		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

英米文学、児童文学、欧米文化、英語研究、それぞれの研究テーマを3年次の演習から発展させ、卒業研究としてまとめます。

内容

毎週ゼミでそれぞれの論文の進捗状況を報告し、他学生と意見交換します。必要があれば個別指導を受け、論文の軌道修正をしながら卒業研究の完成を目指します。

評価

以下の割合で点数化し、60点以上を合格とします。

卒業研究の成果：80%、レポート提出、発表：20%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要に応じてプリントを配布します。参考図書は随時、個別的に指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

身体表現ゼミであるが、ダンスにとらわれず身体活動を通して人間のあらゆる角度から幅広く表現することの意味、実践することの意義に焦点をあて、各人が興味を持って調べ、4年間の集大成として卒業研究をまとめる。

内容

自分の興味のあることを楽しみながら調べ、知識を深めていくことが重要である。

1. 研究テーマの設定
2. 研究計画作成(卒業研究提出日までの内容計画、中間発表、研究発表)
3. テーマに応じ、文献等を活用し取り組む
4. 卒業研究発表 (ゼミ関係2・3年生に呼びかける)

評価

準備状況等 50% 卒業研究内容 50% その他ポスター発表参加、卒研発表会参加等 総合的に評価する

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜指示する

科目名	卒業研究		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は卒業論文、または卒業制作を行っていく科目である。卒業研究とは、自分でテーマを選んで目標を設定し、その目標に向けて自分で資料を探して読みこなし、目標を達成していくものである。これまでの4年間で学習したことを十分に生かすことが期待される。

科目の概要

卒業論文には提出締切が存在する。年間でスケジュールをたて、目標設定から調査、章立て、執筆と計画的に行う。当然推敲する時間も必要である。

学修目標

1. 自分でテーマを設定し、必要な参考文献を探することができる。
2. 計画的に卒業論文を書き進めることができる。
3. 卒業論文はその体裁に則って作成する。

内容

- ・漠然としたテーマでなく、どこまでを明らかにするのか明確な目標を設定する。
- ・できれば仮説をたてる。その仮説に関して調査を進めることが望ましい。
- ・様々な文献を調査して、客観性の高い結論を導く。
- ・論文の体裁を理解して、それに則って書く。
- ・少し期間を空けて推敲できるようにする。

評価

卒業論文または卒業制作への取り組みと、提出された作品を評価する。60%以上で合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】使用しない

【参考図書】教室で紹介する

科目名	卒業研究		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究を完成させる中で、自分の企画力、計画性、行動力、構成力、克己心などを向上させます。

内容

各人の研究成果の進捗状況を報告し、指導を受けます。

評価

プレゼン内容(70%)および討論内容(30%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

『メディア用語基本事典』(世界思想社)

「情報化社会をめぐる諸相 - 国境を越えるコミュニケーションのインパクト」(共著、田中浩編著『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』所収、P.216-232龍星出版、1996年)

「グローバル・ジャーナリズム」(共著、田村、林、大井編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』所収、p.178-195.世界思想社、2004年)

「“違い”に注目すると見えてくる - 比較研究の必要性と考え方」『テレビニュースの解剖学 - 映像時代のニュース・リテラシー』 p. 40-54. 小玉美意子編著(新曜社、2008年)

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	岡本 卓、阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディア業界は今、各メディアが提供する情報の濃密度や信頼性が問われ、生き残りをかけた競争がメディア間で激しくなっている。一方、情報の受け手である我々現代人は、超情報化社会を生き抜くためにも、マスメディア業界の現実(実態)を知り、いわゆるメディアリテラシーを身につける必要に迫られている。この意味で、科目の性格はマスメディア入門といった性格を持つ。

入門する一つの道は、新聞、放送、出版、インターネット、広告等々の各業界が今日の社会でどのように機能しているかを知ることから始まる。また、特にマスメディア業界は人的資源が財産である。いかに可能性を秘めた有能な人材をそろえるかが業界での勝ち負け、生き残りを左右する。この意味でマスメディア業界がどのような人材を求めているのか、その内部事情を知ることが不可欠である。

授業は、マスメディア業界への就職最前線事情に詳しい専門家を中心にして、業界の現状と将来に向けた最新情報を提供する「傾向と対策」の場であり、マスメディア業界への就職活動を支援するものである。受講生は本科目をただ受講するのではなく、自分の日常生活において積極的に新聞、雑誌を読み、様々なテレビ番組を視聴することを半ば習慣化することが不可欠である。

内容

15回の授業内容は以下のとおりである。

- 1) ガイダンス・・・マスコミ業界の概要(新聞、放送、出版を中心に)
- 2) マスコミ業界の心得・・・メディア人としての義務と使命感
- 3) 報道(新聞)の変遷・・・新聞創刊期から現代までの歴史的諸問題
- 4) 報道(出版)の変遷・・・週刊誌創刊期からクラス系雑誌誕生まで
- 5) 報道(放送)の変遷・・・放送事業局開局から地デジへの展開と発展
- 6) 女性誌ファッション・・・ローティーン誌からヤング誌トレンド考
- 7) 女性誌クラス系分析・・・キャリア誌からシニア実用誌トレンド考
- 8) 広告媒体戦略とIT・・・ライブ感と市場マーケティング感覚養成
- 9) 芸能音楽業界の興亡・・・欧米と日本のショービジネス対比と連動
- 10) 書籍文藝とコミック・・・著作権とコンテンツビジネスの世界発信
- 11) マスコミ前期模擬試験・・・原稿&口頭試問TEST
- 12) 自己PRとES対策・・・自分史を具体的に文字と五感で表現する
- 13) 時事SPI筆記対策・・・新聞・放送・雑誌各媒体の相違と着眼点
- 14) 面接試験の最新動向・・・入社試験の最新動向と私服面接重点対策
- 15) マスコミ前期模擬試験・・・筆記&口頭試問TEST

評価

試験60点 + 授業中の発表40点 = 100点 60点以上が合格

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書、参考情報は随時、授業中に紹介する。

注意：本授業は、新聞・出版（書籍/雑誌）・放送（テレビ/ラジオ/番組制作会社）・インターネット・映画・音楽・広告など、いわゆるマスコミ業界への進出（=就職）を本気で目指している学生を対象に行うものである。マスコミの就職試験を受けることを（まったく）考えていない学生は受講対象とはしないので留意すること。

科目名	映像女性論		
担当教員名	松本 侑壬子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

映画は楽しい娯楽であると同時に、巨額の制作費をかけたイメージ商品であり、その時代や社会の欲求の反映です。また人の心に直接に訴えかける強力なメディアであり、高度な総合芸術でもあります。映画を手がかりに社会と人間関係のあり方をジェンダーの視点で考えてみましょう。

19世紀末の映画の誕生から1世紀余の歴史の中で、女性の登場しない映画はごく稀(まれ)です。スクリーン上のヒロインは長い間理想の女性イメージとして描かれ、それは時代とともに変わってきたのです。改めて“作られた女の理想像”を見直し、時代背景との関係を考察します。

前期(1)は、ヒロイン像の変遷。映画史とからめながらスクリーンに描かれる女性像の変遷を中心に、パワーポイントを使って分かりやすく講義します。映画をジェンダーの視点から主体的に見る基礎的な力(メディア・リテラシー)をつけることを目指します。

この授業は、学年、学部・学科を問わず広く受講可能です。ただし、私語は厳禁。授業妨害とみなし、即刻退室を求めます。

内容

1. 映画の誕生とその時代 “動く画像”への挑戦、エジソンの発明、リュミエール兄弟のシネマトグラフへ。
2. 世界初の女性監督は23歳のパリジェンヌだった 映画黎明期の女性映画人たち。
3. ヒロイン像の変遷 ハリウッドの成り立ちと“夢の工場”で形成される“女の理想像”
4. ヒロイン像の変遷 “アメリカ映画の父”とグリフィス・ガールズ
5. ヒロイン像の変遷 最初の女優たち 対照的なハリウッド映画と日本映画
6. ヒロイン像の変遷 ヒロイン3条件は永遠か?
7. ヒロイン像の変遷 サイレントからトーキーへ 変わるスターの条件
8. ヒロイン像の変遷 “女らしさ”は作られる セックス・シンボルの系譜。
9. アニメのヒロインたち 白雪姫からポニョまで
ディズニーの歴史と白雪姫が表象するもの—その光と影
スタジオ・ジブリ作品の女性像について
10. 女性解放運動と新女性映画
11. CG時代の女性像は?—強く、賢く、美しいアクションウーマンたち
12. アカデミー賞 歴史と仕組み、受賞作品をジェンダーの視点で検討する。
13. まとめ

授業では、映画評論家である本講師による最新映画情報など新鮮な映画の話題も随時取り上げる。

評価

授業に対する意欲・関心・態度およびレポート40点、ペーパーテスト60点により評価を行ない、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特になし。必要に応じて適切なものを紹介、資料配布する。

【推薦書】井上一馬著『アメリカ映画の大教科書』（上・下）（新潮社）778.253/1/1-2

北野圭介著『ハリウッド100年史講義』（平凡社）778.253/K

松本侑壬子著『シネマ女性学』（論創社）778.04/M

エマニュエル・レヴィ著、浜口幸一訳『アカデミー賞全史』（文芸春秋）778.253/L

シネマライブラリー 別冊女性情報「女性監督映画がおもしろい」2004年版（パド・ウィメ

ンズ・オフィス）、同上 2005年版（同）、同上 「女性映画がおもしろい」2006年版

（同）、同 ・2007年版（同）、同上 ・2008年版（同）、同上 ・2009年版（同）、

同上

・20210年版

科目名	映像女性論		
担当教員名	松本 侑壬子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

後期は、できれば前期の()の授業を受けておいた方がより分かりやすいですが、この授業だけでも理解はできるように講義を進めます。

映画を手がかりに社会と人間関係のあり方をジェンダーの視点で考えること、実際の作品を手がかりに映画を主体的に見る基礎的な力(メディア・リテラシー)をつけるよう目指すのも前期と同様です。

後期は、比較的新しい作品を素材に“女らしさ”“男らしさ”の「性の境界線」を超える主人公たちに焦点を当ててジェンダーフリーな生き方とは、を考えます。

また、世界的に女性の映画産業界への進出が著しい中で、映画の作り手の中心となる女性監督たちについて学びます。とりわけ、これまで見過ごされ勝ちだった日本の女性監督たちの活躍に注目し、その人と作品を通して映画を身近なものとして理解することを目指します。時には現役の女性監督を招き、生きた映画製作の話をお聞きしましょう。

この授業は、学年配当1・2年となっていますが、実際には学年、学部・学科あるいはコースを問わず広く受講可能です。また、社会人の方々にも開講しています。

内容

1. 映画におけるジェンダー問題とは何か “女性映画”というけれど。
2. “性の越境者たち”...異装の人々とその運命
 - 女装 仮説1: 男が女装すると、たいていは喜劇になる
 - 女装-仮説2: 内的欲求からの女装は、しばしばシリアスになる
 - 男装 仮説3: 女が男装すると、たいていは悲劇になる
3. 女の男装ファンタジー 時空を超えるオルランド。漫画・アニメ・舞台・小説から。
4. 世界の女性監督たち
 - 世界初の女性監督は23歳のパリジェンヌ アリス・ギーの仕事と生涯
 - ヒトラーと3人のドイツ女性映画人
 - 女性監督ならではの”目” 米・加・旧ソ連の3作品
 - やっと出た! ハリウッド初のアカデミー賞受賞女性監督
5. 日本の女性監督たち
 - 初期の二人。第1号は”男装の麗人”。第2号は、大女優で6本も撮った!
 - 女性に険しい監督への道を自分ならではのやり方で切り開いた3人のわが道
 - 上り坂の日本映画。いま、最も輝いている旬の女性監督たち
6. まとめと展望

評価

授業に対する意欲・関心・態度およびレポート40点、ペーパーテスト60点により評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】特になし。必要に応じて適切なものを紹介、資料配布する。

【推薦書】吉田・林・松本ら共著『女性監督映画の全貌』（パド・ウィメンズ・オフィス）R778.2/J

佐藤忠男著『日本映画史』（岩波書店）（ - ）778.21/S/1-4

松本侑壬子著『映画をつくった女たち 女性監督の100年』（シネマハウス）778.28/M

羽田澄子著『映画と私』（晶文社）778.21/H

浜野佐知著『女が映画を作るとき』（平凡社）778.04/

松井久子著『ターニングポイント』（講談社）

科目名	児童文学論 B		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース・表現文化群 に属する、学科専門の選択科目です。

児童文学とよばれる作品は、昔話などの口承文芸と、歴史的にも、また作品の構造としても深い関わりを持っています。この授業では、まず口承文芸の話形と機能について理解したうえで、それが児童文学作品とどう関わるかについて考察し、児童文学とは何かをあわせて考えます。関連した昔話などの口承文芸や児童文学作品、参考文献を授業時間以外に読む意欲を持って受講してください。

口承文芸に関する基礎知識を習得し、児童文学と口承文芸の関係を理解することが学修の目標です。

内容

- (1) 児童文学と口承文芸
- (2) 児童文学の定義
- (3) お伽噺・童話・昔話
- (4) 柳田国男の昔話研究
- (5) 伝承の構造と話型
- (6) 異界訪問譚
- (7) 異類婚姻譚
- (8) 継子いじめ譚
- (9) 昔話「桃太郎」の変容
- (10) 日本神話と教科書
- (11) 異形のモノと子ども
- (12) 動物・怪獣・妖怪
- (13) 児童文学と民俗的想像力
- (14) 児童文学とアニメ
- (15) まとめ

講義の内容・順序は必要に応じて変更することがあります。

評価

期末レポート7割、授業時の小レポートや提出物など3割の配分で評価します。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は指定しません。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。関連した昔話などの口承文芸や児童文学作品、参考文献を授業時間以外に積極的に読むようにしてください。

科目名	児童文学論C		
担当教員名	佐藤 里野		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、科目分類マスメディアコース表現文化群 中の選択科目であり、現代の英語圏児童文学を、歴史的、社会的背景と関連付けつつ概観する。

授業では、アメリカ及びイギリスを中心とした児童文学を、年代順に扱う。主要な作家・作品の紹介だけでなく、歴史的、社会的な位置付け、及び現代社会における受容のあり方にいたるまで、多角的に考察する。

学修目標は以下の3点である。

1. 英語圏の児童文学史の概要(作家・作品)を理解する。
2. 歴史的・社会的諸条件における児童文学の位置付けを理解する。
3. さまざまな資料から、児童文学を多角的に考察する視野を学ぶ。

内容

1	イントロダクション
2	19世紀イギリス ルイス・キャロル "Alice's Adventures in Wonderland" 他
3	19世紀アメリカ(1) ルイザ・メイ・オルコット "Little Women" 他
4	19世紀アメリカ(2) マーク・トウェイン "The Adventures of Tom Sawyer" 他
5	20世紀イギリス(1) ピアトリクス・ポター "The Tale of Peter Rabbit" 他
6	20世紀イギリス(2) J.R.R.トールキン "The Hobbit; or, There and Back Again" 他
7	20世紀アメリカ(1) ライマン・フランク・ボーム "The Wonderful Wizard of Oz" 他
8	20世紀アメリカ(2) フランシス・ホジソン・パーネット "The Secret Garden" 他
9	20世紀アメリカ(3) ローラ・インガルス・ワイルダー "Little House on the Praire" 他
10	20世紀イギリス(3) C.S.ルイス "The Lion, the Witch and the Wardrobe"他
11	20世紀イギリス(4) メアリー・ノートン "The Borrowers" 他
12	20世紀イギリス(5) フィリパ・ピアス "Tom's Midnight Garden" 他
13	20世紀アメリカ (4) E.B.ホワイト "Charlotte's Web" 他
14	20世紀アメリカ (5) モーリス・センダック "Where the Wild Things Are" 他
15	まとめ

評価

期末テスト(60%)、授業態度(10%)、提出物(30%)で評価し、60点以上を合格とする。

試験や課題は、日本語で実施する。また、全授業の2/3以上出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】プリントを配布する。

【参考書】桂宥子・牟田おりえ 編著 『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房、2004年
その他、授業で適宜紹介する。